

# 令和4年度実施「四万十川流域住民意識調査」結果の概要

## 1 調査目的

「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」の目的の達成状況を把握し、進行管理を行うことを目的とする。

## 2 調査内容

対象者：四万十川流域5市町18歳以上の者 1,000人を抽出（層化抽出法）

調査期間：令和4年10月5日～令和5年1月25日 回収率：48.4%（前回調査：47.4%）

## 1 全体総括

### ○「暮らしの中で身近に四万十川と関わり、居住地域に愛着を持って生活している流域住民の姿」

- ・ 回答者の半数以上が川に出かける
- ・ 8割を超える回答者が地域に住み続けたいと思っている。  
(生活の満足度は前回調査とほぼ横ばい)



一方、環境を守る行動や意欲は減少  
生活の満足度は【仕事】【交通や防災】を  
中心に満足度が低い傾向が続く

#### 【主な項目の推移】

	H29	R4
○ 川との関わり	47.9%	→55.7%
○ 居住意思	86.8%	→87.3%
○ 生活の満足度	68.6%	→67.9%

#### 【主な項目の推移】

	H29	R4
○ 環境を守る行動や意欲	65.2%	→62.5%
○ 生活の満足度		
・ 失業の不安	16.8%	→16.3%
・ 地位や収入	8.0%	→6.5%
・ 通勤・通学・通院	20.9%	→19.7%
・ 公共交通機関	16.0%	→11.4%
(20代以下の満足度は通勤等を除き0%)		

環境を守る行動や意欲は前回調査から減少

生活の満足度の個別項目では、以下の項目が低い傾向（特に若年層）

- ・ 収入や雇用といった仕事面
- ・ 通勤・通学・通院の快適性
- ・ 公共交通機関の利便性

### ○「河川環境の変化」について、悪くなったと感じている

四万十川の環境や景観等の変化：どちらともいえないが多数を占めるものの

- ・ 水量・清流：悪くなったと感じる割合が多い
- ・ 水生動植物の生息・生育：悪くなったと感じる割合が多い  
(季節ごとの優れた景観は良くなったと感じる割合が多い)

主な項目	良くなった	どちらともいえない	悪くなった
水量・水質	15.0%	41.9%	43.1%
水生動植物	11.2%	45.6%	43.2%
優れた景観	31.1%	53.5%	15.4%

## 2 求められる取組の内容

- ・ 文化的な景観や自然環境の保全活動の強化、情報発信
- ・ 環境学習の推進、情報発信
- ・ 公共事業での生態系・景観保全への配慮

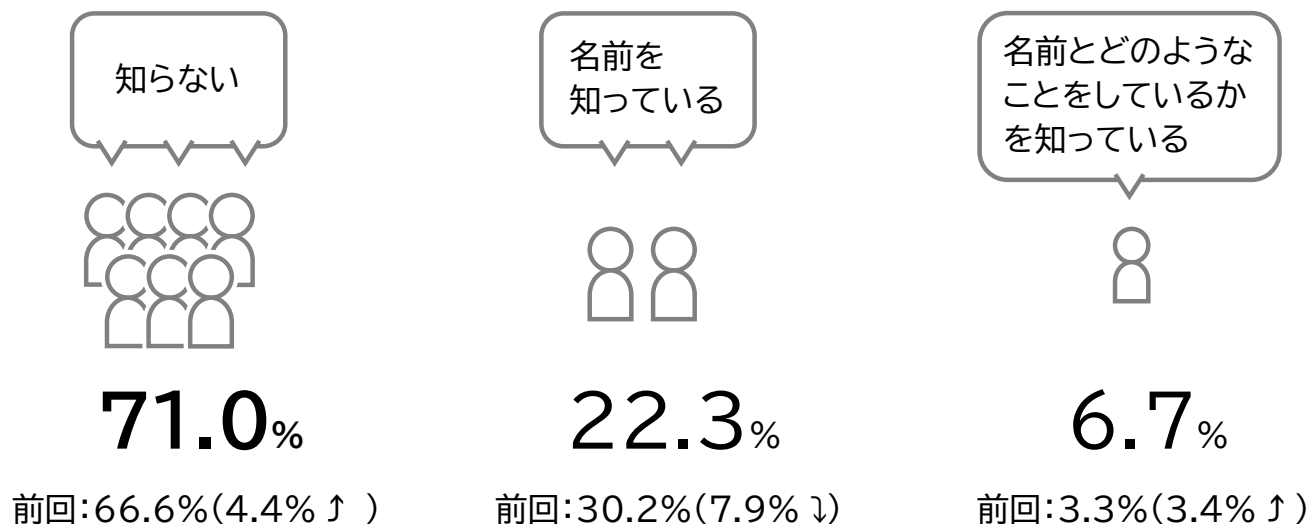
約9割が  
必要と回答

- ・ 文化的景観の保全と活用、環境保全活動への多様な主体の参加促進
- ・ 景観・環境の変化に対するモニタリングと情報発信の強化
- ・ 更なる環境学習の拡充
- ・ 「沈下橋保全方針」「環境配慮指針」の周知徹底・遵守

# 1. 四万十川の保全に対する取組

問1 「公益財団四万十川財団」という組織をご存知ですか。(1つだけ○印)

⇒ 7割が四万十川財団を「知らない」と回答し、前回調査(H29)と比べて増加



## 【居住地別】

- 中流域で知名度(「名前を知っている」+「名前をどのようなことをしているか知っている」)が高かった。
- 認知度(「名前とどのようなことをしているか知っている」)については、旧窪川町※が高かった。

※ 四万十川財団所在地

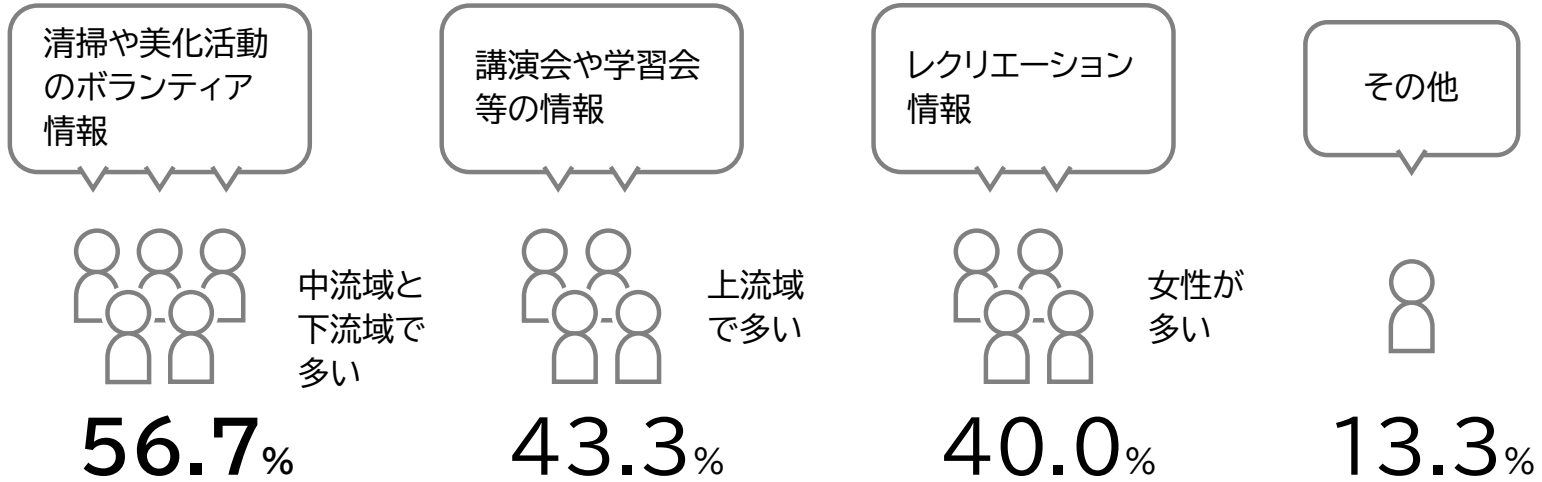
四万十川財団の知名度・認知度		知らない	名前 (A)	名前と活動内容 (B)	知名度 (A+B)
上流域	檮原町	75.9 %	17.2 %	6.9 %	24.1 %
	旧東津野町	63.6 %	27.3 %	9.1 %	36.4 %
	旧大野見村	42.9 %	57.1 %	0.0 %	57.1 %
中流域	旧窪川町	57.3 %	31.7 %	11.0 %	42.7 %
	旧大正町	37.5 %	62.5 %	0.0 %	62.5 %
	旧十和村	57.9 %	36.8 %	5.3 %	42.1 %
下流域	旧西土佐村	75.0 %	15.0 %	10.0 %	25.0 %
	旧中村市	78.3 %	15.9 %	5.8 %	21.7 %

1位:

2位:

問2 四万十川について、「公益財団四万十川財団」に情報発信してほしい内容（あてはまるもの全てに○印・対象:問1で「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた人）

⇒ 一番多かったのは、「清掃や美化活動のボランティア情報」

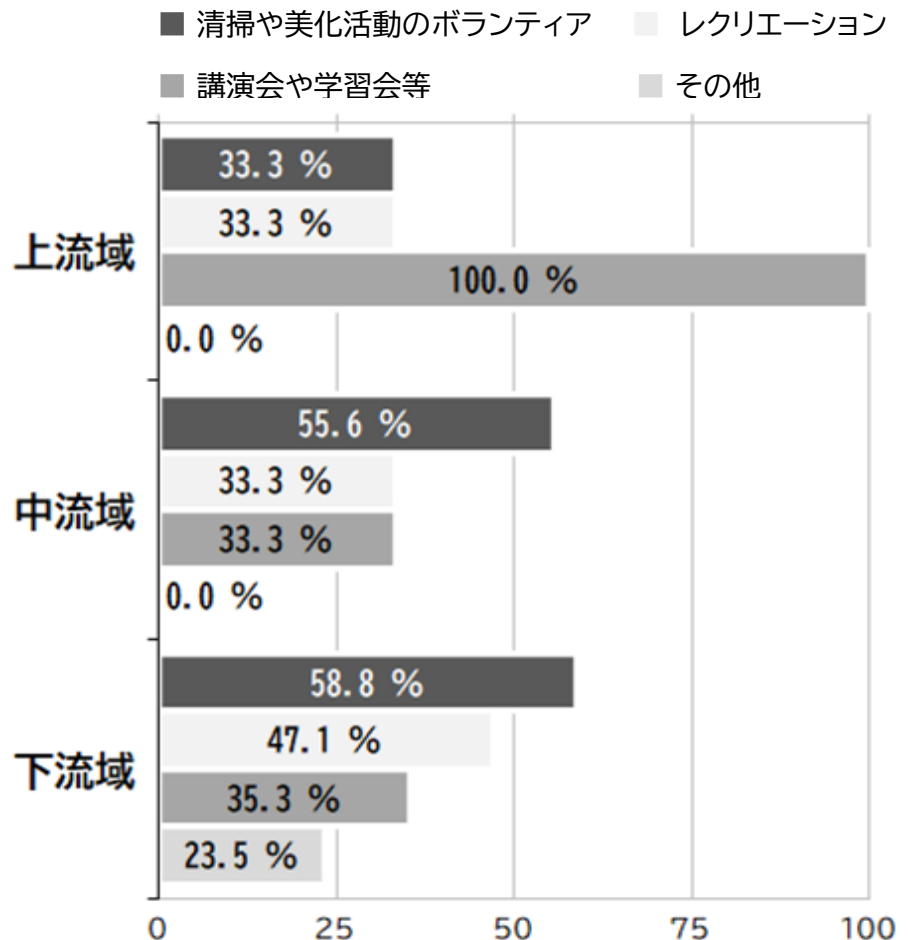


【その他と答えた人の自由回答】

- 四万十川の水質や課題などの現状
- 四万十川そのものの情報

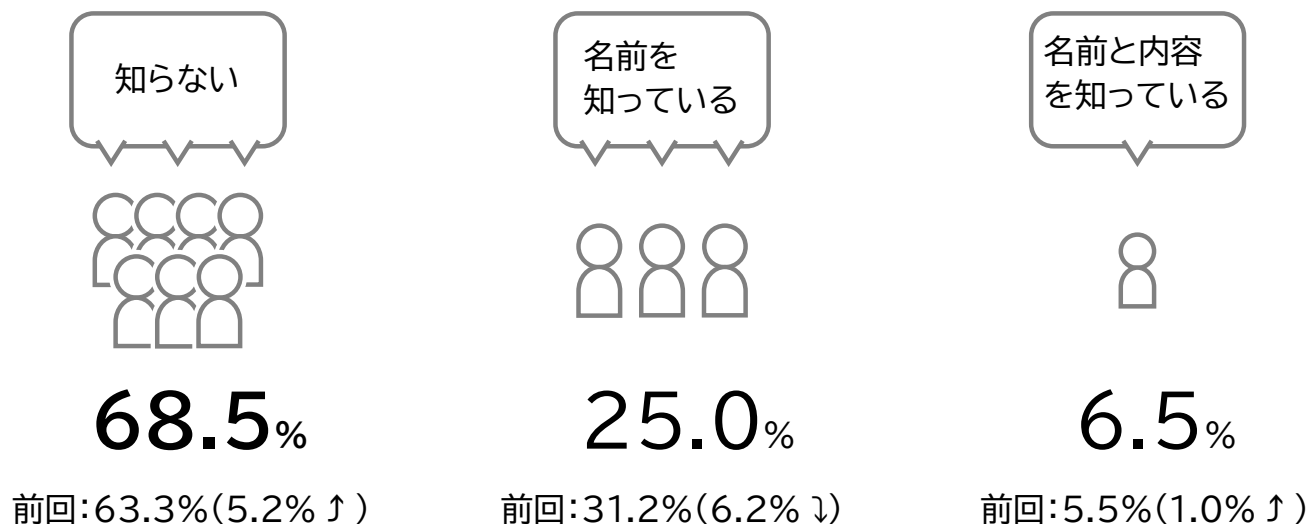
【居住地別】

- 上流域では「講演会や学習会等の情報」が100.0%であった。
- 中流域、下流域では、「清掃や美化活動のボランティア情報」が5割を超えた。



### 問3 「四万十川条例」をご存知ですか。(1つだけ○印)

⇒ 7割近くが四万十川条例を「知らない」と回答し、前回調査(H29)と比べて増加



#### 【居住地別】

- 知名度(「名前を知っている」+「名前と内容を知っている」)が高かったのは中流域
- 認知度(「名前をどのようなことをしているか知っている」)については、旧西土佐村が高い

四万十川条例の知名度・認知度		知らない	名前 (A)	名前と内容 (B)	知名度 (A+B)
上流域	檮原町	62.1 %	31.0 %	6.9 %	37.9 %
	旧東津野町	72.7 %	18.2 %	9.1 %	27.3 %
	旧大野見村	71.4 %	28.6 %	0.0 %	28.6 %
中流域	旧窪川町	64.6 %	29.3 %	6.1 %	35.4 %
	旧大正町	56.3 %	43.8 %	0.0 %	43.8 %
	旧十和村	42.1 %	52.6 %	5.3 %	57.9 %
下流域	旧西土佐村	66.7 %	23.8 %	9.5 %	33.3 %
	旧中村市	72.0 %	21.1 %	6.9 %	28.0 %

1位：



2位：



問4 四万十川条例の取組が流域の保全と振興に効果があったと思いますか。(1つだけ○印・対象:問3で「名前を知っている」「名前と内容を知っている」と答えた人)

⇒ 『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が最も高かったのは、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」

- 6項目全てにおいて、『そう思う』が『そう思わない』(どちらかといえばそう思わない)+「そう思わない」を上回った。
- 「どちらともいえない」が高かった「共生モデル地区の指定及び協定に基づいた取組の実施」「重点地域の指定及び許可制度の運用」については、取組自体に関わる機会が少なかった可能性がある。

	『そう思う』 (A+B)		どちらとも いえない	『そう思わない』 (C+D)	
	そう思う (A)	どちらか といえばそう 思う (B)		どちらか といえばそう 思わない (C)	そう思わ ない (D)
四万十川流域の保全と振興に効果が 「あった」と思う取組					
重点地域の指定及び許可制度の運用	61.5 %		35.0 %	3.6 %	
	22.9 %	38.6 %		0.0 %	3.6 %
共生モデル地区の指定及び協定に 基づいた取組の実施	54.4 %		43.4 %	2.2 %	
	15.4 %	39.0 %		1.5 %	0.7 %
清流基準の制定及びそれに基づいた 調査の実施・公表	63.3 %		30.2 %	6.5 %	
	21.6 %	41.7 %		4.3 %	2.2 %
「四万十川沈下橋保存方針」の制定 及びそれに基づく運用	66.9 %		28.1 %	5.1 %	
	23.7 %	43.2 %		2.9 %	2.2 %
環境配慮指針の策定及びそれに基づく 運用	62.6 %		30.9 %	6.5 %	
	23.0 %	39.6 %		3.6 %	2.9 %
環境学習の推進及び情報発信	64.7 %		30.2 %	5.1 %	
	23.0 %	41.7 %		2.9 %	2.2 %

1位: 

2位: 

問4 四万十川条例の取組が流域の保全と振興に効果があったと思いますか。(1つだけ○印・対象:問3で「名前を知っている」「名前と内容を知っている」と答えた人)

【居住地別】

- 上流域で『そう思う』が高かったのは、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮(環境配慮指針)の策定及びそれに基づく運用」
- 中流域で『そう思う』が高かったのは、「清流度や水生生物に係る独自の指標(清流基準)の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」「環境学習の推進及び情報発信」
- 下流域で『そう思う』が高かったのは、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」

『そう思う』取組	全体	上流域	中流域	下流域
重点地域の指定及び許可制度の運用	61.5 %	66.7 %	57.1 %	62.0 %
共生モデル地区の指定及び協定に基づいた取組の実施	54.4 %	53.3 %	61.0 %	50.7 %
清流基準の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表	63.3 %	66.7 %	69.8 %	58.9 %
「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用	66.9 %	60.0 %	62.8 %	69.2 %
環境配慮指針の策定及びそれに基づく運用	62.6 %	73.3 %	59.5 %	60.7 %
環境学習の推進及び情報発信	64.7 %	66.6 %	69.8 %	61.6 %
	1位:		2位:	

問5 四万十川流域の保全と振興を進めるためにどのような取組の強化・内容の充実が必要だと思いますか。(1つだけ○印・対象:問3で「名前を知っている」「名前と内容を知っている」と答えた人)

⇒ 『必要』(「必要」+「どちらかといえば必要」と回答した割合が最も高かったのは、「文化的景観や自然環境等の保全活動の強化及び情報発信」)

- 6項目全てにおいて、『必要』が『不必要』(どちらかといえば不必要)+「不必要」を上回った。
- 問4「四万十川流域の保全と振興に効果が「あった」と思う取組」と同様に、「どちらともいえない」が高かったのは、「共生モデル地区」「重点地域許可制度」

	『必要』 (A+B)		どちらとも いえない	『不必要』 (C+D)	
	必要 (A)	どちらか といえば 必要 (B)		どちらか といえば 不必要 (C)	不必要 (D)
四万十川流域の保全と振興のため、強化・内容の充実が必要だと思う取組					
重点地域許可制度についての情報発信	81.9 %		16.0 %	2.1 %	
	47.2 %	34.7 %		0.7 %	1.4 %
共生モデル地区での協定に基づいた取組	76.3 %		22.4 %	1.4 %	
	38.5 %	37.8 %		0.7 %	0.7 %
清流基準の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表	85.9 %		12.7 %	1.4 %	
	47.9 %	38.0 %		0.0 %	1.4 %
文化的景観や自然環境等の保全活動の強化及び情報発信	90.9 %		7.7 %	1.4 %	
	54.5 %	36.4 %		1.4 %	0.0 %
環境配慮指針に基づく運用	89.6 %		10.4 %	0.0 %	
	47.2 %	42.4 %		0.0 %	0.0 %
環境学習の推進及び情報発信	90.3 %		9.0 %	0.7 %	
	50.7 %	39.6 %		0.7 %	0.0 %
			1位:		2位:

問5 四万十川流域の保全と振興を進めるためにどのような取組の強化・内容の充実が必要だと思いますか。(1つだけ○印・対象:問3で「名前を知っている」「名前と内容を知っている」と答えた人)

【居住地別】

- 上流域で『そう思う』が高かったのは、「環境配慮指針に基づく運用」「環境学習の推進及び情報発信」
- 中流域で『そう思う』が高かったのは、「環境学習の推進及び情報発信」
- 下流域で『そう思う』が高かったのは、「文化的景観や自然環境等の保全活動の強化及び情報発信」

強化・内容の充実が必要だと思う取組	全体	上流域	中流域	下流域
重点地域許可制度についての情報発信	81.9 %	75.1 %	72.1 %	87.8 %
共生モデル地区での協定に基づいた取組	76.3 %	62.6 %	76.8 %	77.8 %
清流基準の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表	85.9 %	73.4 %	90.7 %	86.4 %
文化的景観や自然環境等の保全活動の強化及び情報発信	90.9 %	87.5 %	88.3 %	92.6 %
環境配慮指針に基づく運用	89.6 %	93.8 %	90.7 %	87.8 %
環境学習の推進及び情報発信	90.3 %	93.8 %	93.0 %	87.8 %
	1位:		2位:	



## 2. 四万十川との関わり

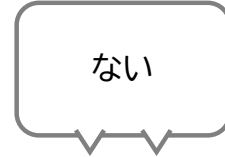
問6 この1年間に仕事以外で川にでかけたことはありますか。(1つだけ○印)

⇒ 半数以上がでかけたことがある



55.7%

前回:47.9%(7.8%↑)



44.3%

前回:52.1%(7.8%↓)

### 【居住地別】

- 全流域で「ある」が「ない」を上回った。
- 「ある」と回答した割合が最も高かったのは、上流域で、前回調査時からの増加割合も高かった。

川に仕事以外で 出かけたかどうか	ある		
		差	
上流域	R 4	60.9 %	18.8 %
	H29	42.1 %	
中流域	R 4	50.0 %	7.6 %
	H29	42.4 %	
下流域	R 4	57.4 %	5.7 %
	H29	51.7 %	

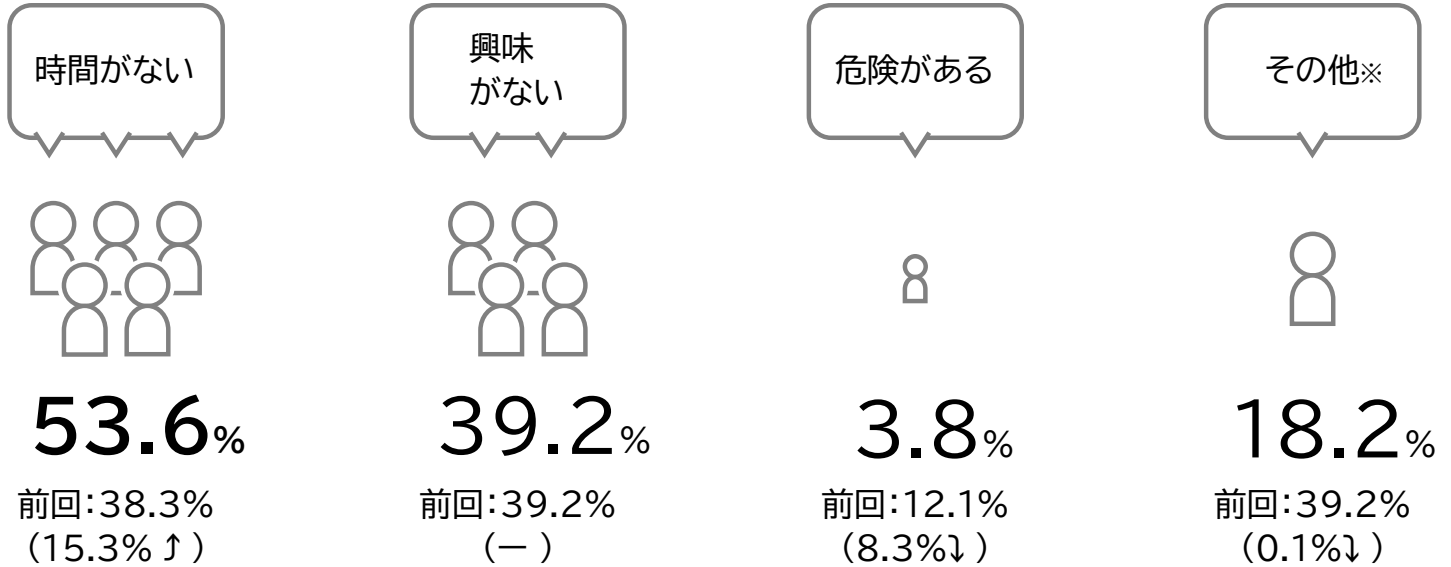
### 【年齢別】

- 20歳代、80歳以上をのぞき、「ある」が5割を超えた。
- 「ある」と回答した割合が最も高かったのは40歳代

川に仕事以外で 出かけたかどうか	ある
10歳代	50.0 %
20歳代	20.0 %
30歳代	60.6 %
40歳代	64.4 %
50歳代	55.2 %
60歳代	56.1 %
70歳代	54.2 %
80歳以上	33.3 %

問7 「ない」と答えた理由を選んでください。(あてはまるもの全てに○印・対象:問6で「ない」と答えた人)

⇒ 一番多かったのは、「時間がない」で53.6%

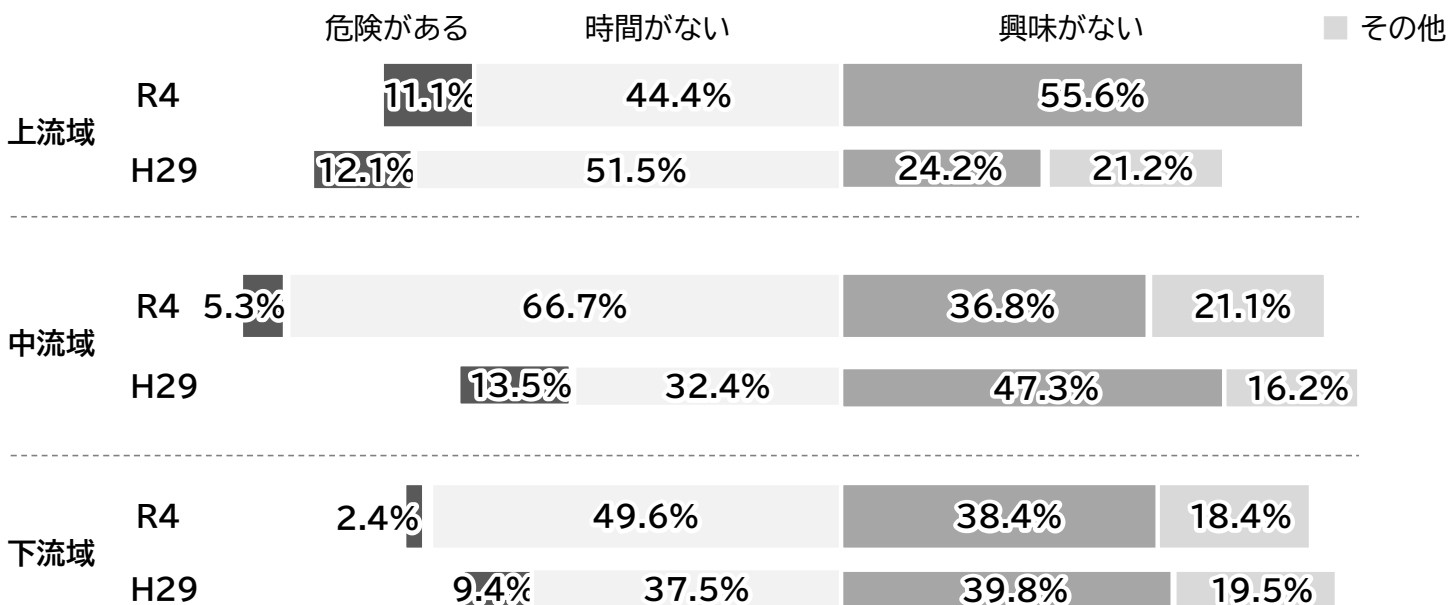


【その他と答えた人の自由回答】

- 用事や理由、目的、必要がない
- コロナで孫が帰省しなかった
- 子どもを遊ばせるようなきれいな川がない など

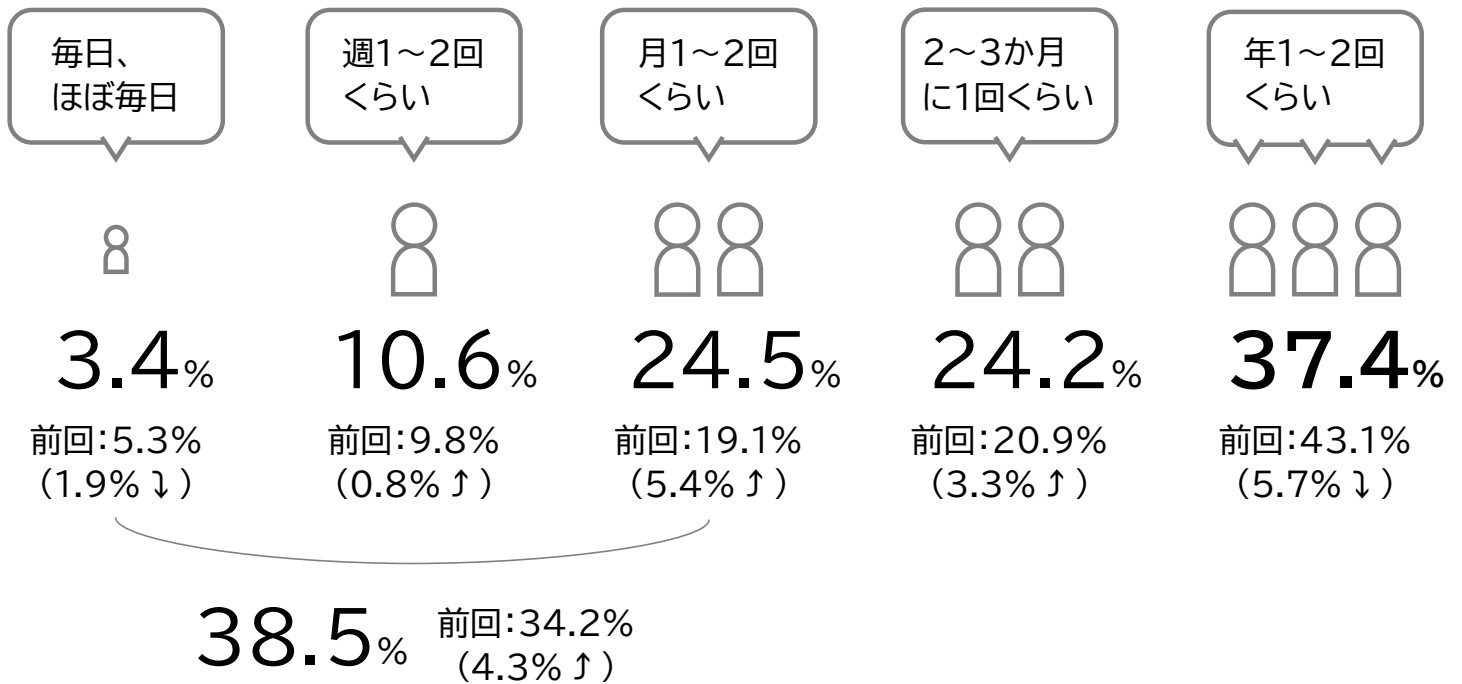
【居住地別】

- 上流域では、「興味がない」と答えた人の割合が最も高くなった。
- 中流域、下流域では、「時間がない」と答えた人の割合が最も高くなった。



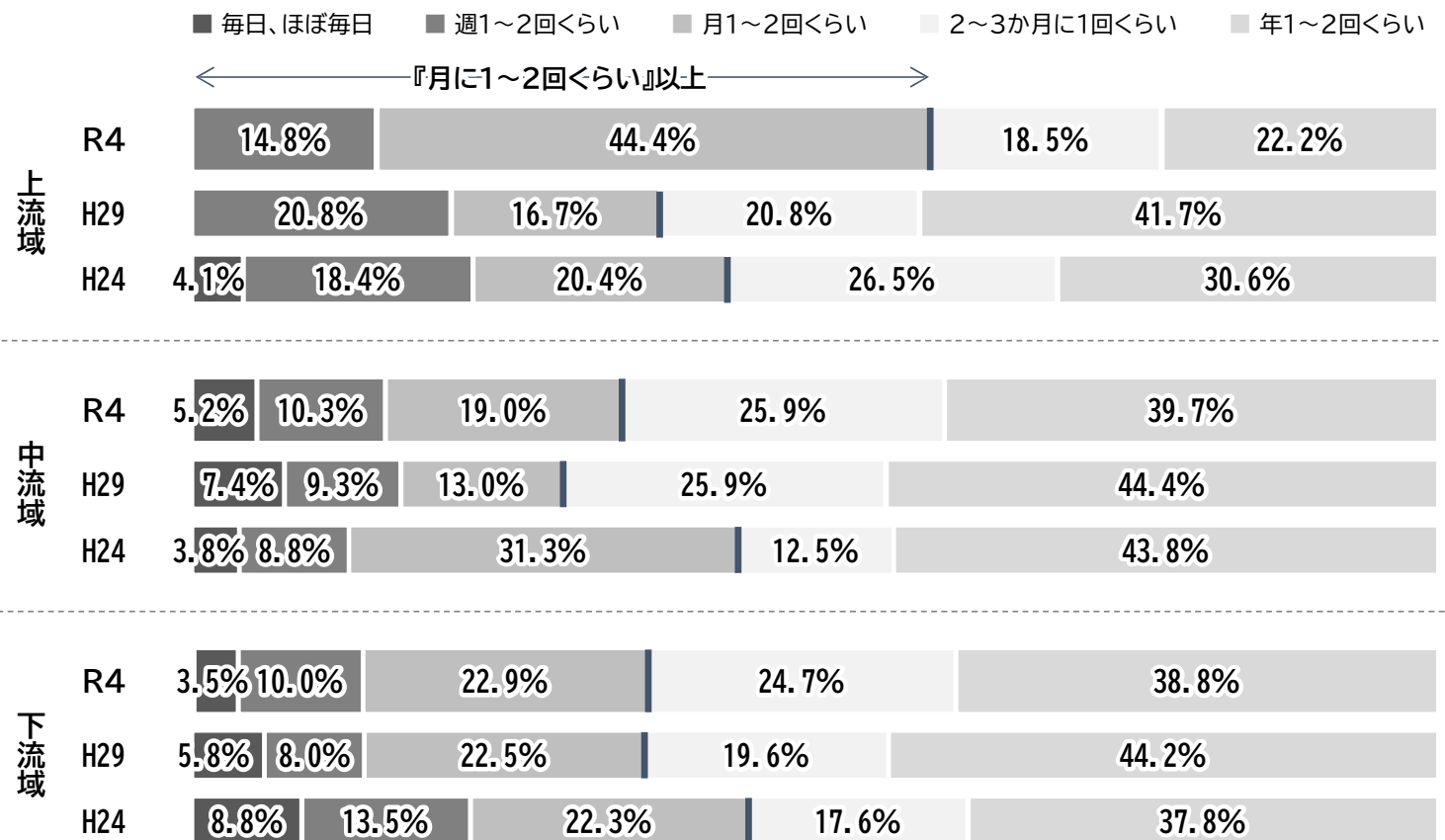
問8 この一年間にどれくらい川に出かけましたか。(1つだけ○印・対象:問6で「ある」と答えた人)

⇒ 『月に1~2回くらい』以上出かけている人が38.5%



【居住地別】

- 上流域で『月に1~2回くらい』以上と答えた答えた人の割合は、直近3回の調査でR4が最も高くなった。
- 中流域、下流域で『月に1~2回くらい』と答えた人の割合は、いずれも4割を下回った。



問9 この一年間に川で何をしましたか。(あてはまるもの全てに○印・対象:問6で「ある」と答えた人)

⇒ 「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合が最も高くなった

- 川に出かけた頻度別では、いずれの頻度も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合が最も高く、「毎日、ほぼ毎日」では88.9%であった。
- 「アユ以外の釣り、魚とり」と答えた人は「毎日、ほぼ毎日」、「アユ釣り、アユとり」と答えた人は「週1～2回くらい」と、川に行く頻度が高い。

この1年間に川で したこと	全 体	川に出かけた頻度別				
		毎日、 ほぼ毎日	週1～2 回くらい	月1～2 回くらい	2～3か 月に1回 くらい	年1～2 回くらい
散歩、ジョギング、 散策	56.4 %	88.9 %	57.1 %	73.0 %	62.5 %	39.4 %
水泳、水遊び	33.3 %	-	32.1 %	31.7 %	37.5 %	35.4 %
清掃活動などの ボランティア活動	17.0 %	11.1 %	14.3 %	14.3 %	25.0 %	15.2 %
アユ以外の釣り、 魚とり	14.4 %	33.3 %	25.0 %	12.7 %	18.8 %	8.1 %
キャンプ、バーベ キュー	11.7 %	-	7.1 %	20.6 %	15.6 %	6.1 %
その他	11.7 %	22.2 %	7.1 %	15.9 %	10.9 %	9.1 %
野草摘み（花摘み、 山菜採りなど）	10.2 %	22.2 %	21.4 %	14.3 %	6.3 %	6.1 %
アユ釣り、アユとり	9.1	22.2 %	32.1 %	9.5 %	1.6 %	6.1 %
ボート、カヌーなど	5.3 %	11.1 %	10.7 %	3.2 %	6.3 %	4.0 %

1位：

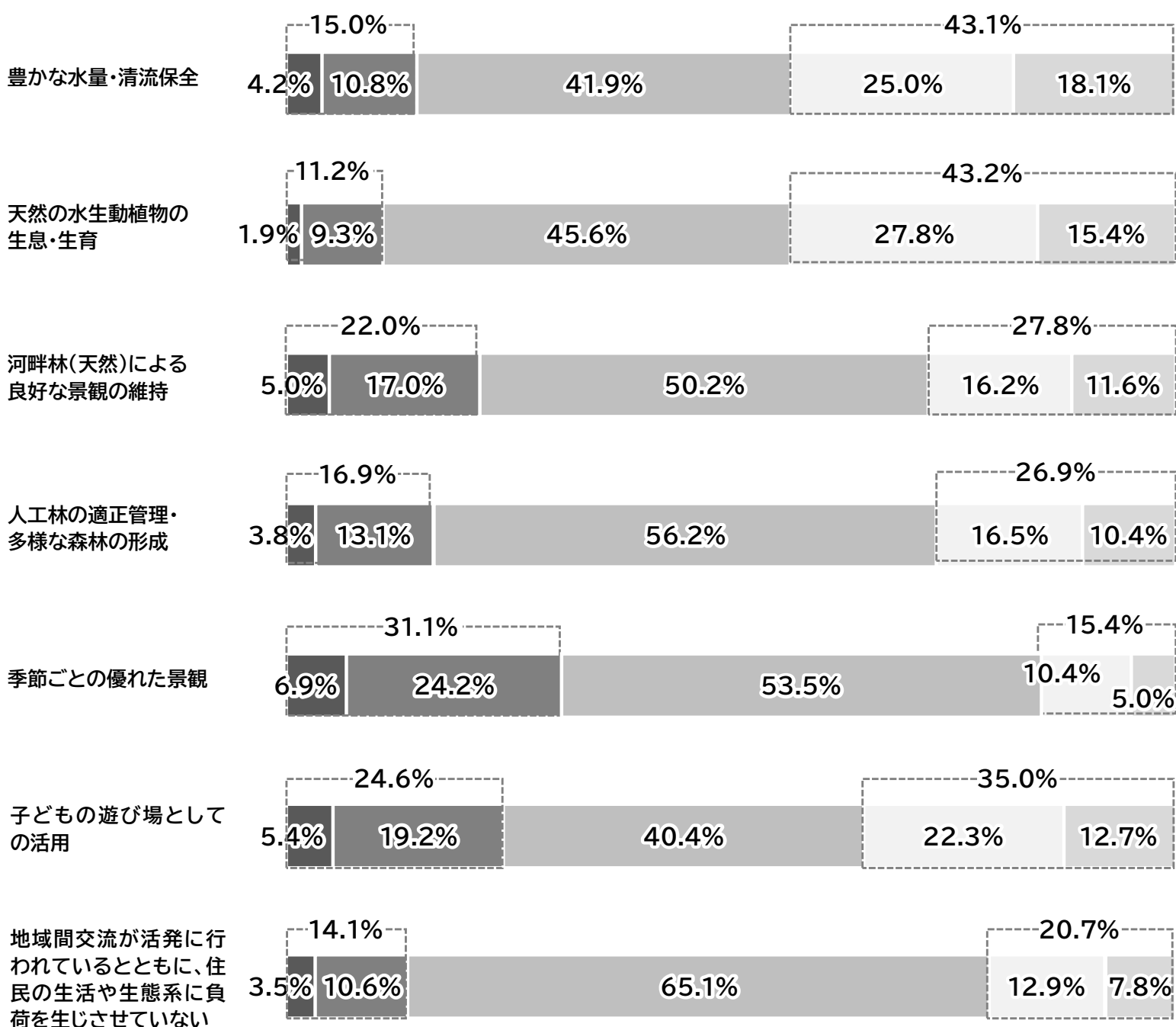
2位：

問10 四万十川の環境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。(あてはまる番号に1つずつ○印・対象:問6で「ある」と答えた人)

⇒ 以前に比べて『悪くなった』と答えた人が多かった

- 7項目中、『良くなった』(「良くなった」+「どちらかといえば良くなった」)『悪くなった』(「悪くなった」+「どちらかといえば悪くなった」)を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」の1項目のみで、『良くなった』と答えた人の割合は31.1%
- 『悪くなった』と答えた人の割合が最も高かったのは「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.2%

■ 良くなった   ■ どちらかといえば良くなった   ■ どちらともいえない   ■ どちらかといえば悪くなった   ■ 悪くなった



問10 四万十川の環境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。(あてはまる番号に1つずつ○印・対象:問6で「ある」と答えた人)

【居住地別】

- 上流域で『悪くなった』と答えた人の割合が最も多かったのは、「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」で、2番目に多かったのは「流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている」
- 中流域及び下流域で『悪くなった』と答えた人の割合が最も多かったのは、「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」で、2番目に多かったのは「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」

四万十川の環境や景観等が以前に比べて変化があったと思う割合	全体		上流域		中流域		下流域	
	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪
豊かな水量・清流保全	15.0 %	43.1 %	22.2 %	37.0 %	17.2 %	41.4 %	13.8 %	43.4 %
天然の水生動植物の生息・生育	11.2 %	43.2 %	18.5 %	48.1 %	12.0 %	41.3 %	9.7 %	43.0 %
河畔林(天然)による良好な景観の維持	22.0 %	27.8 %	22.2 %	37.0 %	17.3 %	29.3 %	24.3 %	25.5 %
人工林の適正管理・多様な森林の形成	16.9 %	26.9 %	18.5 %	44.4 %	12.0 %	31.0 %	18.7 %	22.9 %
季節ごとの優れた景観	31.1 %	15.4 %	40.7 %	7.4 %	25.9 %	18.9 %	32.5 %	14.4 %
子どもの遊び場としての活用	24.6 %	35.0 %	44.4 %	22.2 %	19.3 %	38.6 %	22.2 %	35.4 %
活発で持続可能な地域間交流	14.1 %	20.7 %	22.2 %	14.8 %	14.1 %	26.3 %	13.0 %	19.8 %

良：『良くなった』

悪：『悪くなった』

1位：

2位：

問10 四万十川の環境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。(あてはまる番号に1つずつ○印・対象:問6で「ある」と答えた人)

【川に出かけた頻度別】



7項目全てで『悪くなった』と答えた人の割合が高くなった



「季節ごとの優れた景観を有している」で『良くなった』と答えた人の割合が高くなった

【「川で何をしたか」別】

- 「アユ釣り、アユとり」以外では、「季節ごとの優れた景観を有している」と答えた人の割合が『良くなった』が『悪くなった』を上回った。
- 「アユ釣り、アユとり」では、7項目全てで『悪くなった』が『良くなった』を上回った。

水辺 ← → 水中

四万十川の環境や景観等が以前に比べて変化があったと思う割合	活動項目									
	散歩、ジョギング、散策	野草摘み	キャンプ、バーベキュー	ボートカヌーなど	水泳、水遊び	アユ以外の釣り、魚とり	アユ釣り、アユとり	清掃活動など	その他	
豊かな水量・清流保全	良	16.3 %	14.8 %	19.3 %	14.3 %	16.4 %	13.5 %	16.6 %	8.8 %	6.4 %
	悪	47.6 %	40.7 %	25.8 %	21.4 %	31.8 %	45.9 %	54.2 %	48.9 %	45.2 %
天然の水生动植物の生息・生育	良	12.3 %	7.4 %	22.6 %	14.3 %	10.6 %	13.9 %	8.3 %	6.8 %	9.7 %
	悪	47.6 %	48.1 %	22.6 %	28.5 %	35.3 %	33.3 %	54.2 %	54.5 %	38.8 %
河畔林(天然)による良好な景観の維持	良	24.0 %	18.5 %	32.2 %	35.7 %	25.6 %	5.4 %	4.3 %	13.3 %	25.9 %
	悪	28.7 %	22.2 %	9.7 %	28.6 %	24.4 %	27.0 %	52.2 %	26.6 %	35.5 %
人工林の適正管理・多様な森林の形成	良	18.4 %	14.8 %	25.8 %	14.2 %	17.5 %	10.8 %	0.0 %	13.3 %	19.4 %
	悪	25.9 %	25.9 %	16.1 %	21.4 %	19.8 %	27.0 %	45.8 %	28.9 %	35.5 %
季節ごとの優れた景観	良	33.8 %	18.5 %	48.4 %	35.7 %	35.3 %	16.2 %	4.2 %	24.4 %	32.2 %
	悪	17.6 %	14.8 %	3.2 %	7.1 %	8.3 %	5.4 %	20.8 %	17.8 %	25.8 %
子どもの遊び場としての活用	良	23.7 %	29.6 %	36.7 %	35.7 %	33.0 %	29.7 %	8.4 %	20.0 %	19.4 %
	悪	37.8 %	40.7 %	20.0 %	14.2 %	23.5 %	16.2 %	33.4 %	37.8 %	51.7 %
活発で持続可能な地域間交流	良	15.3 %	15.4 %	16.7 %	30.8 %	19.5 %	8.4 %	8.4 %	8.9 %	16.2 %
	悪	19.4 %	23.1 %	6.6 %	15.4 %	11.0 %	19.5 %	20.8 %	26.7 %	35.5 %

良：『良くなった』 悪：『悪くなった』 1位： 2位：

### 3. 環境を守る行動や意欲

問11 次のことがらについて、日頃どの程度行なっていますか。(あてはまるものに1つずつ○印)

⇒ 13項目中11項目が前回調査時よりも『実施率』※が減少

※『実施率』:「いつも行っている」+「だいたい行っている」

『実施率』の高い項目		今回	前回
第1位	ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている	94.1%	94.3%
第2位	使った油は流しから流さないようにしている	86.2%	85.4%
第3位	ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	84.0%	88.6%
第4位	新聞・雑誌は、古紙回収に回している	78.0%	80.3%
第5位	日常の生活で電気は、こまめに消している	77.3%	79.7%

『実施率』の低い項目		今回	前回
第1位	不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している	20.1%	25.5%
第2位	米のとぎ汁やみそ汁などは、流しから流さないようにしている	22.3%	27.2%
第3位	風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している	31.7%	36.4%
第4位	よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている	52.7%	49.4%
第5位	日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている	59.3%	66.9%



### 3. 環境を守る行動や意欲

問11 次のことがらについて、日頃どの程度行っていますか。(あてはまるものに1つずつ○印)

#### 【居住地別】

- 上流域で『実施率』が10ポイント以上他の流域よりも低くなった項目は、「よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」
- 下流域で『実施率』が10ポイント以上他の流域よりも低くなった項目は、「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」

環境を守る行動の『実施率』	全体	上流域	中流域	下流域
ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている	94.1 %	97.7 %	98.3 %	91.6 %
使った油は流しから流さないようにしている	86.2 %	93.3 %	87.0 %	85.2 %
ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	84.0 %	93.3 %	95.7 %	<b>77.1 %</b>
新聞・雑誌は、古紙回収に回している	78.0 %	86.4 %	77.5 %	75.9 %
日常の生活で電気は、こまめに消している	77.3 %	82.3 %	77.8 %	76.6 %
洗ざいやシャンプーなどは、余分に使わないようにしている	73.6 %	69.8 %	76.5 %	73.4 %
日常の生活で節水に気をつけている	68.7 %	64.5 %	63.3 %	71.2 %
省エネタイプの家庭電化製品を購入するよう心がけている	65.0 %	68.8 %	68.4 %	63.7 %
日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている	59.3 %	64.5 %	67.5 %	54.8 %
よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている	52.7 %	<b>41.3 %</b>	61.5 %	51.2 %
風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している	31.7 %	40.0 %	35.1 %	<b>27.8 %</b>
米のとぎ汁やみそ汁などは、流しから流さないようにしている	22.3 %	20.5 %	23.2 %	21.4 %
不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している	20.1 %	<b>6.6 %</b>	19.7 %	21.3 %

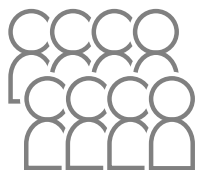
他の流域の『実施率』と10ポイント以上差があった項目：

問12 ご家庭では、日頃、流しの排水口や三角コーナーで水切り袋などを使っていますか。(1つだけ○印)

⇒ 『使用率』※は前回よりも11.2ポイント増加

※『使用率』:「いつも使っている」+「まあ使っている」

いつも  
使っている



**80.1%**

前回:67.0%  
(13.1% ↑)

まあ  
使っている



**8.2%**

前回:10.1%  
(1.9% ↓)

あまり  
使っていない



**5.5%**

前回:10.5%  
(5.0% ↓)

全く  
使っていない



**6.1%**

前回:12.4%  
(6.3% ↓)

問13 ご家庭では、日頃、コンポスト容器や電気式の生ごみ処理機などを利用して、家庭から出る生ごみのたい肥化に取り組んでいますか。(1つだけ○印)

⇒ 『実施率』※は前回よりも14.9ポイント減少

※『実施率』:「いつもしている」+「まあしている」

いつも  
している



**11.6%**

前回:20.9%  
(9.3% ↓)

まあ  
している



**7.4%**

前回:13.0%  
(5.6% ↓)

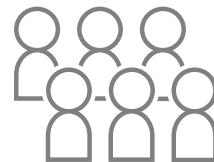
あまり  
していない



**13.1%**

前回:14.1%  
(1.0% ↓)

全く  
していない

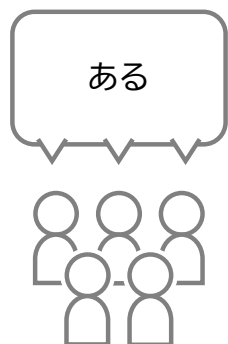


**68.0%**

前回:51.9%  
(16.1% ↑)

問14 講演会などの催しや、植樹、間伐(かんばつ)、リサイクル活動、美化・清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

⇒ 「ある」と答えた人の割合は36.8%で、前回よりも5.5ポイント減少



36.8%

前回:42.3%(5.5% ↓)



63.2%

前回:57.7%(5.5% ↑)

【居住地別】

- 「ある」と回答した割合が最も高かったのは、上流域

環境に関する活動に参加したことがあるかどうか		ある	
		割合	差
上流域	R 4	53.2 %	-8.2 %
	H29	61.4 %	
中流域	R 4	42.1 %	-2.3 %
	H29	44.4 %	
下流域	R 4	31.6 %	-6.2 %
	H29	37.8 %	

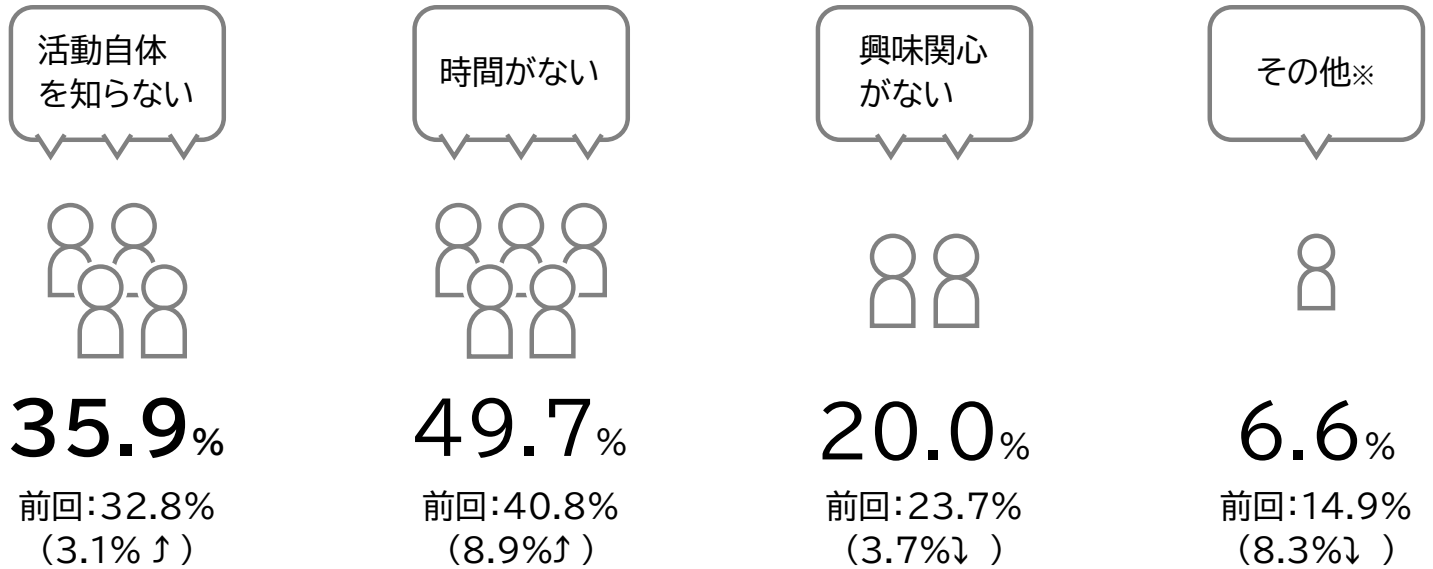
【年齢別】

- 20歳代～80歳代は、「ない」が多い。
- 「ない」と回答した割合が最も高かったのは20歳代

環境に関する活動に参加したことがあるかどうか	ある		ない	
	割合	差	割合	差
10歳代	100.0 %		0.0 %	
20歳代	13.3 %		86.7 %	
30歳代	30.3 %		69.7 %	
40歳代	39.3 %		60.7 %	
50歳代	31.6 %		68.4 %	
60歳代	38.3 %		61.7 %	
70歳代	41.0 %		59.0 %	
80歳以上	42.9 %		57.1 %	

問15 「ない」と答えた理由を選んでください。（あてはまるもの全てに○印・対象:問14で「ない」と答えた人）

⇒ 一番多かったのは、「時間がない」で49.7%

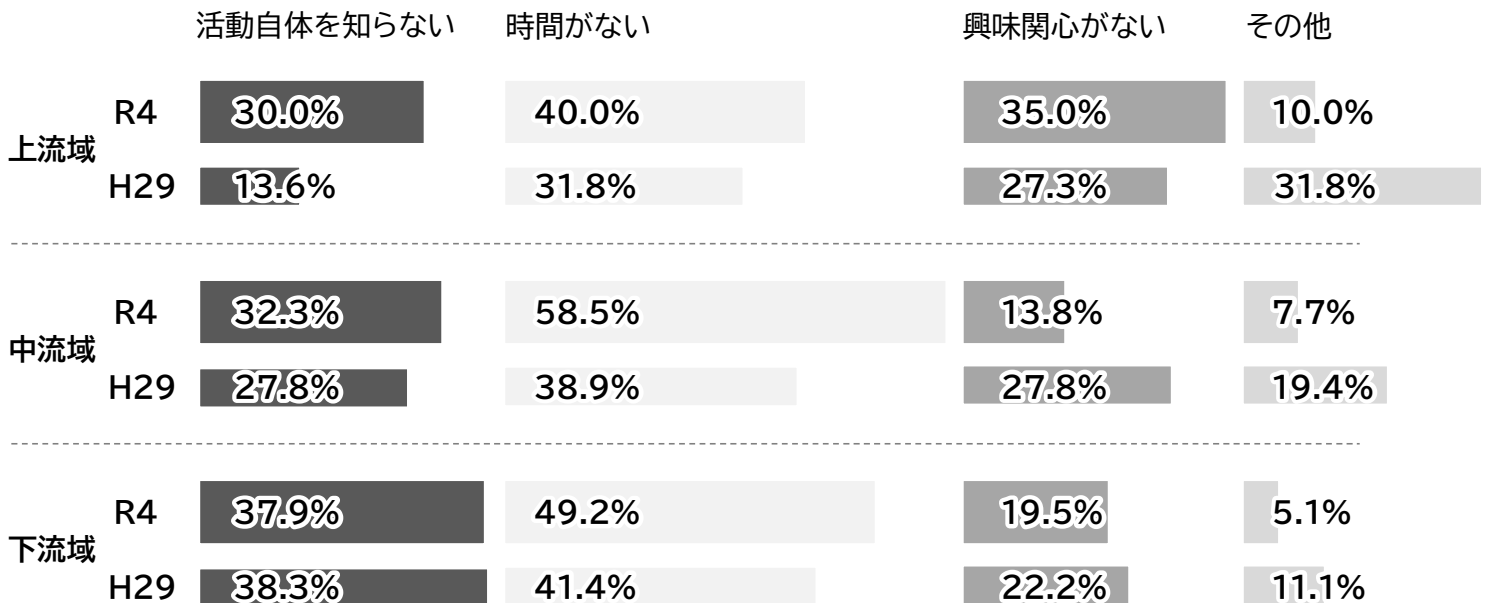


【その他と答えた人の自由回答】

- 体調不良、高齢
- 時間が合わない
- 保全したい気持ちはあるけれど正直めんどくさい など

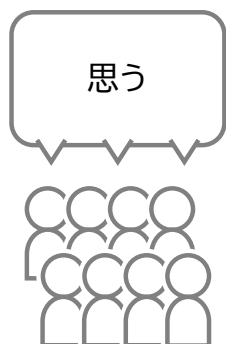
【居住地別】

- 全ての流域で「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、特に中流域では58.5%と前回調査から19.6ポイント増加し、最も高くなった。
- 上流域では「興味関心がない」と答えた人の割合が35.0%とその他の流域と比べて1割以上高くなった。



問16 四万十川やその流域の環境を保全するために、例えば寄付を募るとすれば、協力してもよいと思いますか。(1つだけ○印)

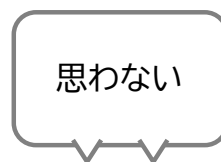
⇒ 「思う」と答えた人の割合は75.5%で、前回よりも1.8ポイント減少



思う

**75.5%**

前回:77.3%(1.8% ↓)



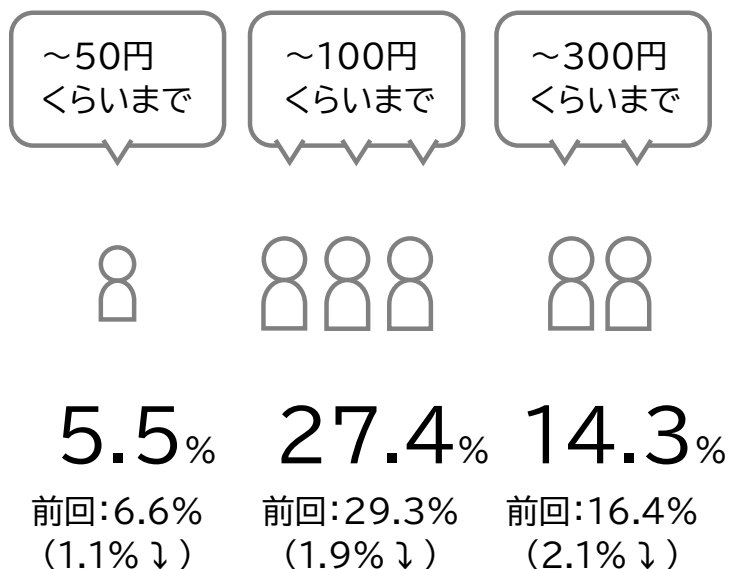
思わない

**24.5%**

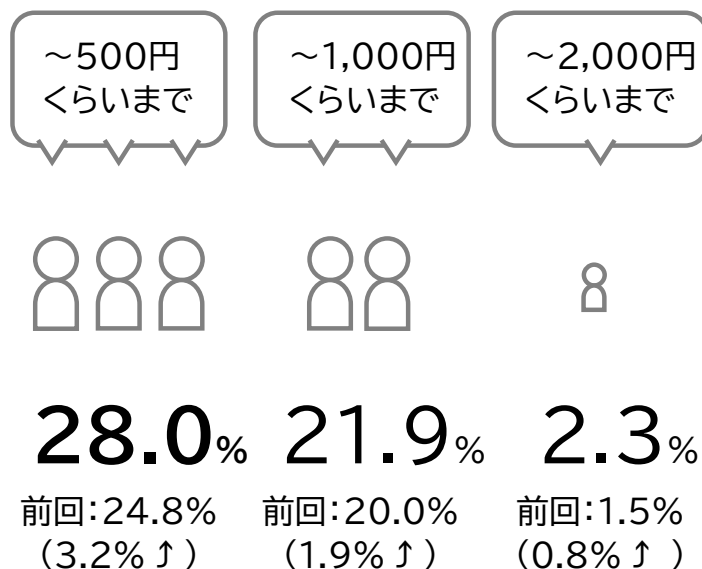
前回:22.7%(1.8% ↑)

問17 1か月あたり協力してもよいと思う金額は、次のどれですか。(1つだけ○印・対象:問16で「思う」と答えた人)

⇒ 一番多かったのは、「～500円くらいまで」で28.0%



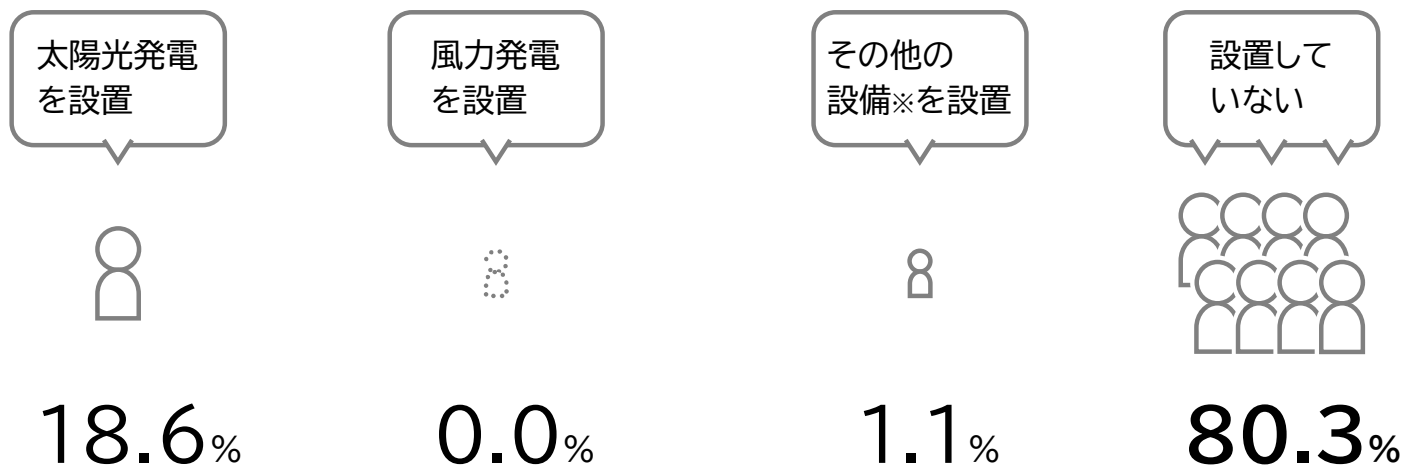
「500円くらいまで」以上と答えた人の割合  
52.8%(前回:47.8%(5.0% ↑))



・それ以上でも協力する:0.6%  
(前回:1.5%(0.9% ↓))

問18 環境に配慮した再生可能エネルギー設備を設置していますか。(あてはまるものすべてに○印)

⇒ 一番多かったのは、「設置していない」で80.3%

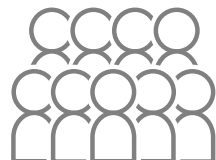


※ バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備

## 4. 通信手段について

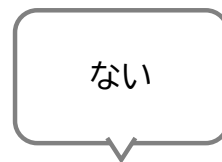
問19 携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つだけ○印)

⇒ 96.2%が持っている



96.2%

前回:83.6%(12.6%↑)



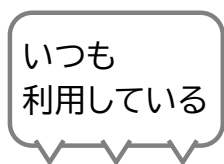
3.8%

前回:16.4%(12.6%↓)

問20 日頃、携帯電話やスマートフォンなどでインターネットを利用していますか。(1つだけ○印・対象:問19で「持っている」と答えた人)

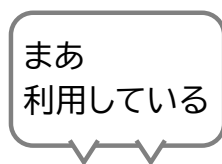
⇒ 『利用率』※は70.6%で、前回よりも17.2ポイント増加した

※『実施率』:「いつもしている」+「まあしている」



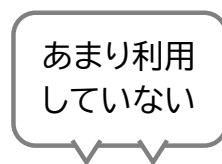
52.7%

前回:38.7%  
(14.0%↑)



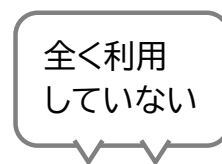
17.9%

前回:14.7%  
(3.2%↑)



12.9%

前回:14.4%  
(1.5%↓)

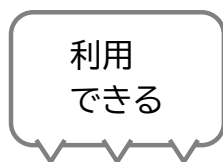


16.4%

前回:32.2%  
(15.8%↓)

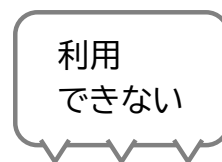
問21 自宅でパソコンなどでインターネットが利用できますか。(1つだけ○印)

⇒ 61.4%が利用できると回答



61.4%

前回:44.0%(17.4%↑)



38.6%

前回:56.0%(17.4%↓)

【全国との比較（10歳代を除く）】

インターネット 利用状況	流域 (A)	全国※ (B)	差 (A-B)
全体	61.4 %	82.9 %	-21.5 %
20歳代	78.6 %	98.4 %	-19.8 %
30歳代	84.8 %	97.9 %	-13.1 %
40歳代	78.7 %	97.7 %	-19.0 %
50歳代	70.5 %	95.2 %	-24.7 %
60歳代	56.5 %	84.4 %	-27.9 %
70歳代	31.6 %	59.4 %	-27.8 %
80歳以上	12.5 %	27.6 %	-15.1 %

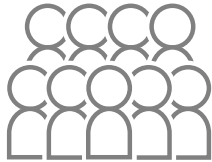
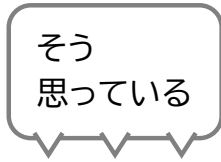
※令和3年通信利用動向調査(総務省)



## 5. 居住意思

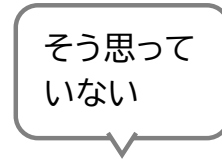
問22 今お住まいのこの地域にずっと住み続けたいと思いますか。(1つだけ○印)

⇒ 「そう思っている」と答えた人の割合は87.3%



**87.3%**

前回:86.8%(0.5%↑)



**12.7%**

前回:13.2%(0.5%↓)

### 【居住地別】

- 「そう思っている」と答えた割合が最も高かったのは、中流域
- 下流域は「そう思っている」と答えた割合が前回調査より1.6ポイント減少

### 【年齢別】

- 20歳代で「そう思っている」と答えた人の割合は、前回調査から12.5ポイント増加
- 前回調査から減少したのは、10歳代、30歳代、40歳代、70歳代

現在の居住地に住み続けたいかどうか		そう思っている	
		割合	差
上流域	R4	87.2%	6.2%
	H29	81.0%	
中流域	R4	87.9%	3.1%
	H29	84.8%	
下流域	R4	87.3%	-1.6%
	H29	88.9%	

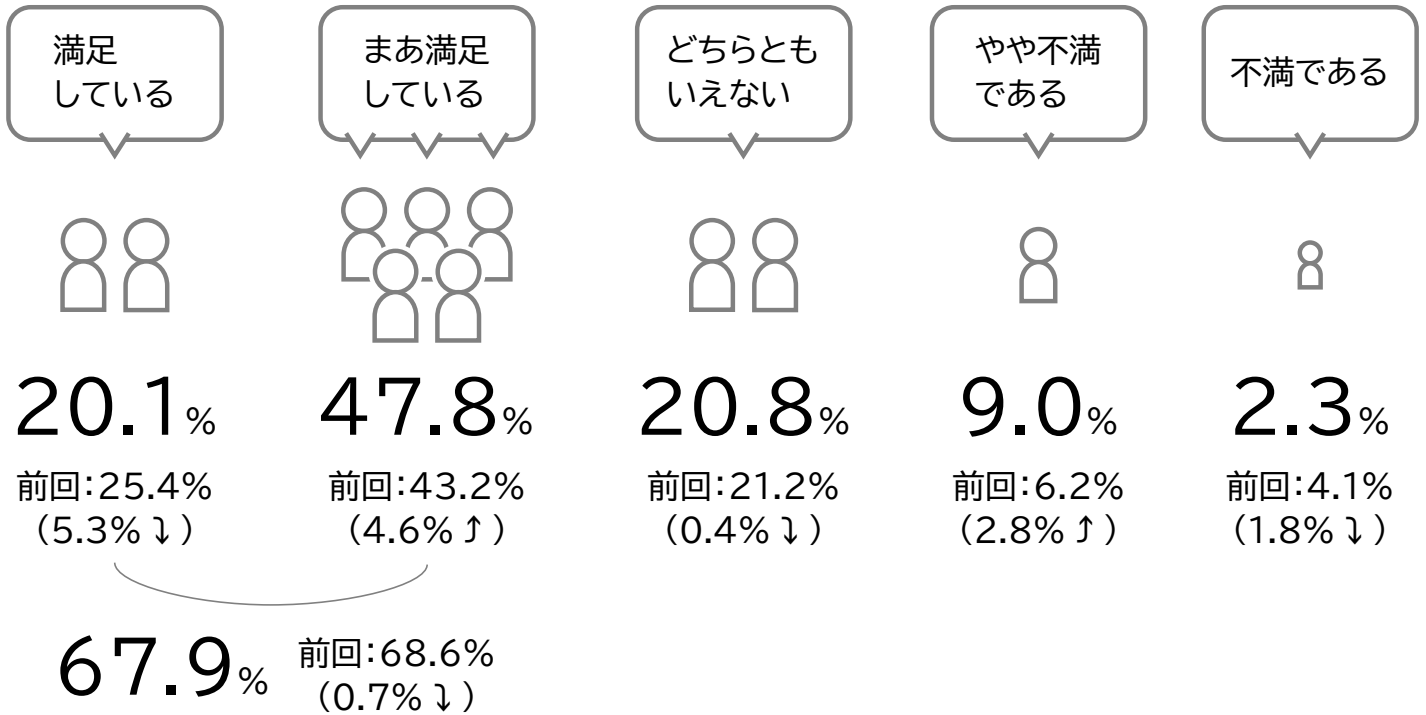
現在の居住地に住み続けたいと思っている割合	R4 (A)	H29 (B)	差 (A-B)
10歳代	50.0%	66.7%	-16.7%
20歳代	66.7%	54.2%	12.5%
30歳代	81.8%	89.7%	-7.9%
40歳代	86.4%	88.5%	-2.1%
50歳代	89.4%	83.6%	5.8%
60歳代	89.4%	87.2%	2.2%
70歳代	89.2%	92.1%	-2.9%
80歳以上	100.0%	92.5%	7.5%

## 6. 生活の満足度

問22 今お住まいの地域を総合的にみて、どの程度満足していますか。(1つだけ○印)

⇒ 『満足度』※は67.9%で、前回よりも0.7ポイント減少

※『満足度』:「満足している」+「まあ満足している」



### 【居住地別】

- 『満足度』が高かったのは、旧西土佐村、旧窪川町
- 『不満度』(「不満である」+「やや不満である」)が高かったのは、旧中村市、旧窪川町

居住地への満足度		満足している	どちらともいえない	不満である
上流域	檮原町	72.4 %	17.2 %	10.3 %
	旧東津野町	54.6 %	36.4 %	9.1 %
	旧大野見村	42.9 %	57.1 %	0.0 %
中流域	旧窪川町	74.0 %	14.8 %	11.1 %
	旧大正町	56.3 %	37.5 %	6.3 %
	旧十和村	47.4 %	47.4 %	5.3 %
下流域	旧西土佐村	76.2 %	14.3 %	9.6 %
	旧中村市	69.5 %	18.5 %	12.0 %
1位:		2位:		

問24 今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。(あてはまるものに1つずつ○印)

⇒ 『満足度』※が最も高くなった項目は「まわりに親しめる自然があること」  
『満足度』が低い項目は、自治体への要望や意見の反映、安定した仕事や地位や収入、公共交通機関の利便性

※『満足度』:「十分満たされている」+「かなり満たされている」

『満足度』の高い項目		今回	前回
第1位	まわりに親しめる自然があること	79.2%	74.3%
第2位	日々の買物など日常生活に不便がないこと	46.6%	42.9%
第3位	保育所、幼稚園が充実していること(時間帯・設備など)	43.1%	39.7%
第4位	適切な(良質な)診察や治療が受けられること	38.8%	41.0%
第5位	文化遺産や史跡が大切にされること(伝統漁法、棚田、沈下橋など)	37.1%	34.7%

『満足度の低い項目		今回	前回
第1位	収入が年々確実に増えること	6.4%	5.5%
第2位	能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること	6.5%	8.0%
第3位	市や町の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	7.8%	10.1%
第4位	バス・鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと	11.4%	16.0%
第5位	失業の不安がなく働けること	16.3%	16.8%

問24 今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。(あてはまるものに1つずつ○印)

【居住地別】

● 上流域

『満足度』の高い項目		今回	前回
第1位	まわりに親しめる自然があること	68.9%	75.5%
第2位	保育所、幼稚園が充実していること(時間帯・設備など)	63.6%	61.0%
第3位	安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること	52.2%	31.9%

『満足度の低い項目		今回	前回
第1位	バス・鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと	2.2%	10.6%
第2位	収入が年々確実に増えること	4.3%	7.1%
第3位	能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること	6.5%	14.0%

● 中流域

『満足度』の高い項目		今回	前回
第1位	まわりに親しめる自然があること	80.0%	71.9%
第2位	日々の買物など日常生活に不便がないこと	45.3%	37.7%
第3位	保育所、幼稚園が充実していること(時間帯・設備など)	42.3%	39.8%

『満足度の低い項目		今回	前回
第1位	市や町の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	6.2%	12.6%
第2位	収入が年々確実に増えること	8.3%	1.8%
第3位	能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること	9.1%	4.5%

問24 今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。(あてはまるものに1つずつ○印)

● 下流域

『満足度』の高い項目		今回	前回
第1位	まわりに親しめる自然があること	80.4%	75.0%
第2位	日々の買物など日常生活に不便がないこと	52.6%	46.5%
第3位	適切な(良質な)診察や治療が受けられること	42.1%	44.5%

『満足度の低い項目		今回	前回
第1位	能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること	5.5%	8.8%
第2位	収入が年々確実に増えること	6.2%	7.1%
第3位	市や町の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	7.1%	15.8%

# 四万十川流域住民意識調査委託業務 報告書（抜粋）

令和5年3月

高知県林業振興・環境部 自然共生課

# 目次

第1章 調査の概要.....	1
第2章 調査対象者の属性.....	2
第3章 結果の総括.....	4
第4章 結果の概要.....	7
1. 四万十川の保全に対する取組.....	7
2. 四万十川との関わり.....	16
3. 環境を守る行動や意欲.....	23
4. 通信手段について.....	29
5. 居住意思.....	31
6. 生活の満足度.....	32

## 第1章 調査の概要

### 1. 調査目的

「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」の目的の達成状況を把握し、進行管理を行うために必要な住民意識調査（条例第37条）を行うため、流域住民への調査を実施するものとする。

### 2. 調査項目

- (1) 四万十川の保全に対する取組
- (2) 四万十川との関わり
- (3) 環境を守る行動や意欲
- (4) 通信手段について
- (5) 居住意思
- (6) 生活の満足度

### 3. 実施概要

- (1) 母集団：四万十川流域5市町村18歳以上の者
- (2) 標本数：1,000人
- (3) 抽出法：層化抽出法（市町村合併後の新市町村単位でなく旧市町村単位での抽出を行う）
- (4) 抽出法：檮原町、津野町（旧東津野村）、四万十町（旧窪川町、旧大正町、旧十和村）、四万十市（旧中村市、旧西土佐村）、中土佐町（旧大野見村）

※分析にあたり上記の8地区を、流域に対応した以下の3居住地域に分類する。

上流域	檮原町、旧東津野村、旧大野見村
中流域	旧十和村、旧大正町、旧窪川町
下流域	旧中村市、旧西土佐村

- (5) 実施期間：令和4年10月5日～令和4年10月28日  
（10代から40代を対象に調査票を再発送し、令和5年1月25日まで実施期間を延長）
- (6) 調査方法：郵送配布、郵送回収又はWEB回答
- (7) 回収数：484人（回収率48.4%）

### 4. 報告書の見方

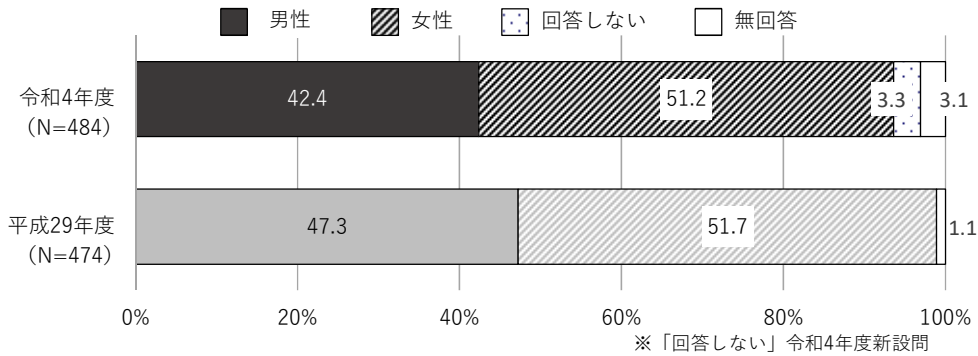
- (1) 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の表においても反映しています。
- (2) 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。



## 第2章 調査対象者の属性

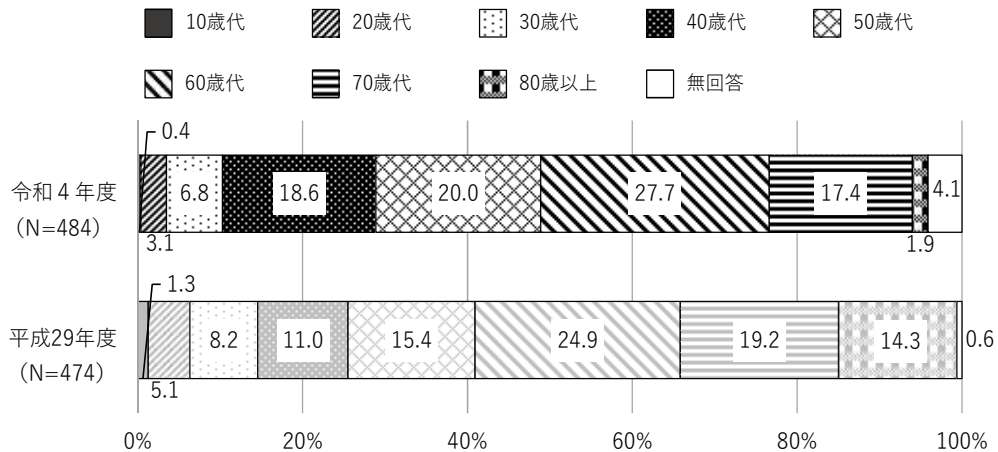
### 1. 性別

あなたの性別をお答えください。(1つだけ○印)



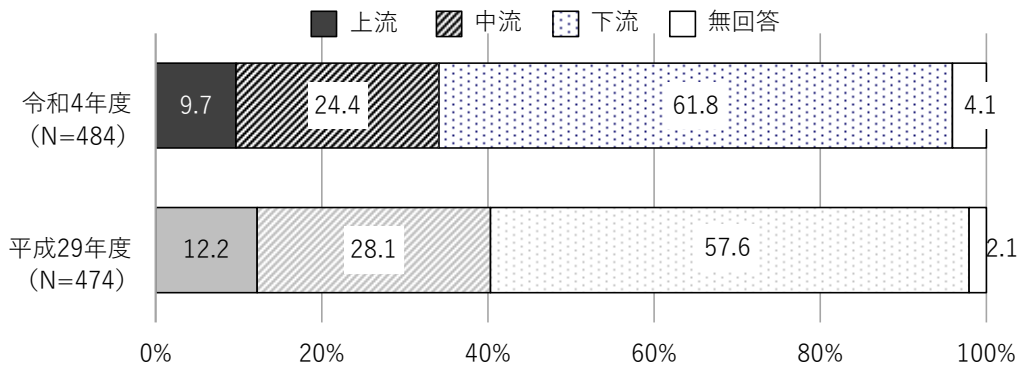
### 2. 年齢

あなたのお年はおいくつですか。(1つだけ○印)



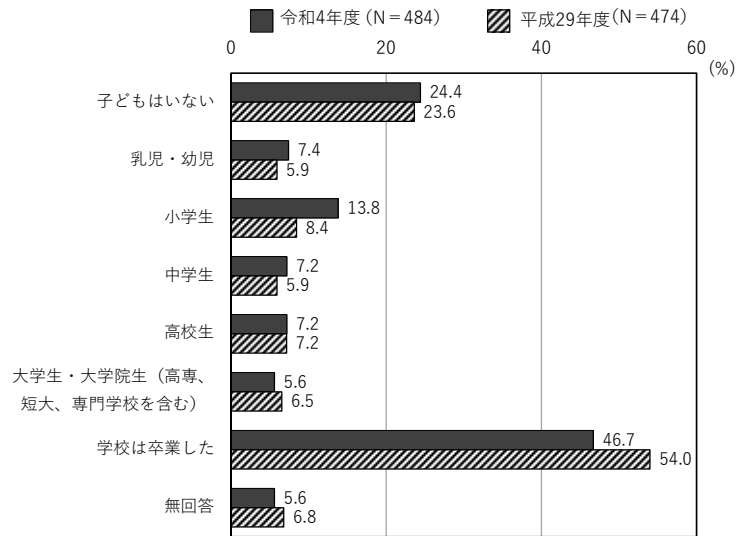
### 3. 居住地

現在のあなたのお住まいは、次のどちらですか。四万十市、四万十町、中土佐町、津野町にお住まいの方は、合併前の区域でお答えください。(1つだけ○印)



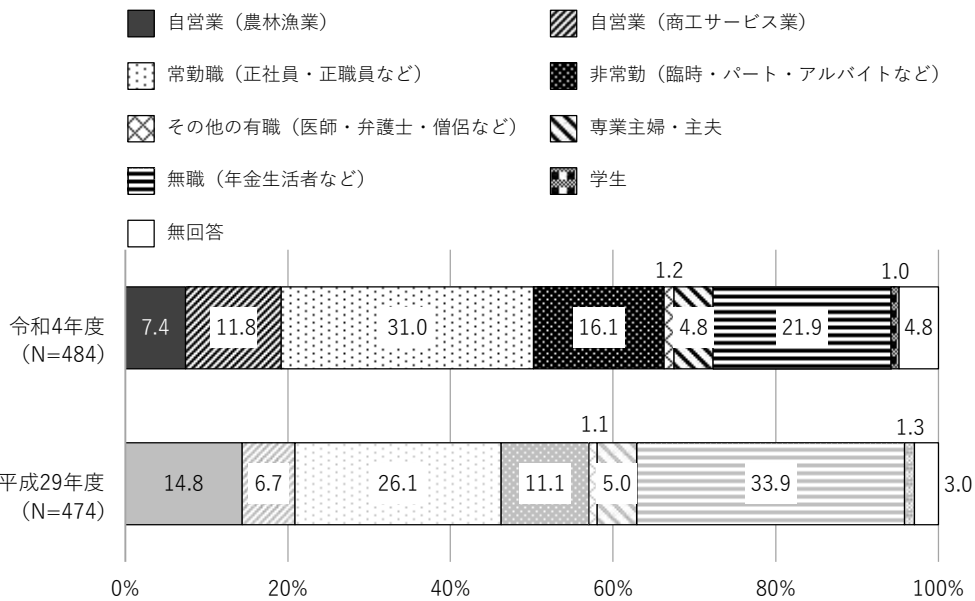
## 4. 子どもについて

あなたのお子様の成長段階を教えてください。(あてはまるもの全てに○印)



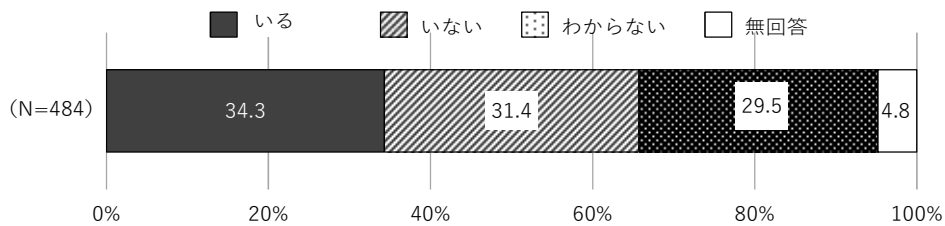
## 5. 職業

現在のあなたのご職業は何ですか。(1つだけ○印)



## 6. 後継者

今後、あなたの家を維持していく後継者がいますか。(1つだけ○印)



## 第3章 結果の総括

第5回目となる今回の調査では、公益財団法人四万十川財団に情報発信してほしい内容や四万十川流域の保全と振興に効果があった取組や今後必要な取組、更には四万十川の環境や景観の変化についてなど新たに設問を追加し、分析を行った。また、自由記述の回答について、流域住民からの生の声を収集することが出来た（第6章資料の3.自由回答一覧を参照）。

今回の調査の結果、暮らしの中で身近に四万十川と関わり、居住地域に愛着を持って生活している流域住民の姿が見受けられた。回答者の半数以上が川に出かけ、8割を超える回答者が地域に住み続けたいと思っている。

一方、環境を守る行動や意欲は前回調査から低下するとともに、20歳代、30歳代の若年層を中心に生活の満足度も前回調査から減少し、収入や雇用といった仕事面や、通勤・通学・通院といった公共交通の整備状況等といった交通・防災について満足度が低い傾向が見受けられた。地域の医療機関や病気に関する相談や診療面での満足度も比較的高いものの、満足していると答えた人の割合は前回調査より減少している。

また、回答者の半数近くは60歳以上、特に上流域では6割を超えており、30歳以下の割合は1割程度にとどまるなど、高齢化の傾向は依然として続いている。

今後の超高齢化社会に向けて、公共交通機関の利便性や地域経済や医療、介護の担い手となる若い世代への仕事や就職面、収入等の状況については依然課題も多く、状況改善の必要性はますます高まっていると言える。

こうした問題の多くは四万十川流域に留まらず、高知県全体が抱えている問題でもあり、県や流域市町村のほか、民間企業や団体、学術研究機関や地域の有識者等が協力し、新たな技術や研究成果を活用しつつ、改善に向けて取り組んでいくべき課題といえる。

### <1. 四万十川の保全に対する取組>

公益財団法人四万十川財団に対する流域住民の知名度は低く、前回調査から知名度は低下しており、およそ7割の人が知らないと答えた。居住地域別で見ると財団の事務所がある中流域がその他の流域に比べて若干知名度が高かった。また、公益財団法人四万十川財団に情報発信してほしい内容として、5割以上の人が清掃や美化活動のボランティア情報を求める声が多かった。

四万十川条例に対する流域住民の知名度も前回調査から低下し、68.5%の人が知らないと回答し、特に、前回調査と比較して下流域での知名度の低下が見受けられた。

四万十川条例の取組が四万十川流域の保全と振興に効果があったかについては、それぞれの取組に対しおよそ5～6割の人がそう思うと答えた。特に、効果が高かった取組として「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用についてはおよそ7割の人が効果があったと答えた。また、今後必要な取組の強化・内容として、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」や「環境学習の推進及び情報発信」について9割の人が必要と答えており、四万十川条例に基づく取組を継続していくとともに、景観や自然環境などの保全活動を強化し、活動に関する情報を広く発信していくことが重要であると考えられる。

## <2. 四万十川との関わり>

この一年間に四万十川に出かけた人の割合は前回調査から僅かながら増加し、およそ4割の人が月1～2回以上のペースで川に出かけている。川で何をしたかについては、散歩、ジョギング、散歩と答えた人が半数以上で、30歳代～40歳代の子育て世代を中心に水泳、水遊びを楽しむ人も多いことがうかがえる。また、釣りや魚とりに出かける人は毎日、週1～2回ぐらいの頻度で川に出かけている傾向が見受けられた。

四万十川の環境や景観等の変化については、季節ごとの優れた景観のみ良くなったと答えた人が多く、四万十川の水量や清流度、天然の水生动植物の生息や生育は4割以上の人が悪くなったと答えており、河川環境の悪化などが課題にあげられる。

## <3. 環境を守る行動や意欲>

環境を守る行動や取組については、全13項目において、前回調査よりも実施率が2.7ポイント低くなっており、環境に対する意識の低下が見受けられた。

環境を守るための寄付金に協力しても良いと思う人の割合も前回調査に比べて減少しているものの、一人あたりの寄付しても良いと思う金額は、前回調査よりも高額を答えた人が増加した。

講演会や美化・清掃活動などの環境を守る活動に参加したことのある人は4割以下と前回調査と比較して5.5ポイント減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で活動自体が少なかったことも要因のひとつと考えられるが、流域住民の環境意識の向上や環境活動への参加促進に向けた取組の強化が必要である。

## <4. 通信手段について>

携帯電話やスマートフォンなどの所有率は、前回調査から大幅に増加し、年代・流域など問わずほぼ全ての人が所有している。携帯電話やスマートフォンなどのインターネット利用率も50歳代以下では8割以上、自宅でのパソコンなどのインターネット利用率も50歳代以下では7割以上であった。

自宅でのインターネットの普及率は17.4ポイント増加し61.4%となったものの、総務省が行った「令和3年通信利用動向調査」でのインターネット利用率（個人）は82.9%と、全国と比べて普及率が低くなった。

## <5. 居住意思>

今住んでいる地域にずっと住み続けたい人の割合は前回調査から0.5ポイント増とほぼ同じ割合であった。住み続けたいと答えた割合は30歳代以上では8割を超えており、年代が高くなるにつれて割合も高くなった。特に後継者がいる家庭ではより割合が高くなった。

## <6. 生活の満足度>

生活の満足度については、7割近くの人が現在の居住環境に満足しており、前回調査よりも満足度が増加した項目に、自然環境や生活の快適さなど地域のくらしに関する項目と、子育て環境や保育園、幼稚園の充実、公園や運動施設などの利便性があげられる。

一方で、市町村の行政に自分の意見が十分に採り入れられること、仕事や収入等の面、バスや電車等の公共交通機関の利便性については、満足度が低い状態が続いている。

## <今後の課題と次回調査にむけての提案>

住民の高齢化に伴い、回答者の半数近くが50歳代～60歳代（回答率49.8%、調査対象地域の人口割合：31.7%）で、30歳代以下の回答率は10.7%（調査対象地域の人口割合：17.6%）と低くなっており、5年後の調査では、若年層の回収率を上げるための工夫が必要と思われる（※調査対象地域の人口の出典：令和2年国勢調査人口等基本集計結果）。例として、過去の調査の年代別の回答率からあらかじめ年代別の調査数を調整したり、母集団（対象地域の年代別人口等）の構成比に調整（拡大集計：ウエイトバック）して集計結果を算出する等の対応を検討すべきであろう。

また、前回調査では、環境を守る行動や意欲について、環境省の「環境にやさしいライフスタイル実態調査」との比較を行い、流域住民と全国調査との比較を行っていたが、環境省の同調査が令和元年度以降実施されておらず、全国調査との比較が出来なかった。

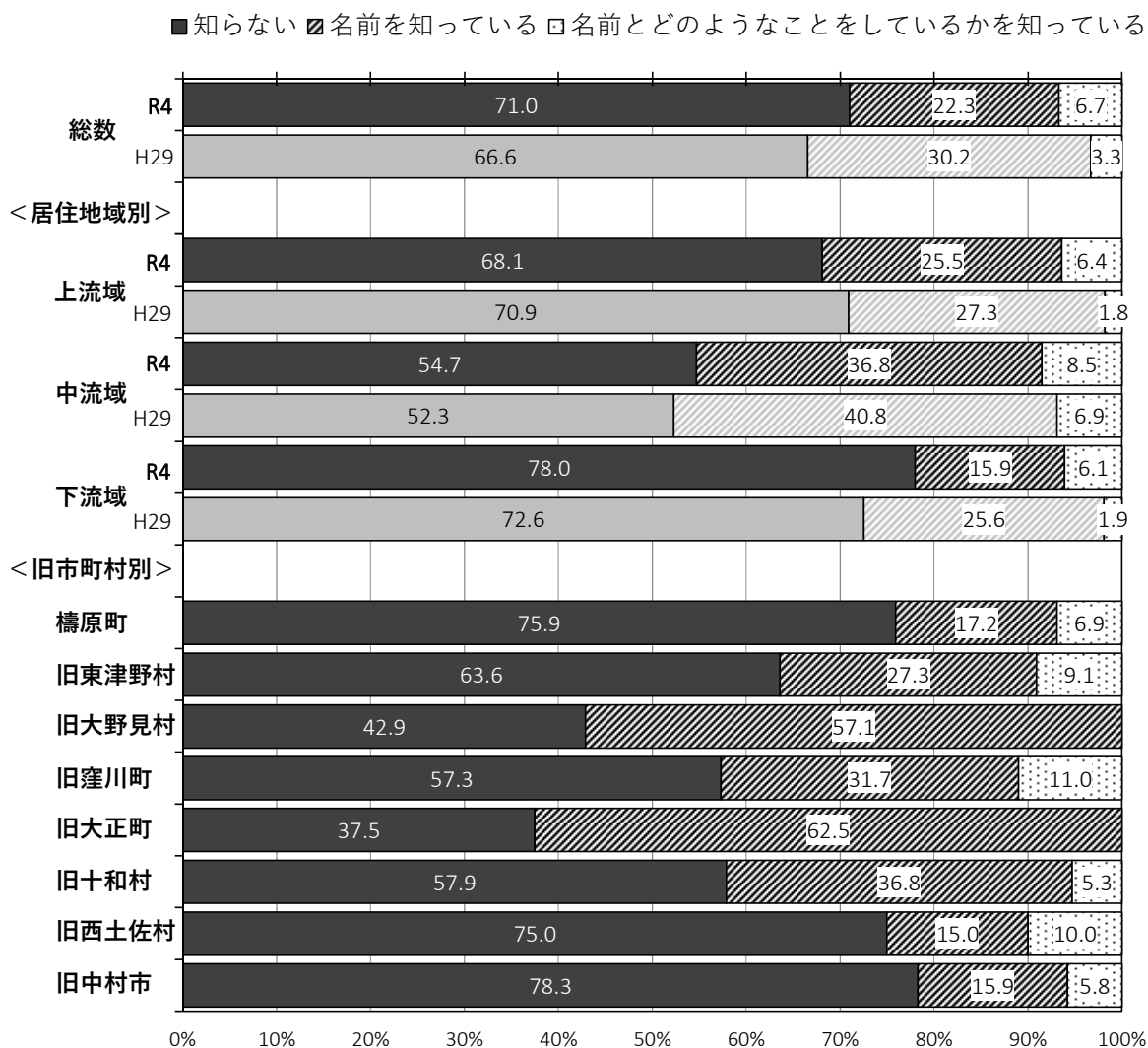
調査開始時とライフスタイルが変化しており、近年の環境を守る行動の変化を踏まえ、前回調査との比較に留意しつつ、全国調査との比較が容易な質問項目への変更を検討すべきであろう。

## 第4章 結果の概要

### 1. 四万十川の保全に対する取組

問1 あなたは、「公益財団法人四万十川財団」という組織をご存知ですか。(1つだけ○印)

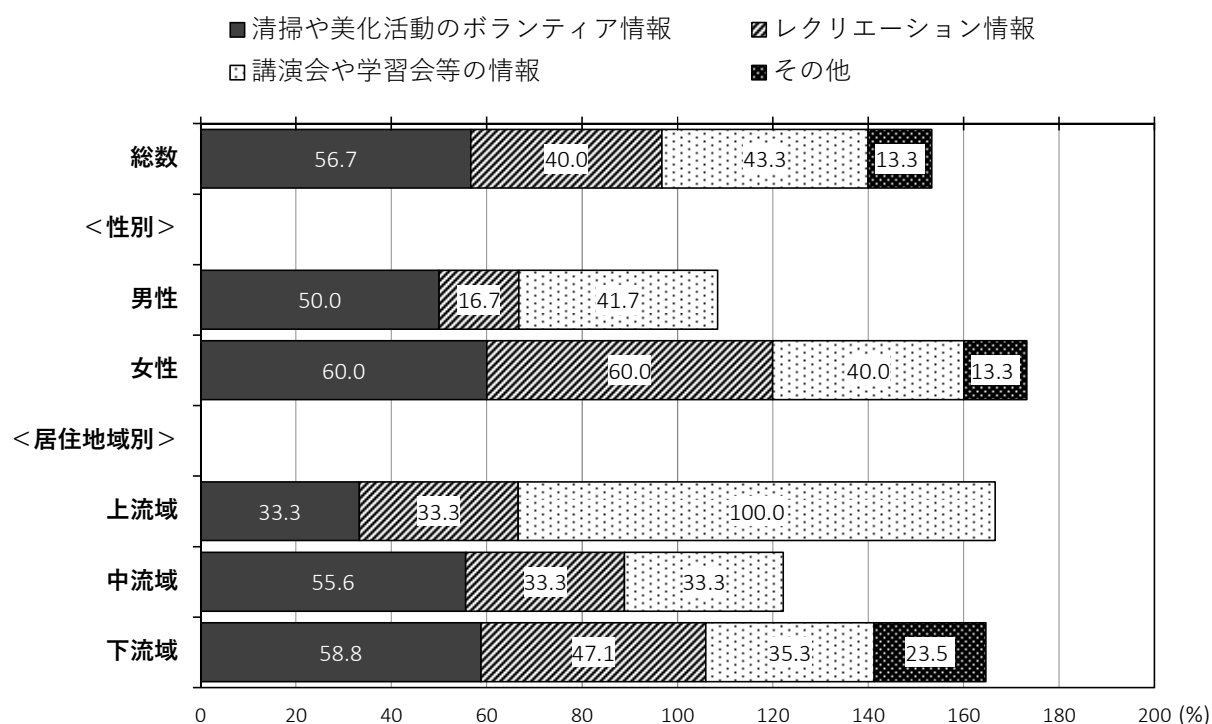
- ・「知らない」と答えた人の割合は71.0%を占め、前回調査と比較して4.4ポイント増加しており、知名度の低下がうかがえたものの、「名前とどのようなことをしているか知っている」と答えた人の割合は3.4ポイント増加した。
- ・財団の事務所がある中流域では45.3%の『知名度』(「名前を知っている」+「名前とどのようなことをしているかを知っている」)があるものの、上流域では31.9%、下流域では22.0%の『知名度』にとどまることから、『知名度』が低い地域への周知が課題である。
- ・旧大正町は『知名度』が62.5%と最も高く、一方で、旧中村市は21.7%、橋原町は24.1%、旧西土佐村は25.0%と『知名度』が低くなった。



問1で「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた方にお聞きします。

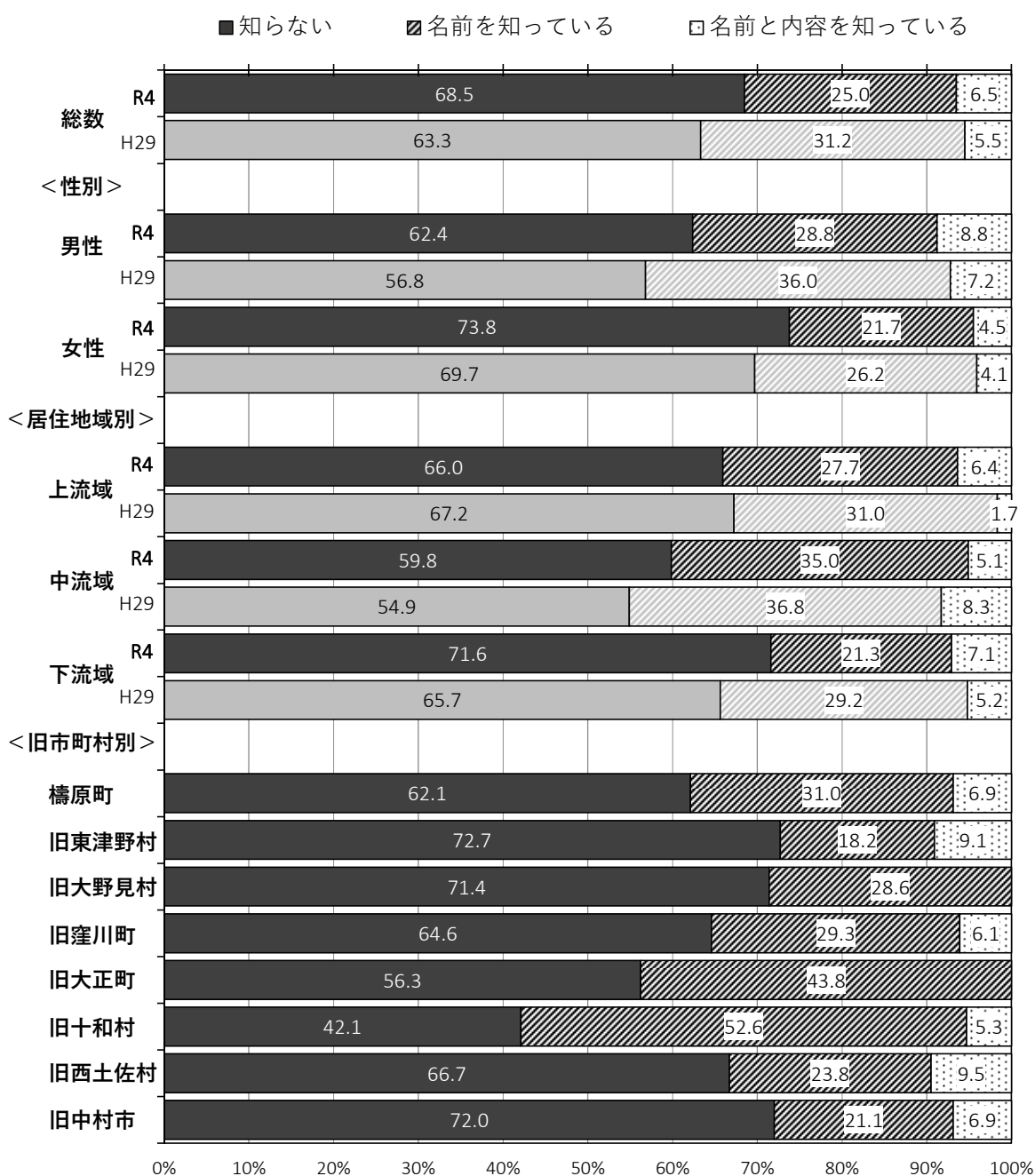
問2 あなたが四万十川について、「公益財団法人四万十川財団」に情報発信してほしい内容を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合は56.7%と最も高く、次いで「講演会や学習会等の情報」が43.3%、「レクリエーション情報」が40.0%、「その他」が13.3%であった。
- ・上流域では「講演会や学習会等の情報」が100.0%、中流域と下流域では「清掃や美化活動のボランティア情報」が5割以上と最も高く、地域によって求めている情報に特徴があることがわかった。



問3 あなたは、「四万十川条例（正式名称：高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例）」をご存知ですか。（1つだけ○印）

- ・「知らない」と答えた人の割合は68.5%を占め、前回調査と比較して5.2ポイント増加した。
- ・「知らない」と答えた人の割合は、男性が62.4%で、女性が73.8%と男性より女性の方が1割以上知名度が低くなった。
- ・中流域では40.1%の『知名度』（「名前を知っている」+「名前と内容を知っている」）があるものの、上流域では34.1%、下流域では28.4%の『知名度』にとどまることから、『知名度』が低い地域への周知が課題である。
- ・旧十和村では57.9%と『知名度』が最も高く、一方で、旧東津野村では27.3%、旧中村市では28.0%、旧大野見村では28.6%と『知名度』が低くなった。



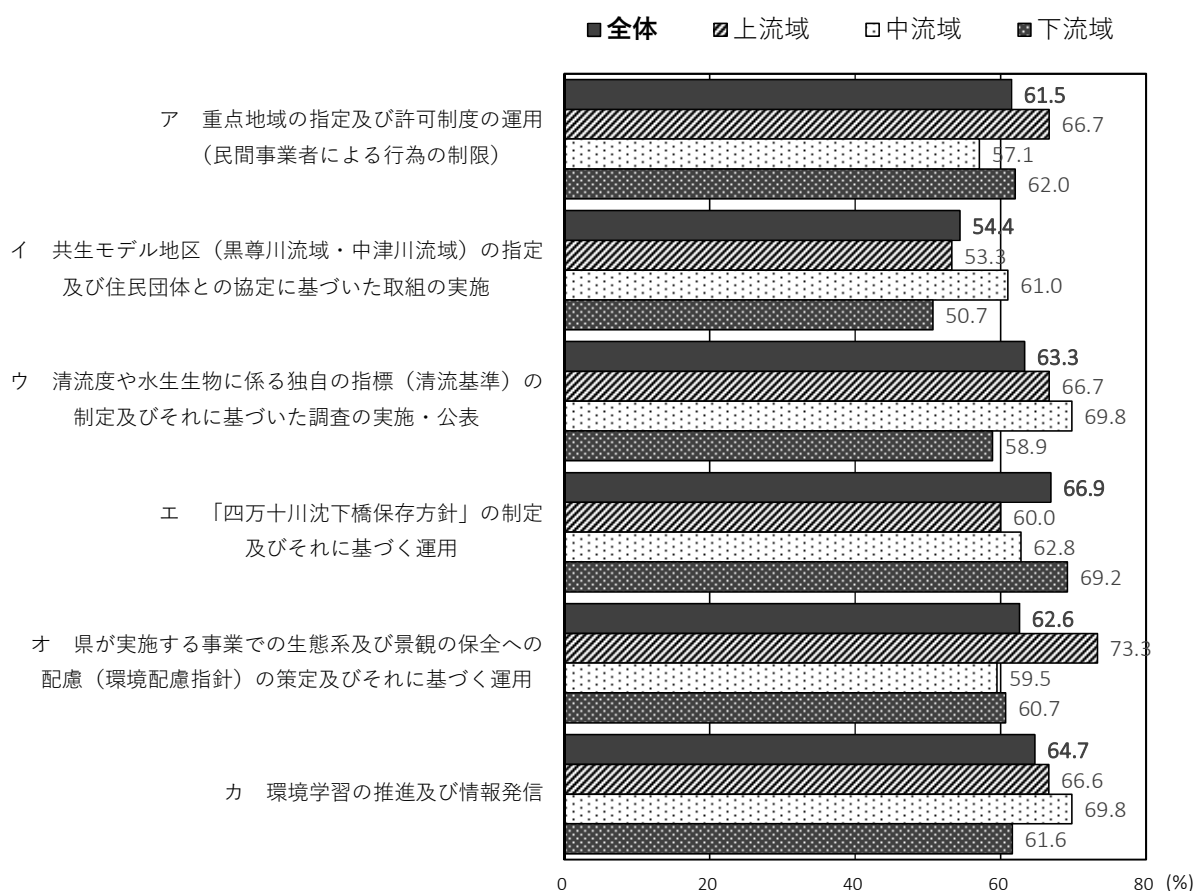


問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きます。

問4 あなたは、四万十川条例の取組が四万十川流域の保全と振興に効果があったと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

- ・全6項目中、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と答えた割合が最も高かったのは、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」が66.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が64.7%、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」が63.3%となっており、全ての項目で『そう思う』は5割以上であった。
- ・上流域では、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用」への『そう思う』の割合が高い傾向が見受けられた。
- ・中流域では、「重点地域の指定及び許可制度の運用」について『そう思う』と答えた割合が低い一方、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」への『そう思う』の割合が高い傾向が見受けられた。
- ・下流域では、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」への『そう思う』の割合が高く、地域によって四万十川条例の取組に対する効果への認識に違いがあった。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を  
合わせた【そう思う】と答えた割合



- 各設問での旧市町別の特色として、「重点地域の指定及び許可制度の運用」では、旧窪川町、旧東津野村で効果について「どちらともいえない」の割合が高くなった。「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」では、旧十和村、檮原町での『そう思う』の割合が高くなった。

「重点地域の指定及び許可制度の運用」

単位=(%) 網掛け= <b>高い割合</b>		そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
上 流 域	檮原町	63.7	36.4	0.0
	旧東津野町	50.0	<b>50.0</b>	0.0
	旧大野見村	100.0	0.0	0.0
中 流 域	旧窪川町	52.0	<b>44.0</b>	4.0
	旧大正町	57.2	42.9	0.0
	旧十和村	70.0	20.0	10.0
下 流 域	旧西土佐村	57.2	42.9	0.0
	旧中村市	62.5	38.3	4.2

「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」

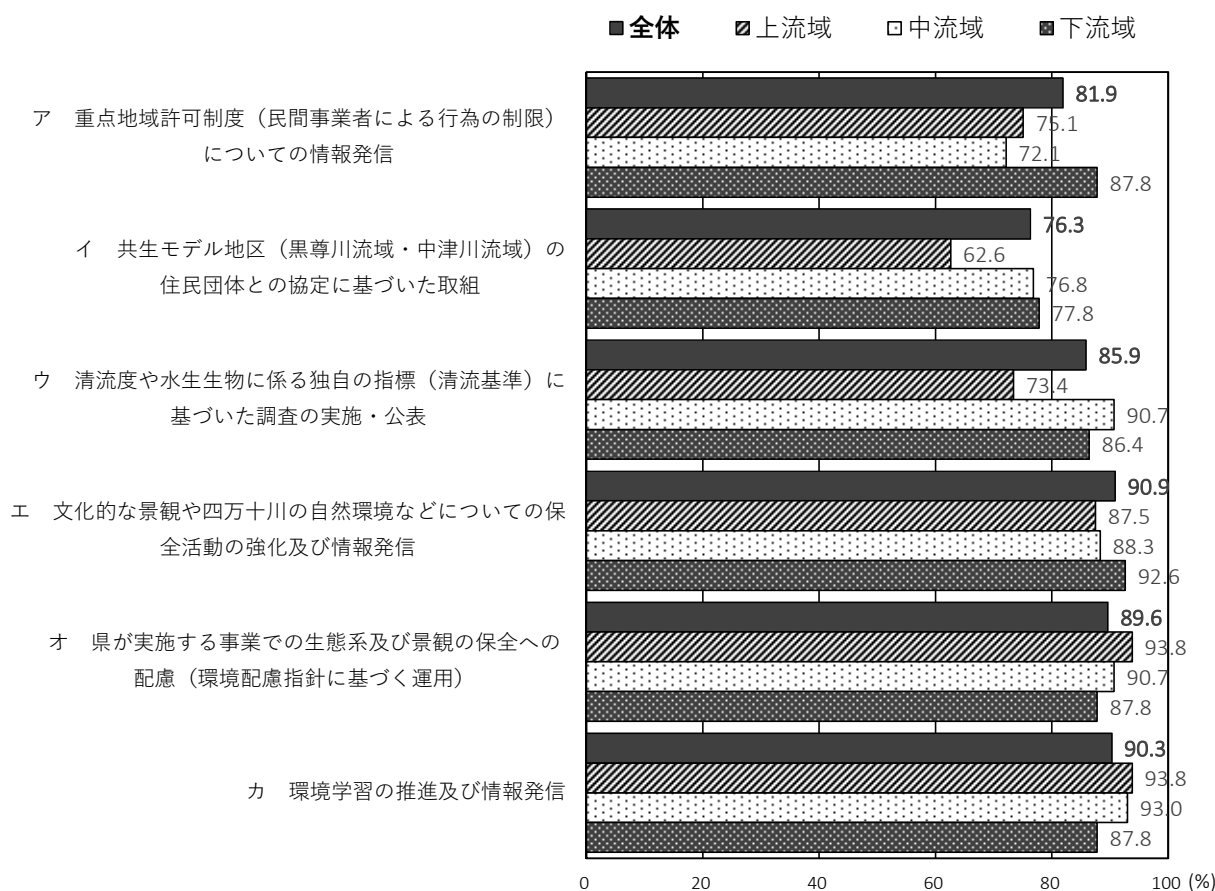
単位=(%) 網掛け= <b>高い割合</b>		そう思う	どちらとも いえない	そう思わない
上 流 域	檮原町	<b>72.8</b>	27.3	0.0
	旧東津野町	50.0	50.0	0.0
	旧大野見村	50.0	50.0	0.0
中 流 域	旧窪川町	68.0	28.0	4.0
	旧大正町	57.1	28.6	14.3
	旧十和村	<b>81.8</b>	18.2	0.0
下 流 域	旧西土佐村	57.2	28.6	14.3
	旧中村市	59.1	32.4	8.4

問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問5 あなたは、四万十川流域の保全と振興をより進めるためには、どのような取組の強化・内容の充実が必要だと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・『必要』（「必要」＋「どちらかといえば必要」）と答えた割合は、全ての項目で7割以上であった。全6項目中、『必要』と答えた割合が最も高かったのは、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」の90.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が90.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が89.6%であった。
- ・上流域では、「共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の住民団体との協定に基づいた取組」や「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・広報」の項目について『必要』と答えた割合が低くなっている傾向が見受けられた。「重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」の項目について、中流域では『必要』と答えた割合が低くなっている一方、下流域では『必要』と答えた割合が高くなっていることが見受けられた。

「必要」と「どちらかといえば必要」を  
合わせた【必要】と答えた割合



- ・各設問での旧市町別の特色として、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」及び「環境学習の推進及び情報発信」が、いずれも旧東津野村、旧大野見村、旧大正町、旧西土佐村で『必要』の割合は100.0%と高くなっている。

「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」

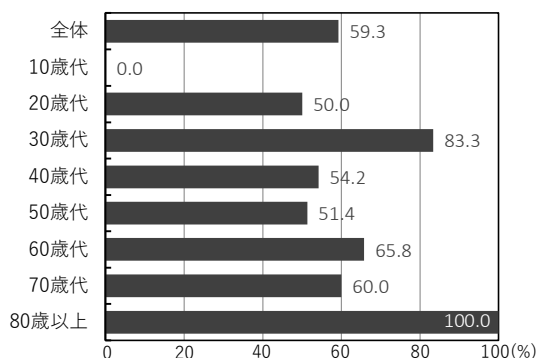
単位=(%) 網掛け= 高い割合		必要	どちらとも いえない	不必要
上 流 域	禰原町	81.8	18.2	0.0
	旧東津野町	100.0	-	0.0
	旧大野見村	100.0	-	0.0
中 流 域	旧窪川町	84.7	11.5	3.8
	旧大正町	100.0	-	0.0
	旧十和村	90.0	10.0	0.0
下 流 域	旧西土佐村	100.0	-	0.0
	旧中村市	91.9	6.8	1.4

「環境学習の推進及び情報発信」

単位=(%) 網掛け= 高い割合		必要	どちらとも いえない	不必要
上 流 域	禰原町	91.0	9.1	0.0
	旧東津野町	100.0	-	0.0
	旧大野見村	100.0	-	0.0
中 流 域	旧窪川町	92.3	7.7	0.0
	旧大正町	100.0	-	0.0
	旧十和村	90.0	10.0	0.0
下 流 域	旧西土佐村	100.0	-	0.0
	旧中村市	86.7	12.0	1.3

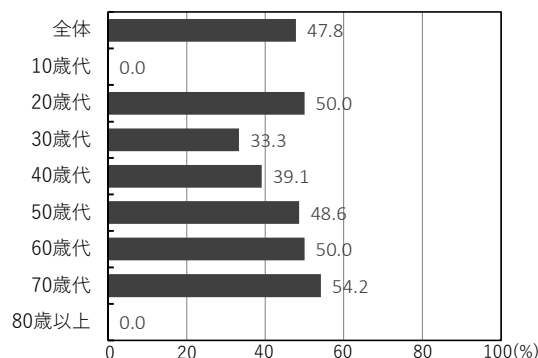
- ・四万十川条例の取組（全6項目）について、四万十川流域の保全と振興に効果があったかについて『そう思う』と回答し、かつ、取組の強化・内容の充実が『必要』と答えた人の割合は、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」が64.7%と最も高く、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が63.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用／県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が60.4%といずれも6割以上であった。
- ・「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」は20歳代（75.0%）と70歳代（70.4%）がその他の年代と比べて高くなった。
- ・「重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）／重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」は30歳代（83.3%）と80歳以上（100.0%）がその他の年代と比べて高くなった。

【効果】重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）  
【必要】重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信



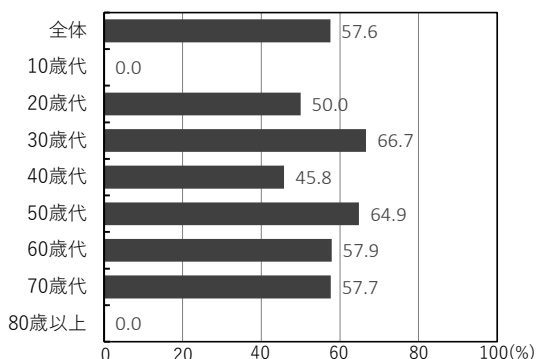
【効果】共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の指定及び住民団体との協定に基づいた取組の実施

【必要】共生モデル地区（黒尊川流域・中津川流域）の住民団体との協定に基づいた取組



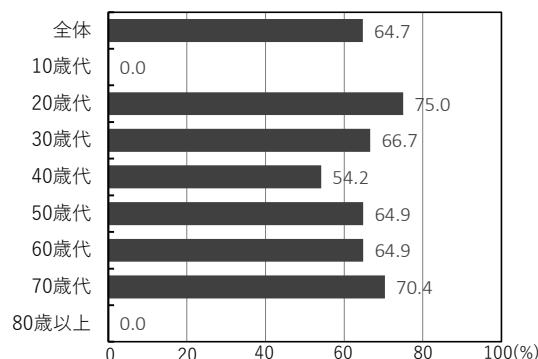
【効果】清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表

【必要】清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・公表



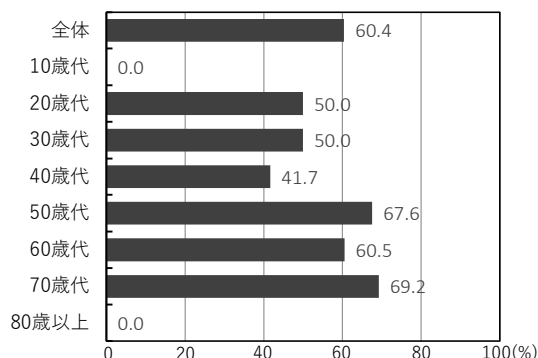
【効果】「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用

【必要】文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信



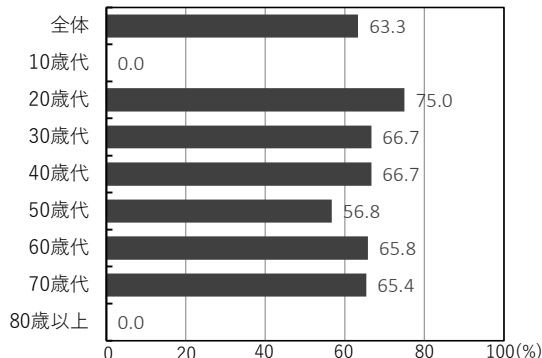
【効果】 県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用

【必要】 県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）に基づく運用



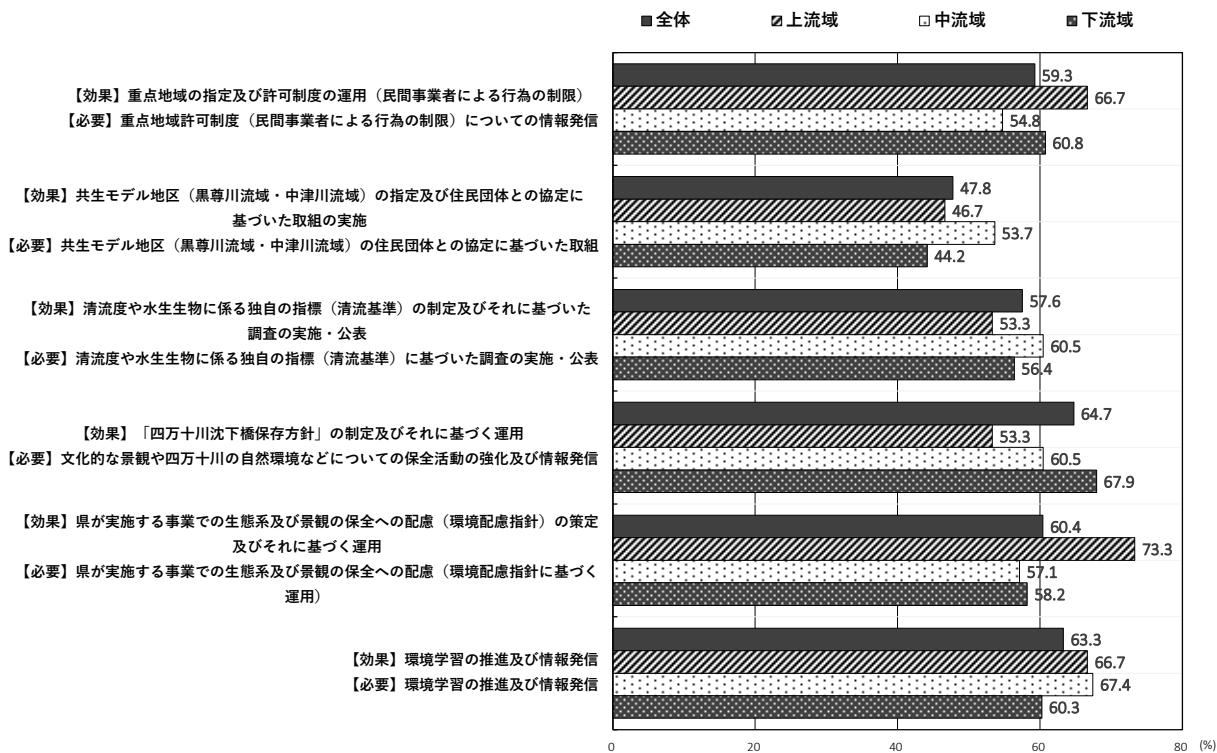
【効果】 環境学習の推進及び情報発信

【必要】 環境学習の推進及び情報発信



- ・下流域では「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用／文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」が67.9%と、その他の流域と比べて高くなった。
- ・上流域では「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用／県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が73.3%、中流域では「環境学習の推進及び情報発信」が67.4%とそれぞれ高くなった。

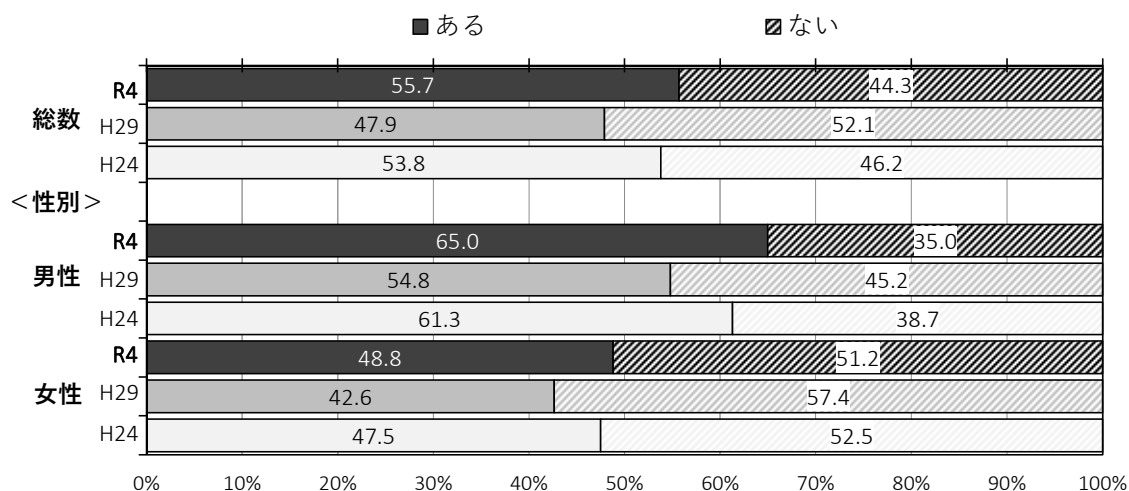
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】と答えて、かつ【必要】と「どちらかといえば必要」を合わせた【必要】と答えた割合



## 2. 四万十川との関わり

問6 あなたは、この1年間に仕事以外で川にでかけたことがありますか。(1つだけ○印)

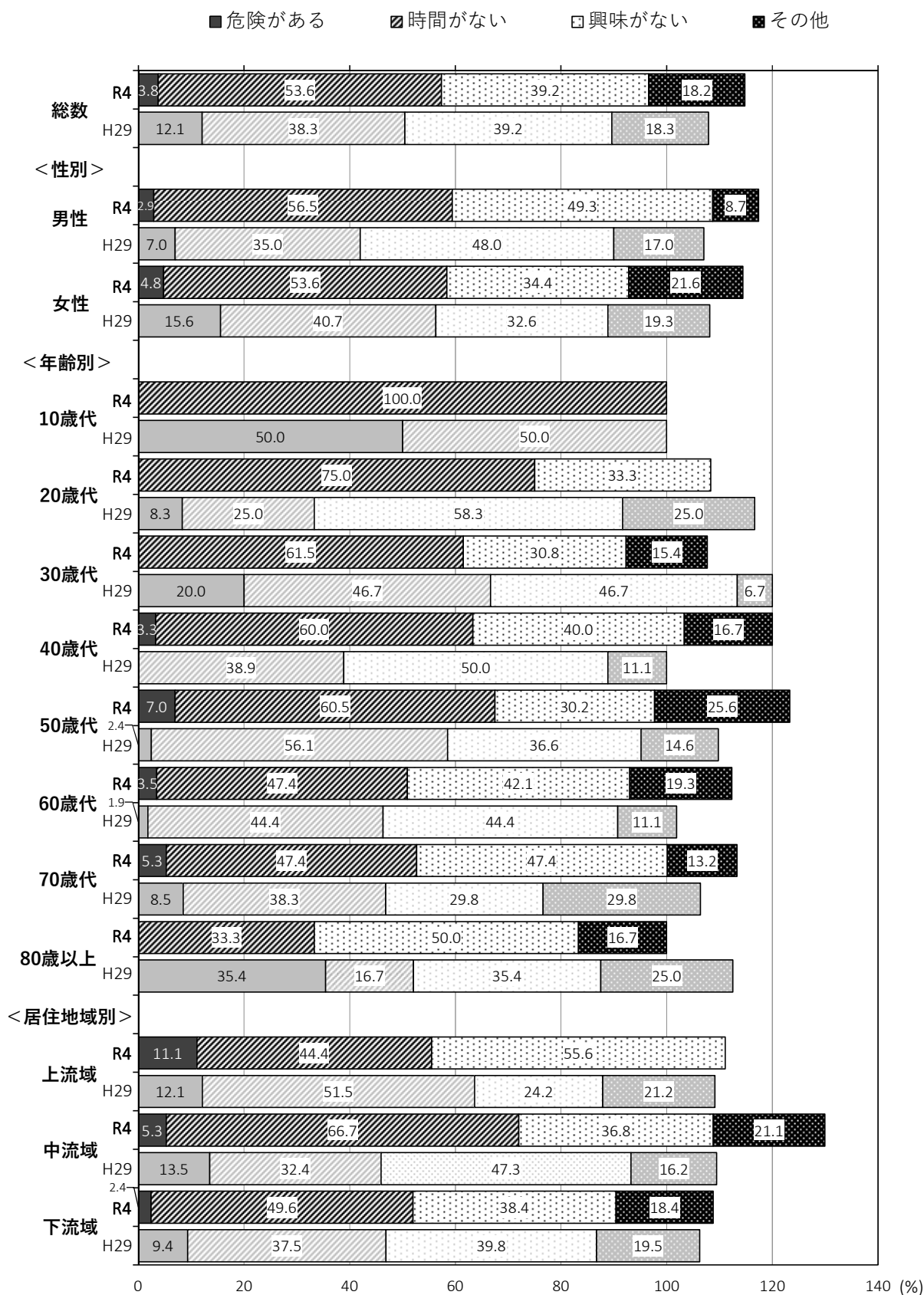
- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、55.7%（前回：47.9%・前々回：53.8%）と直近3回の調査の中で最も高くなった。
- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、男性が65.0%、女性が48.8%と、女性より男性の方が川に出かける人の割合が2割程度高くなった。



問6で「ない」と答えた方にお聞きします。

問7 問6で「ない」と答えた理由を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「時間がない」と答えた人の割合は53.6%（前回：38.3%）と前回調査から15.3ポイント増加し最も高く、次いで「興味がない」が39.2%（前回：39.2%）となった。
- ・男女ともに「時間がない」と答えた人の割合は5割以上と最も高く、男性では「興味がない」と答えた人の割合が49.3%と比較的高くなった。また、女性では「その他」で「(川にでかける)用事がない・機会がない・理由がない」等の意見があった。
- ・60歳代以下では「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、70歳代以上では「興味がない」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・中流域と下流域では「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、上流域では「興味がない」と答えた人の割合が最も高くなった。

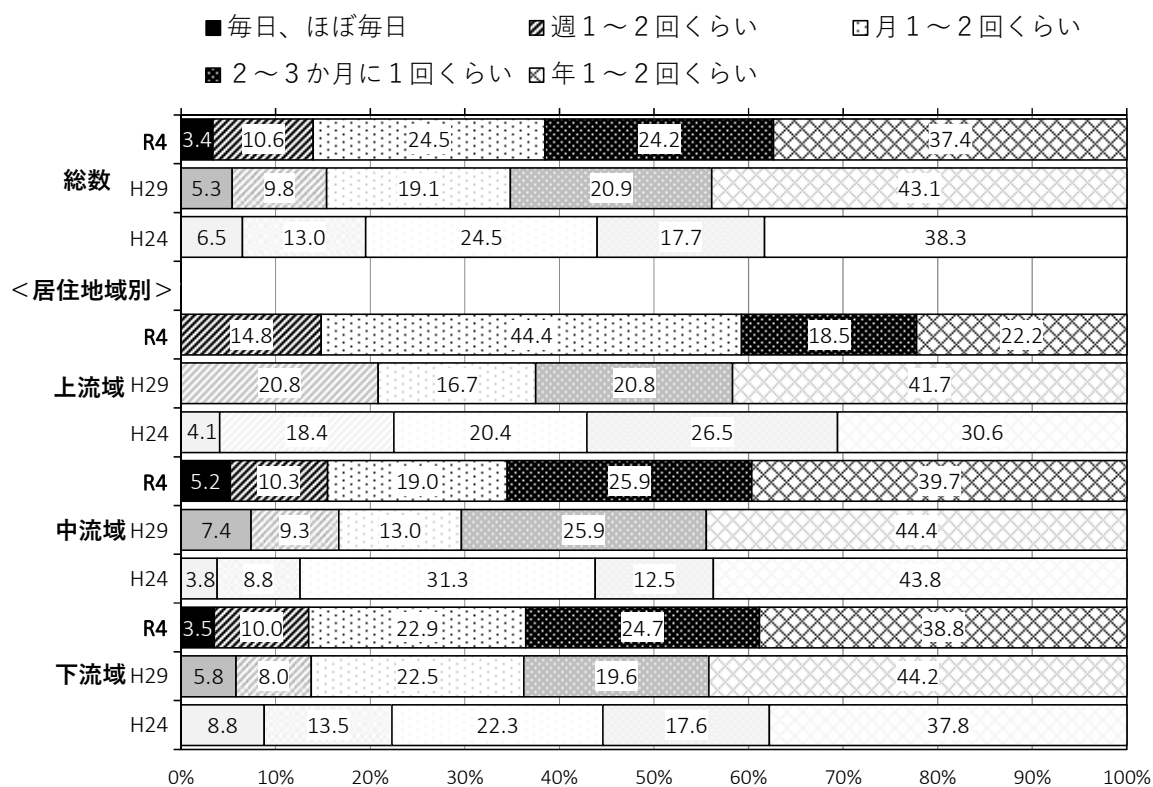




問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問8 あなたは、この1年間にどれくらい川にでかけましたか。(1つだけ○印)

- ・「年1～2回くらい」と答えた人の割合が37.4%（前回：43.1%）で最も高く、次いで「月1～2回くらい」が24.5%で、「2～3か月に1回くらい」が24.2%と続いている。
- ・「月1～2回くらい」の24.5%と「週1～2回くらい」の10.6%と「毎日、ほぼ毎日」の3.4%を合わせると38.5%（前回：34.2%、前々回：44.0%）が『月に1～2回くらい』以上は川に出かけており、前回調査から4.3ポイント増加したが、前々回よりも5.5ポイント減少した。
- ・『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合は、上流域が59.2%（前回：37.5%、前々回：42.9%）と直近3回の調査で割合が最も高くなったものの、上流域では「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は0.0%（前回：0.0%、前々回：4.1%）であった。また、中流域と下流域では『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合はいずれも4割以下であった。



問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問9 あなたは、この1年間に川で、何をしましたか。(あてはまるもの全てに○印)

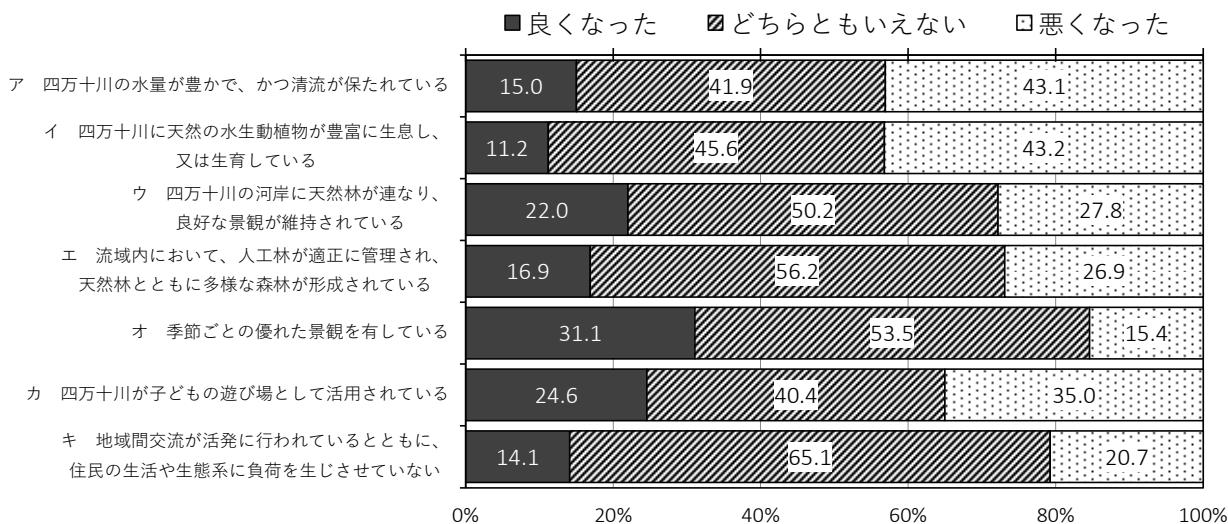
- ・「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は56.4%と最も高く、次いで「水泳、水遊び」33.3%であった。
- ・川に出かけた頻度別では、いずれの頻度も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合が最も高く、特に毎日、ほぼ毎日では88.9%と最も高く、「アユ以外の釣り、魚とり」「アユ釣り、アユとり」と答えた人は週に1～2回以上と川に出かける頻度は高いことがうかがえる。

単位=(%) 網掛け=		散歩、ジョギング、散策	水泳、水遊び	清掃活動などのボランティア活動	アユ以外の釣り、魚とり	キャンプ、バーベキュー	その他	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	アユ釣り、アユとり	ボート、カヌーなど
1位										
2位										
全体		56.4	33.3	17.0	14.4	11.7	11.7	10.2	9.1	5.3
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	88.9	-	11.1	33.3	-	22.2	22.2	22.2	11.1
	週1～2回くらい	57.1	32.1	14.3	25.0	7.1	7.1	21.4	32.1	10.7
	月1～2回くらい	73.0	31.7	14.3	12.7	20.6	15.9	14.3	9.5	3.2
	2～3か月に1回くらい	62.5	37.5	25.0	18.8	15.6	10.9	6.3	1.6	6.3
	年1～2回くらい	39.4	35.4	15.2	8.1	6.1	9.1	6.1	6.1	4.0

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

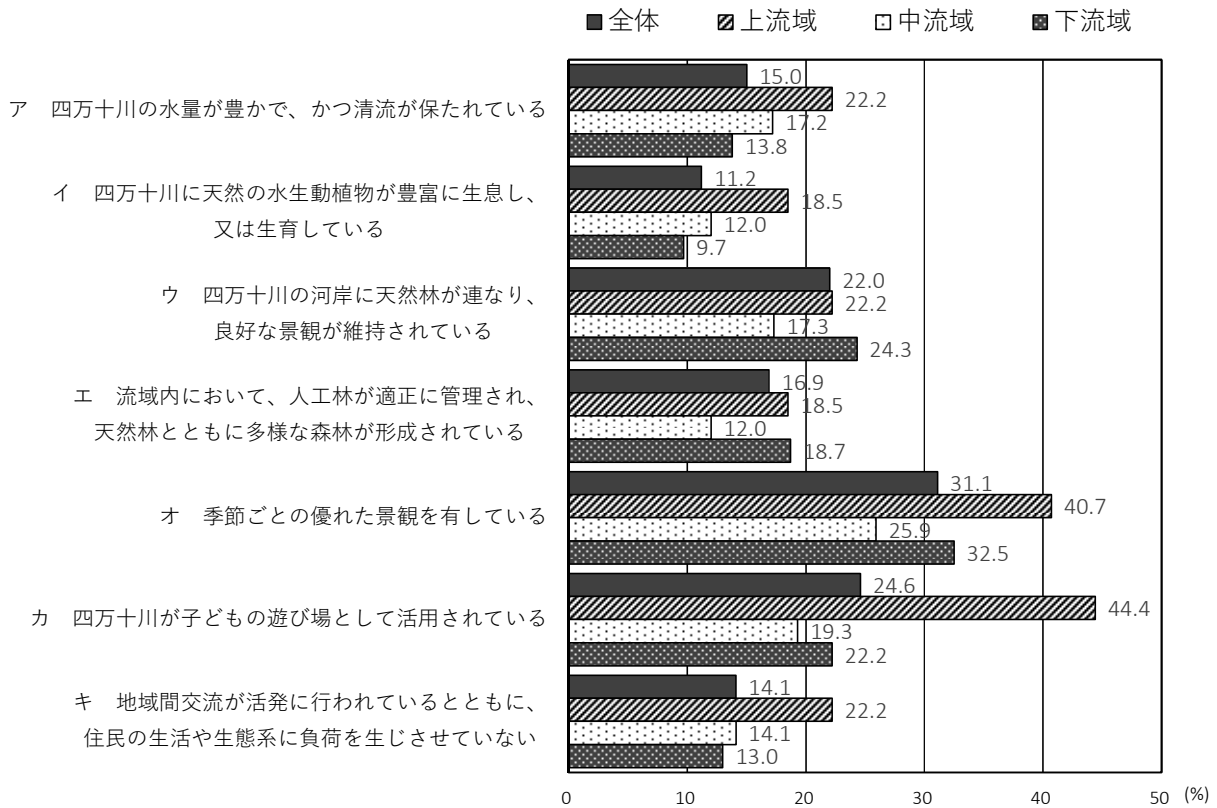
問10 あなたは、四万十川の環境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。ア～キのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・全7項目中、『良くなった』(「良くなった」+「どちらかといえば良くなった」)が『悪くなった』(「悪くなった」+「どちらかといえば悪くなった」)を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」の1項目のみで、『良くなった』と答えた人の割合は31.1%であった。
- ・『悪くなった』と答えた人の割合が最も高かったのは「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.2%で、次いで「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」が43.1%、「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」が35.0%であった。

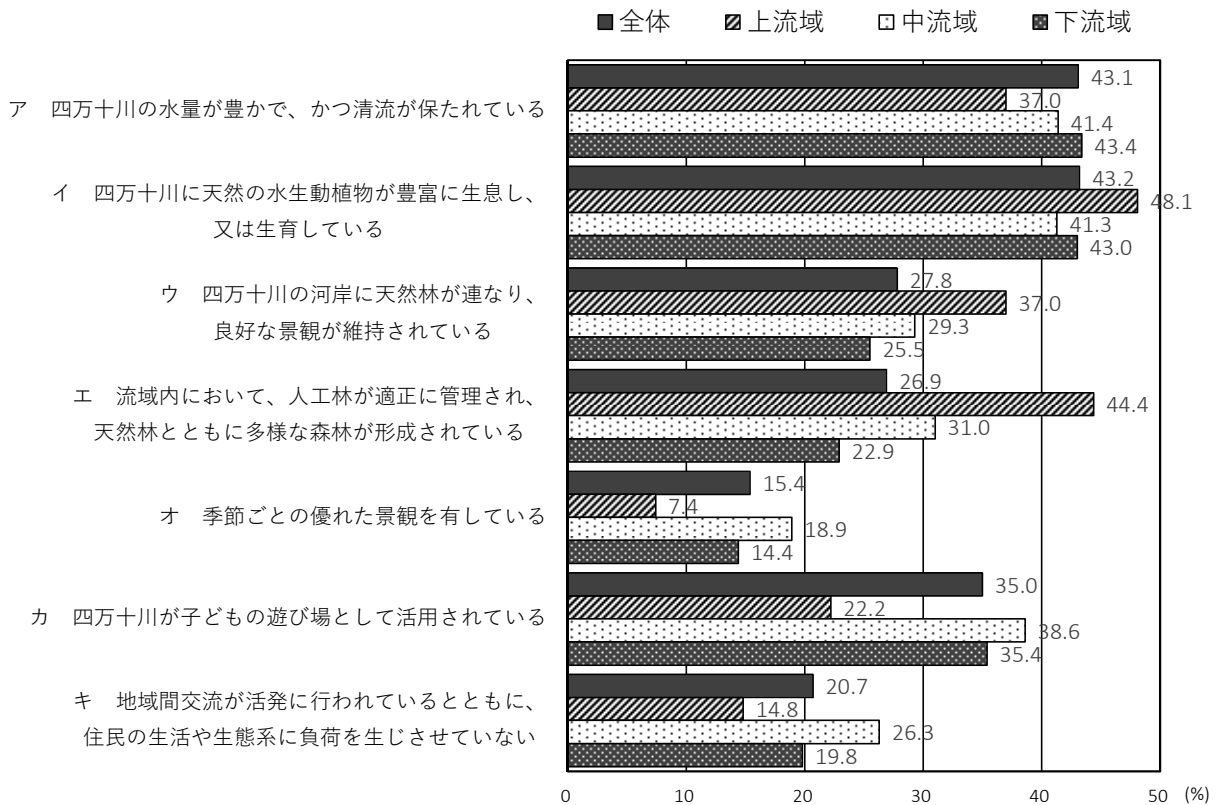


- ・全流域で『悪くなった』と答えた人の割合が『良くなった』を最も上回ったのは、「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」（上流域：29.6ポイント差・中流域：29.3ポイント差・下流域：33.3ポイント差）で、次いで上流域では「流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている」（25.9ポイント差）、中流域及び下流域では「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」（中流域：24.2ポイント差・下流域：29.6ポイント差）であった。
- ・川に出かけた頻度別では、「週1～2回くらい」以下においては「季節ごとの優れた景観を有している」で『良くなった』と答えた人の割合が高く、一方で、「毎日、ほぼ毎日」では7項目全てで『悪くなった』と答えた人の割合が高くなった。特に「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」で77.7%と最も高くなった。
- ・「川で何をしたか」別では、「アユ釣り、アユとり」以外では「季節ごとの優れた景観を有している」と答えた人の割合は『良くなった』が『悪くなった』を上回っており、特に「キャンプ、バーベキュー」では『良くなった』が48.4%と最も高くなった。
- ・「アユ釣り、アユとり」では7項目全てで『悪くなった』が『良くなった』を上回っており、特に「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」と「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」と「四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている」が『悪くなった』と答えた人の割合が5割以上と高くなった。
- ・「清掃活動などのボランティア活動」においても「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」が『悪くなった』と答えた人の割合が54.5%と最も高くなった。
- ・これらのことから、景観面以外は悪くなったと感じる割合が高く、特に、アユ釣り等の目的で川に出かける頻度が高く、川と密接に生活している人たちは、四万十川の水量や水生动植物への影響を感じていることがうかがえる。

「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」  
を合わせた【良くなった】と答えた割合



「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」  
を合わせた【悪くなった】と答えた割合



<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け=		「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった】と答えた割合						
1位		ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている	イ 四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している	ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている	エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている	オ 季節ごとの優れた景観を有している	カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている	キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない
2位								
全体		15.0	11.2	22.0	16.9	31.1	24.6	14.1
川に出かけた頻度別	ほぼ毎日	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	22.2
	週1~2回くらい	10.7	14.3	14.3	14.3	21.4	21.5	11.1
	月1~2回くらい	17.7	9.7	29.1	22.6	37.7	30.7	14.6
	2~3か月に1回くら	17.2	15.9	17.2	14.3	29.7	26.6	17.7
	年1~2回くらい	13.6	7.3	24.2	16.5	31.9	21.9	11.7
川で何をしたか別	散歩、ジョギング、散策	16.3	12.3	24.0	18.4	33.8	23.7	15.3
	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	14.8	7.4	18.5	14.8	18.5	29.6	15.4
	水泳、水遊び	16.4	10.6	25.6	17.5	35.3	33.0	19.5
	アユ釣り、アユとり	16.6	8.3	4.3	0.0	4.2	8.4	8.4
	アユ以外の釣り、魚とり	13.5	13.9	5.4	10.8	16.2	29.7	8.4
	ボート、カヌーなど	14.3	14.3	35.7	14.2	35.7	35.7	30.8
	キャンプ、バーベキュー	19.3	22.6	32.2	25.8	48.4	36.7	16.7
	清掃活動などのボランティア活動	8.8	6.8	13.3	13.3	24.4	20.0	8.9
その他	6.4	9.7	25.9	19.4	32.2	19.4	16.2	

単位=(%) 網掛け=		「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」を合わせた【悪くなった】と答えた割合						
1位		ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている	イ 四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している	ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている	エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている	オ 季節ごとの優れた景観を有している	カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている	キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない
2位								
全体		43.1	43.2	27.8	26.9	15.4	35.0	20.7
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	66.6	66.6	55.5	55.5	22.2	77.7	55.5
	週1~2回くらい	46.4	50.0	39.2	32.1	17.9	39.2	11.1
	月1~2回くらい	38.7	40.3	24.2	24.2	13.1	29.1	11.3
	2~3か月に1回くら	42.2	42.8	23.5	25.3	10.9	36.0	22.6
	年1~2回くらい	42.7	40.6	26.3	25.8	18.6	32.3	25.5
川で何をしたか別	散歩、ジョギング、散策	47.6	47.6	28.7	25.9	17.6	37.8	19.4
	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	40.7	48.1	22.2	25.9	14.8	40.7	23.1
	水泳、水遊び	31.8	35.3	24.4	19.8	8.3	23.5	11.0
	アユ釣り、アユとり	54.2	54.2	52.2	45.8	20.8	33.4	20.8
	アユ以外の釣り、魚とり	45.9	33.3	27.0	27.0	5.4	16.2	19.5
	ボート、カヌーなど	21.4	28.5	28.6	21.4	7.1	14.2	15.4
	キャンプ、バーベキュー	25.8	22.6	9.7	16.1	3.2	20.0	6.6
	清掃活動などのボランティア活動	48.9	54.5	26.6	28.9	17.8	37.8	26.7
その他	45.2	38.8	35.5	35.5	25.8	51.7	35.5	

### 3. 環境を守る行動や意欲

問11 あなたは、次のことがらについて、日頃どの程度行なっていますか。ア～スのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

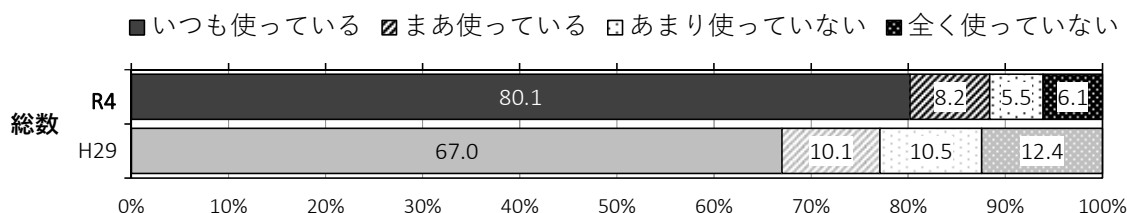
- ・前回調査では、環境を守る行動について環境省の「環境にやさしいライフスタイル実態調査（平成28年度）」との比較を行っていたが、環境省の同調査が令和元年度以降実施されておらず、近年の国の調査で比較できる項目が無かったため、今回は属性ごとの特徴について分析した。
- ・13項目中11項目において、前回調査よりも『実施率』（「いつも行っている」＋「だいたい行っている」）が減少しており、『実施率』の高い順に並べた項目ごとの順位は、第1位は「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」が94.1%（前回：94.3%・0.2ポイント減少）、第2位が「使った油は流しから流さないようにしている」が86.2%（前回：85.4%・0.8ポイント増加）であった。一方で、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」と「米のとぎ汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」の『実施率』が3割未満と低くなった。
- ・80歳以上は全13項目の『実施率』の平均値が74.7%と最も高くなった。
- ・20歳代では全13項目の『実施率』の平均値が47.7%と最も低くなった。また、30歳代と40歳代の全13項目の『実施率』の平均値も全体に比べて低いことから、20歳代から40歳代への環境を守る行動や意識への啓発を行う必要がある。
- ・全ての流域において「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」の『実施率』が最も高く、中流域は『実施率』98.3%と高くなった。
- ・上流域では「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」が『実施率』6.6%と全体の『実施率』20.1%から13.5ポイント下回り、その他の流域と比べて『実施率』が低く、それらのイベントの開催が少ないことが理由ではないかと推測される。
- ・下流域では「風呂の残り湯は、せんとく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」が『実施率』27.8%で、その他の流域と比べて『実施率』が低くなった。

<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け= 	「いつも行なっている」と「だいたい行なっている」を合わせた【実施率】の割合												
	全体 (R4)	全体 (H29)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳 以上	上流域	中流域	下流域
サ ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている	94.1	94.3	100.0	86.7	93.9	89.9	92.6	95.5	98.8	100.0	97.7	98.3	91.6
イ 使った油は流しから流さないようにしている	86.2	85.4	100.0	86.7	81.8	85.4	83.1	87.2	90.4	100.0	93.3	87.0	85.2
シ ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している	84.0	88.6	100.0	60.0	84.8	70.0	80.8	88.0	95.1	100.0	93.3	95.7	77.1
コ 新聞・雑誌は、古紙回収に回している	78.0	80.3	100.0	46.6	59.4	67.1	83.2	80.4	87.6	100.0	86.4	77.5	75.9
キ 日常の生活で電気は、こまめに消している	77.3	79.7	100.0	60.0	68.7	75.2	72.6	81.2	82.9	75.0	82.3	77.8	76.6
ク 洗ざいやシャンプーなどは、余分に使わないようにしている	73.6	75.5	100.0	53.3	62.5	71.1	74.7	74.6	82.1	87.5	69.8	76.5	73.4
カ 日常の生活で節水に気をつけている	68.7	71.8	100.0	60.0	60.6	56.6	74.5	68.5	75.3	87.5	64.5	63.3	71.2
ク 省エネタイプの家庭電化製品を購入するよう心がけている	65.0	66.7	100.0	26.7	60.6	63.3	69.4	67.7	62.2	75.0	68.8	68.4	63.7
ケ 日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている	59.3	66.9	50.0	40.0	45.4	46.6	53.7	65.1	75.6	75.0	64.5	67.5	54.8
ウ よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている	52.7	49.4	100.0	46.7	45.4	43.3	54.8	52.6	59.8	87.5	41.3	61.5	51.2
オ 風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している	31.7	36.4	50.0	20.0	27.3	20.2	37.9	29.3	39.5	50.0	40.0	35.1	27.8
ア 米のとぎ汁やみそ汁などは、流しから流さないようにしている	22.3	27.2	50.0	13.4	15.2	12.4	26.3	17.3	38.2	33.3	20.5	23.2	21.4
ス 不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している	20.1	25.5	50.0	20.0	24.3	22.2	23.1	16.6	13.5	0.0	6.6	19.7	21.3
『実施率』の平均値	62.5	65.2	84.6	47.7	56.1	55.6	63.6	63.4	69.3	74.7	63.8	65.5	60.9

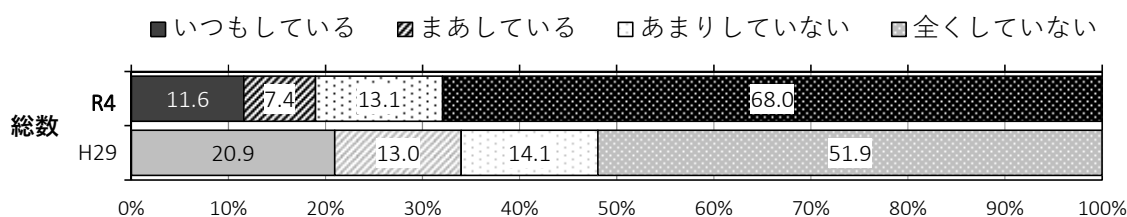
問12 あなたのご家庭では、日頃、流しの排水口や三角コーナーで水切り袋などを使っていますか。  
(水切り袋が不要なシステムキッチンなどの場合は1を選んでください。)(1つだけ○印)

- ・「いつも使っている」と答えた人の割合は80.1%で、「まあ使っている」と答えた人の割合の8.2%と合わせた『使用率』は88.3% (前回: 77.1%) で11.2ポイント増加しており、水切り袋の設置等が浸透している。



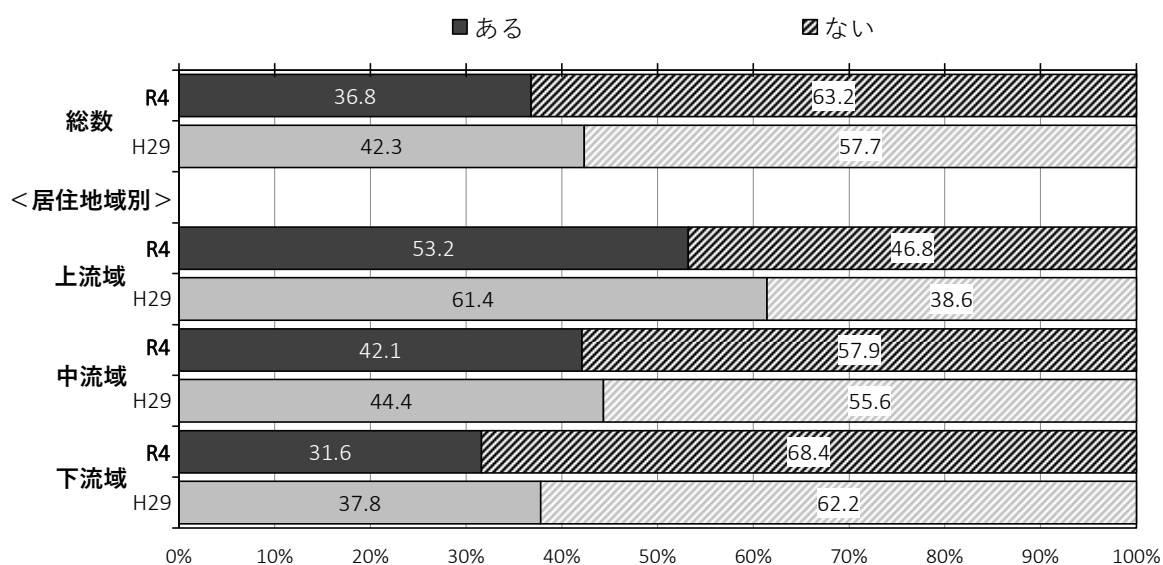
問13 あなたのご家庭では、日頃、コンポスト容器や電気式の生ごみ処理機などを利用して、家庭から出る生ごみのたい肥(ひ)化に取り組んでいますか。(1つだけ○印)

- ・「いつもしている」と答えた人の割合は11.6%で、「まあしている」と答えた人の割合の7.4%と合わせた『実施率』は19.0% (前回: 33.9%) で前回調査から14.9ポイント減少した。



問14 あなたは、講演会などの催しや、植樹、間伐(かんばつ)、リサイクル活動、美化・清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

- ・「ある」と答えた人の割合は、36.8% (前回: 42.3%) と前回調査から5.5ポイント減少した。
- ・前回調査と同様に上流域になるほど「ある」と答えた人の割合が高い傾向になっている。

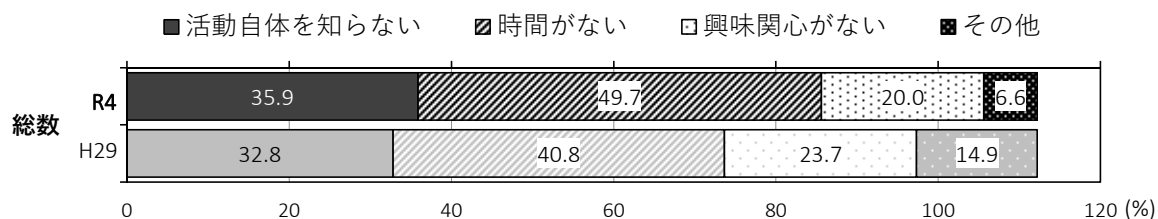




問 14 で「ない」と答えた方にお聞きます。

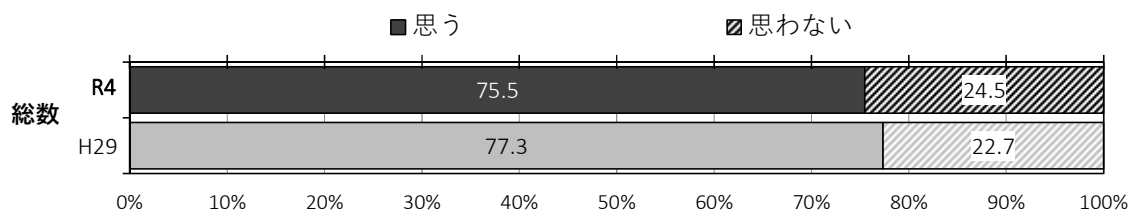
問 15 問 14 で「ない」と答えた理由をお選びください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「時間がない」と答えた人の割合が 49.7% (前回：40.8%) と最も高く、前回調査から 8.9 ポイント増加しており、次いで「活動自体を知らない」が 35.9% (前回：32.8%)、「興味関心がない」が 20.0% (前回：23.7%) となった。



問 16 あなたは、四万十川やその流域の環境を保全するために、例えば寄付を募(つ)のるとすれば、協力してもよいと思いますか。(1つだけ○印)

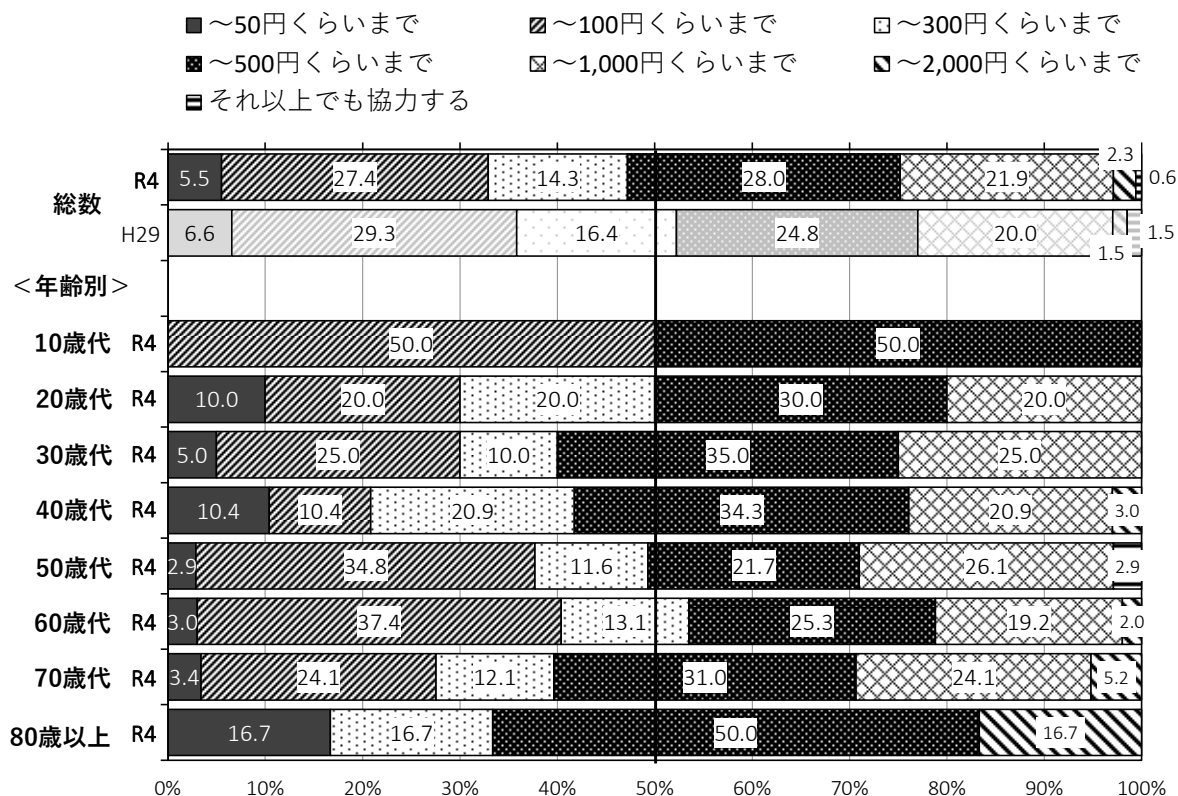
- ・「思う」と答えた人の割合は 75.5% (前回：77.3%) で、前回調査から 1.8 ポイントとやや減少した。



問16で「思う」と答えた方にお聞きします。

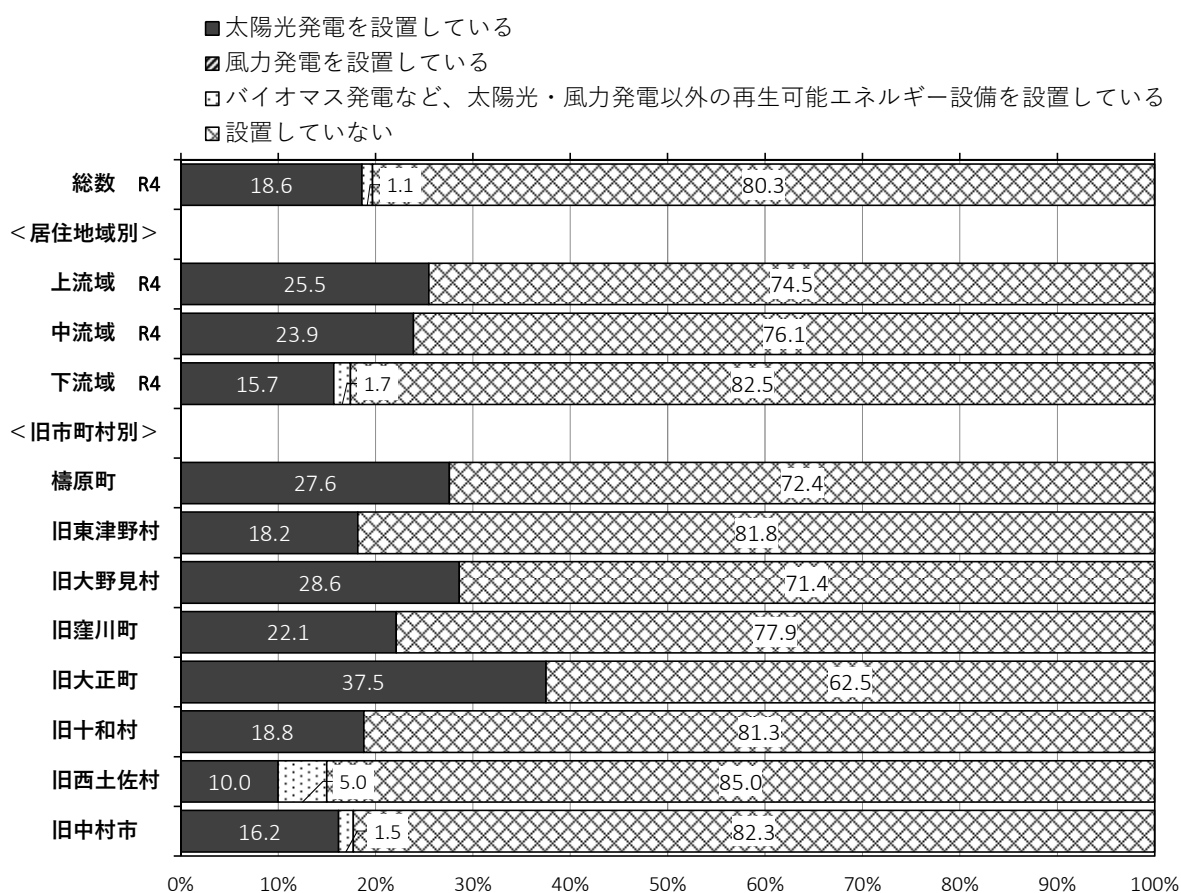
問17 では、あなたが、1か月あたり協力してもよいと思う金額は、次のどれですか。(1つだけ○印)

- ・「～500円くらいまで」以上と答えた人の割合は52.8%（前回：47.8%）と5.0ポイント増加した。
- ・「～500円くらいまで」以上と答えた人の割合は60歳代を除いた年代で5割を超えており、特に70歳代以上の高年齢層は協力してもよいと思う上限額が高くなっている傾向が見受けられた。



問18 あなたのご家庭では、環境に配慮した再生可能エネルギー設備を設置していますか。(あてはまるもの全てに○印)

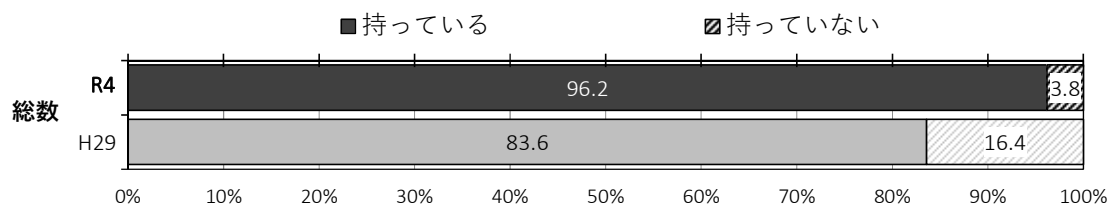
- ・「設置していない」と答えた人の割合が80.3%と最も高く、次いで「太陽光発電を設置している」18.6%、「バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備を実施している」1.1%であった。
- ・「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合は上流域が25.5%と最も高く、次いで中流域が23.9%、下流域が15.7%であった。
- ・旧大正町は「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合が37.5%と最も高く、一方で、旧西土佐村は10.0%と「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合が低くなった。



## 4. 通信手段について

問19 あなたは、携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つだけ○印)

- ・「持っている」と答えた人の割合は96.2%で、前回調査から12.6ポイントと増加した。

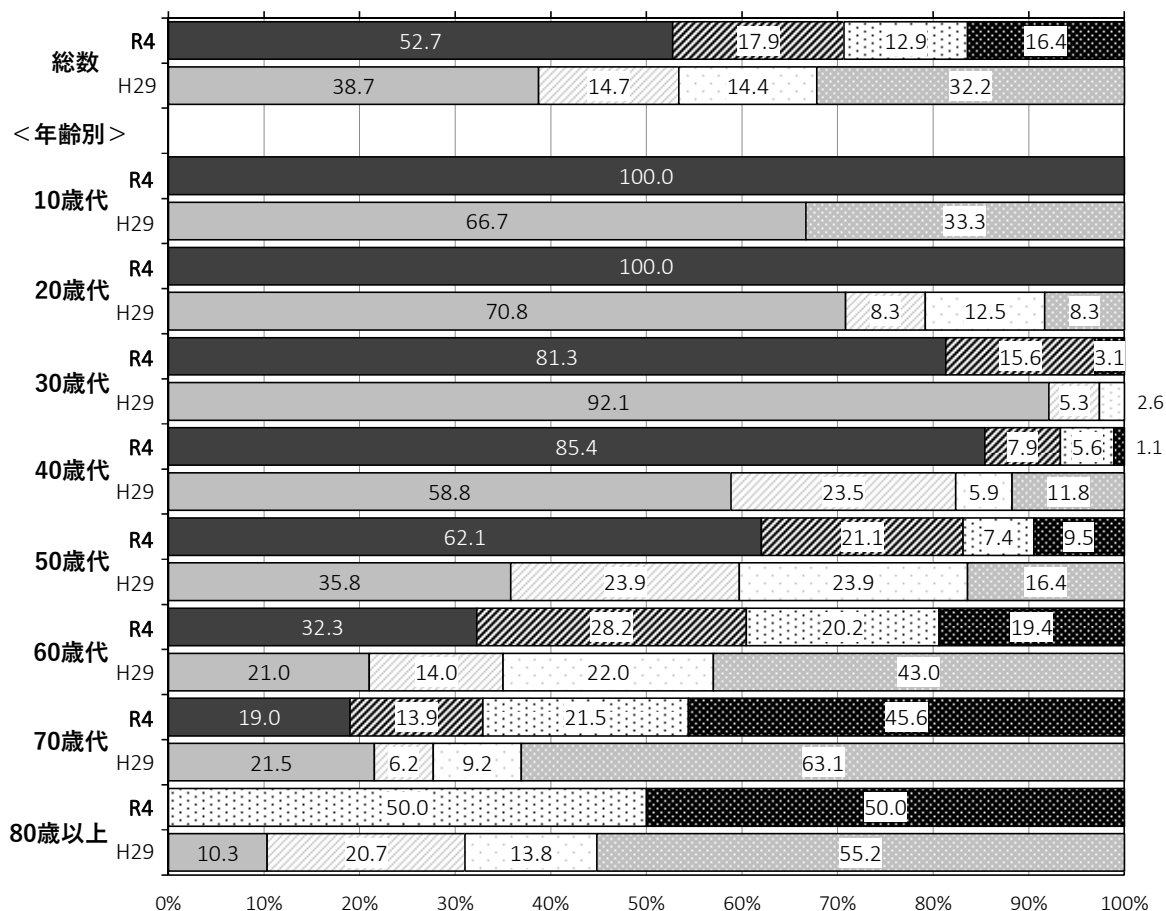


問19で「持っている」と答えた方にお聞きします。

問20 では、あなたは、日頃、携帯電話やスマートフォンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）を利用していますか。(1つだけ○印)

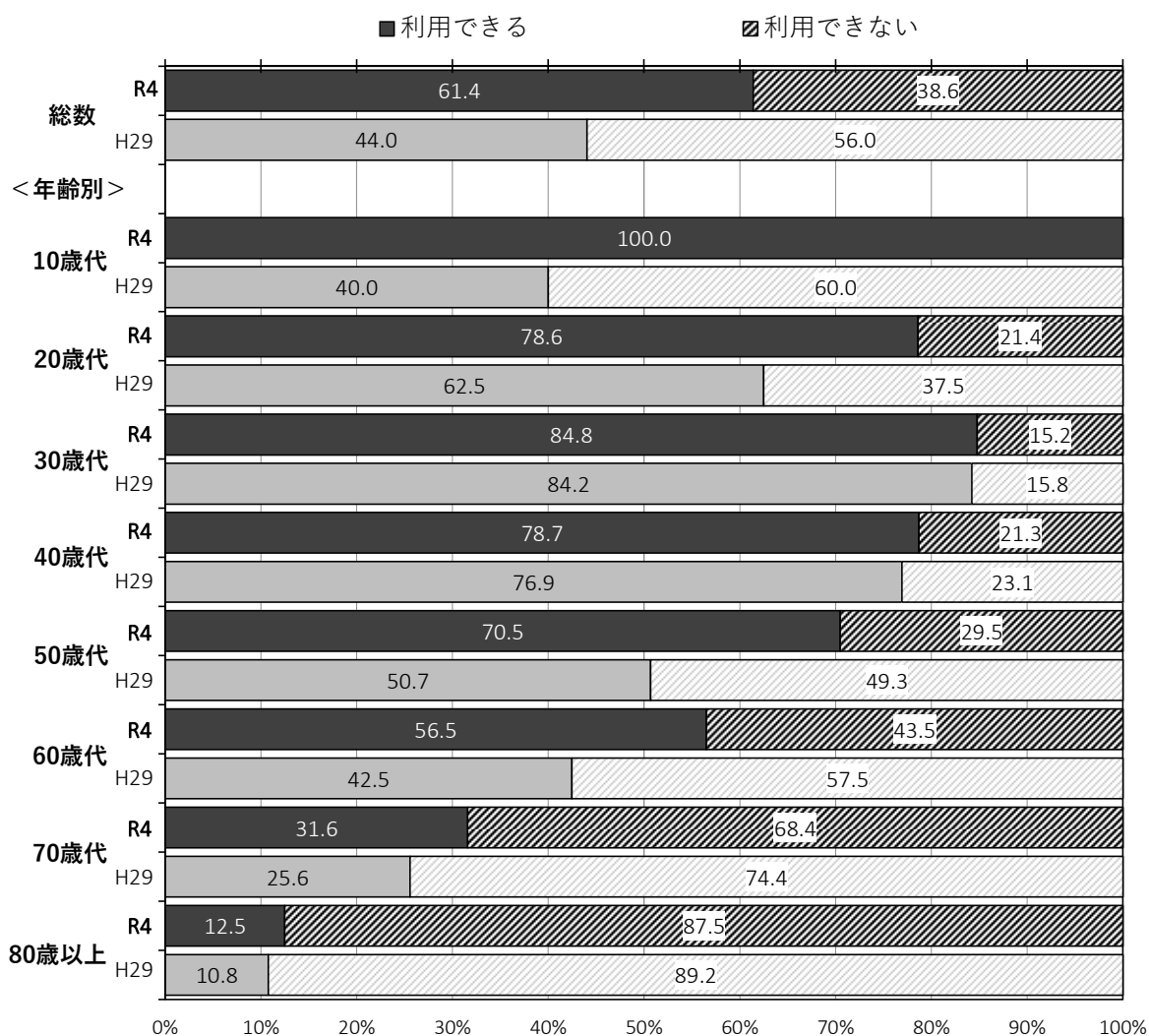
- ・「いつも利用している」と答えた人の割合は52.7%、「まあ利用している」と答えた人の割合は17.9%で、これらを合わせた『利用率』は70.6%であり、前回調査の53.4%から17.2ポイント増加した。特に「いつも利用している」と答えた人の割合が前回調査の38.7%から52.7%へと増加した。
- ・20歳代以下の『利用率』は100.0%と最も高く、年代が高くなるにつれて低くなった。

■いつも利用している ■まあ利用している □あまり利用していない ■全く利用していない



問 21 あなたのお宅では、パソコンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）が利用できますか。（1つだけ〇印）

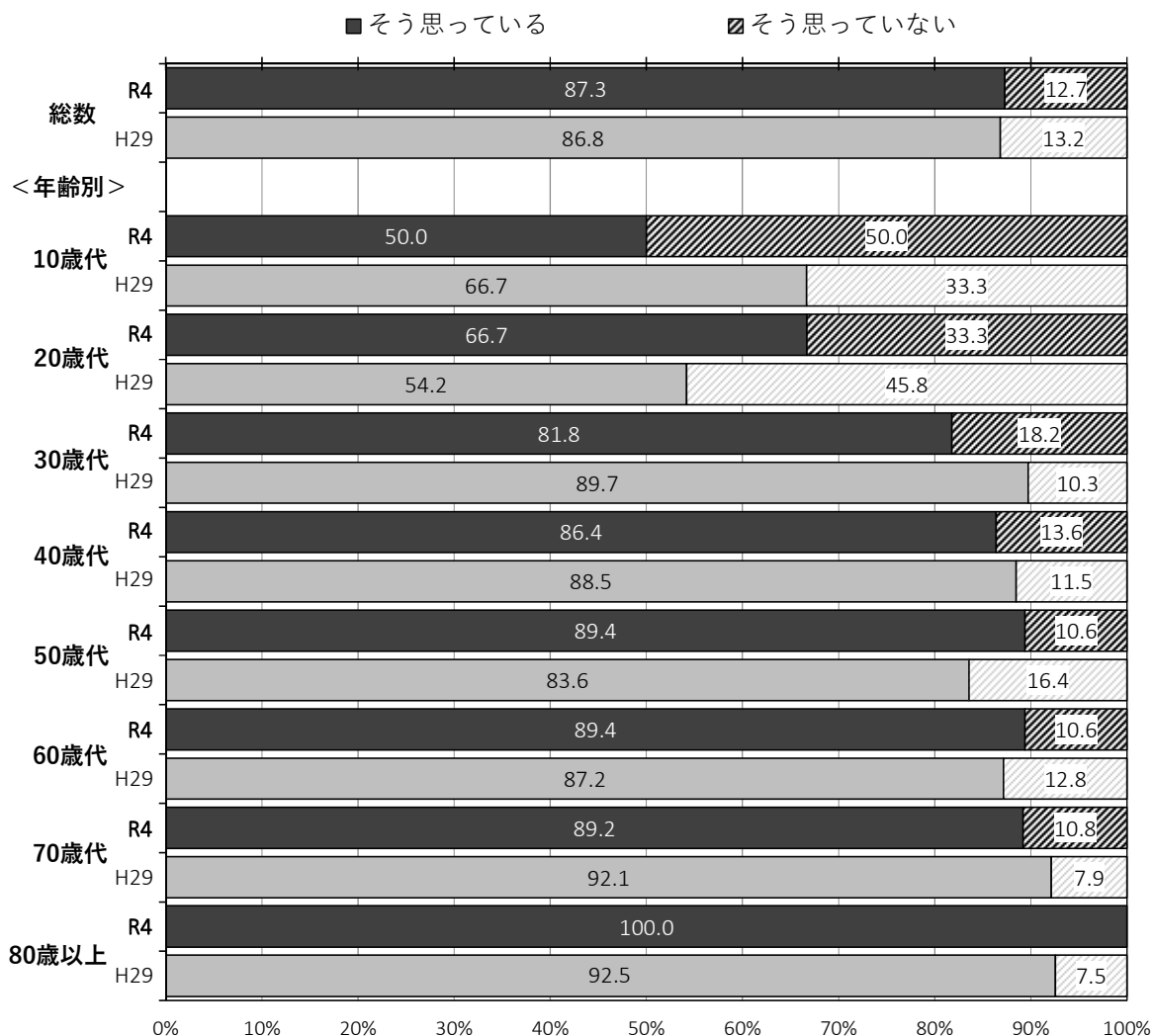
- ・「利用できる」と答えた人の割合は 61.4%（前回：44.0%）で、前回調査から 17.4 ポイント増加した。
- ・総務省が行った「令和3年通信利用動向調査」でのインターネット利用者の割合（個人）は 82.9%であり、全国と比べて普及率が 21.5 ポイント低くなった。



## 5. 居住意思

問 22 あなたは、今お住まいのこの地域にずっと住み続けたいと思いますか。(1つだけ○印)

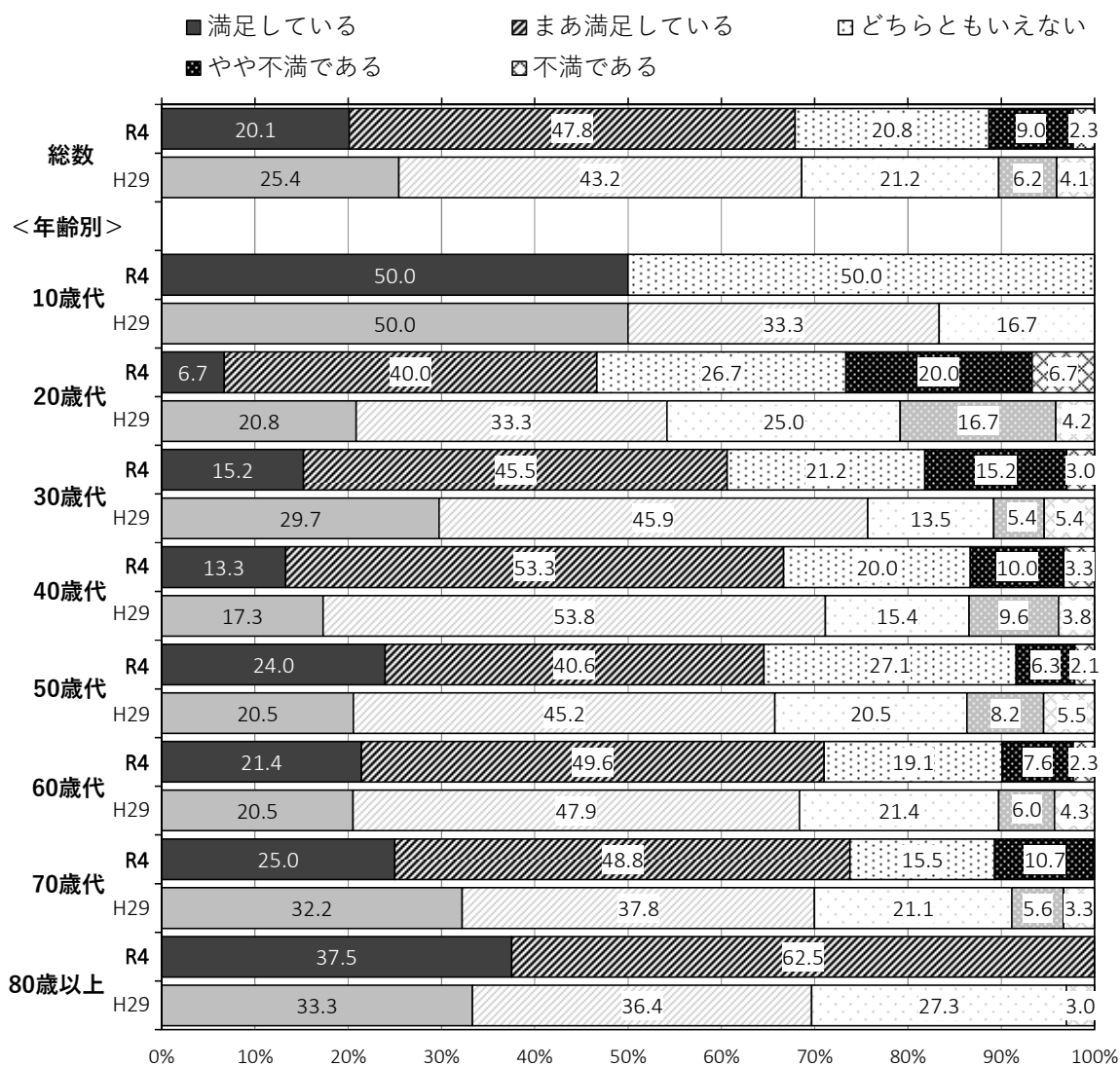
- ・「そう思っている」と答えた人の割合は87.3%であり、前回調査から0.5ポイント増加した。
- ・30歳代以上では「そう思っている」と答えた人の割合は8割以上を占めた。また、20歳代は、「そう思っている」と答えた人の割合は66.7%と前回調査から12.5ポイント増加した。



## 6. 生活の満足度

問23 あなたは、今お住まいの地域を総合的にみて、どの程度満足していますか。(1つだけ○印)  
また、その理由を下の枠内に記入してください。

- ・「満足している」及び「まあ満足している」と答えた人の割合を合わせた『満足度』は67.9%であり、前回調査の68.6%から0.7ポイント減少した。
- ・50歳代以下の年代で『満足度』が減少しており、特に、20歳代においては46.7%と満足度が低い一方で、60歳代以上の年代では『満足度』が7割を超えた。
- ・旧西土佐村、旧窪川町、檮原町の『満足度』が高い傾向が見受けられた。



<居住地別>

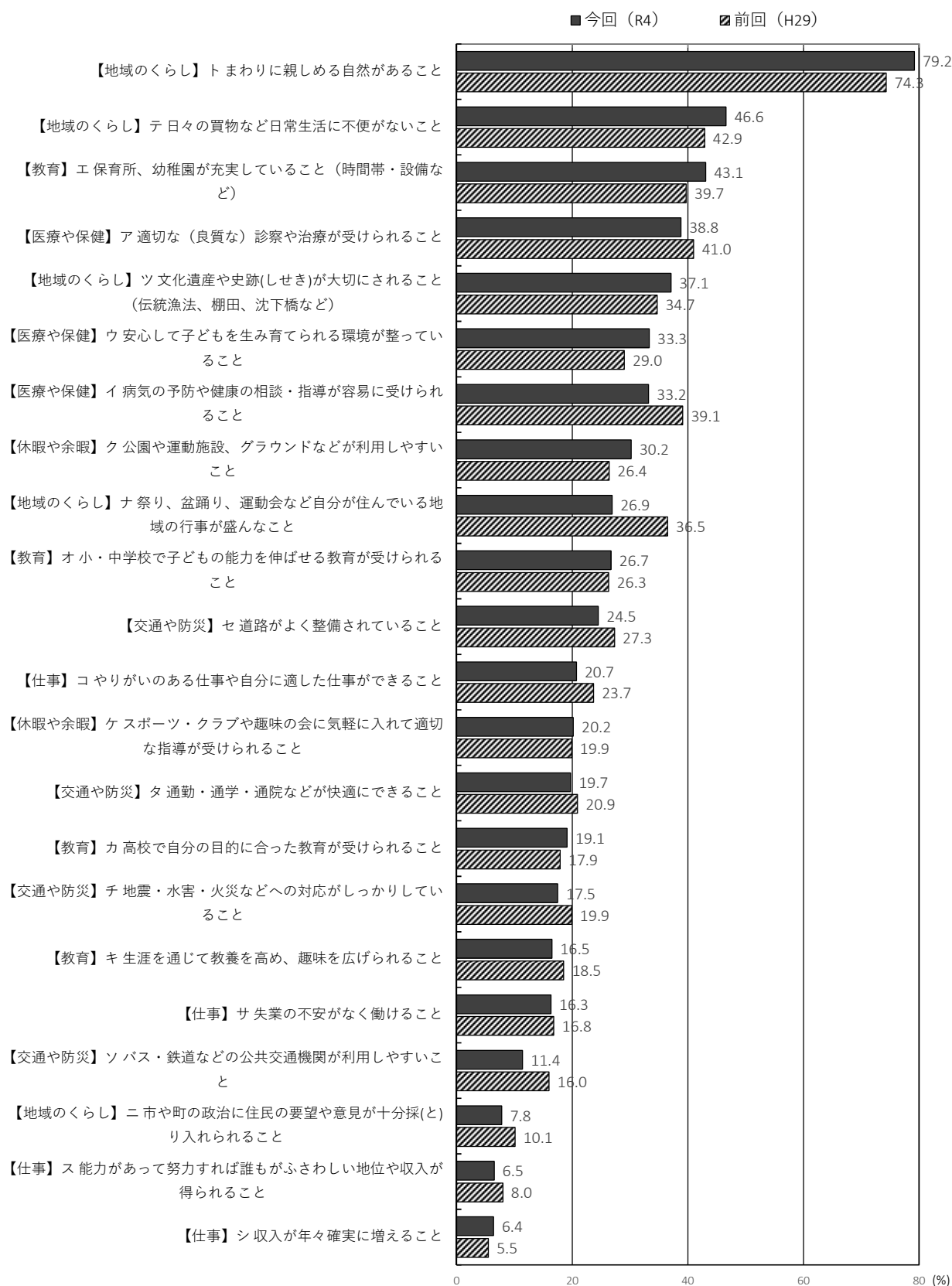
単位=(%) 網掛け=高い割合		満足している	どちらともいえない	不満である
上流域	檮原町	72.4	17.2	10.3
	旧東津野町	54.6	36.4	9.1
	旧大野見村	42.9	57.1	0.0
中流域	旧窪川町	74.0	14.8	11.1
	旧大正町	56.3	37.5	6.3
	旧十和村	47.4	47.4	5.3
下流域	旧西土佐村	76.2	14.3	9.6
	旧中村市	69.5	18.5	12.0

問 24 あなたは、今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。ア～ニのあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

- ・「まわりに親しめる自然があること」と答えた人の『満足度』（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）は、79.2%（前回：74.3%）で、前回調査より4.9ポイント増加した。
- ・『満足度』の低い項目は、自治体への要望や意見の反映、安定した仕事や地位や収入、公共交通機関の利便性に関して前回調査より不満な状況であった。
- ・80歳以上は全22項目の『満足度』の平均値が52.2%と最も高く、一方で、20歳代では全22項目の『満足度』の平均値が17.6%と最も低く、特に「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』は13.3%と全体の『満足度』38.8%から25.5ポイント下回り、その他の年代と比べて満足度が低いことがわかる。また、10歳代～20歳代においては、安定した仕事や地位や収入、公共交通機関の利便性に関して『満足度』が0.0%となっており、特に不満があることがうかがえた。
- ・上流域は「保育所、幼稚園が充実していること（時間帯・設備など）」と「安心して子どもを育てられる環境が整っていること」と「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が5割以上と高い一方で、「日々の買物など日常生活に不便がないこと」と「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』が2割程度とその他の流域より低くなった。
- ・中流域は「安心して子どもを育てられる環境が整っていること」と「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が2割程度とその他の流域より低いことがうかがえた。
- ・下流域は「日々の買物など日常生活に不便がないこと」の『満足度』が5割以上とその他の流域より高くなった。



「十分満たされている」と「かなり満たされている」  
を合わせた【満足度】の割合



<第4章 結果の概要>

単位=(%) 網掛け= <span style="background-color: #cccccc;">高い割合</span> <span style="background-color: #cccccc;">低い割合</span>	「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた【満足度】の割合												
	全体 (R4)	全体 (H29)	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	上流域	中流域	下流域
【地域のくらし】ト まわりに親しめる自然があること	79.2	74.3	100.0	60.0	81.8	80.7	80.2	80.7	78.5	75.0	68.9	80.0	80.4
【地域のくらし】テ 日々の買物など日常生活に不便がないこと	46.6	42.9	0.0	26.7	42.5	42.1	40.6	49.3	59.8	75.0	17.4	45.3	52.6
【教育】エ 保育所、幼稚園が充実していること (時間帯・設備など)	43.1	39.7	50.0	40.0	48.5	39.0	33.0	43.9	56.5	71.5	63.6	42.3	39.9
【医療や保健】ア 適切な(良質な)診察や治療が受けられること	38.8	41.0	50.0	13.3	36.3	28.4	30.9	43.5	53.1	75.0	23.9	37.0	42.1
【医療や保健】ウ 安心して子どもを生み育てられる環境が整っていること	33.3	29.0	50.0	26.7	42.4	37.5	28.1	33.1	29.5	62.5	52.2	24.8	33.8
【医療や保健】イ 病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること	33.2	39.1	50.0	20.0	40.6	19.5	20.6	39.4	48.8	75.0	51.1	24.1	34.0
【仕事】サ 失業の不安がなく働けること	16.3	16.8	0.0	0.0	15.2	19.3	16.4	15.2	17.7	50.0	10.7	20.1	15.9
【交通や防災】ソ バス・鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと	11.4	16.0	0.0	0.0	3.0	5.7	7.2	15.0	23.7	25.0	2.2	14.1	11.8
【地域のくらし】ニ 市や町の政治に住民の要望や意見が十分採(と)り入れられること	7.8	10.1	0.0	6.7	0.0	8.0	6.3	11.0	6.8	14.3	14.9	6.2	7.1
【仕事】ス 能力があって努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること	6.5	8.0	0.0	0.0	9.1	7.9	7.3	6.6	2.8	20.0	6.5	9.1	5.5
【仕事】シ 収入が年々確実に増えること	6.4	5.5	0.0	0.0	3.0	12.5	8.3	4.8	1.5	16.7	4.3	8.3	6.2
『満足度』の平均値	26.4	27.0	22.7	17.6	26.4	24.2	23.6	27.3	31.0	52.2	26.9	24.9	27.1

資料 市町村別サンプル数、流域別回収数、回収率

<市町村別サンプル数>

		A 有権者数	C 比率 (A/B)	D サンプル数 (1000*C)
上流域	栲原町	3,307	6.1%	61
	東津野村	1,884	3.5%	35
	大野見村	1,010	1.9%	19
中流域	十和村	2,344	4.3%	43
	大正町	2,183	4.0%	40
	窪川町	11,080	20.3%	203
下流域	中村市	30,233	55.5%	555
	西土佐村	2,461	4.5%	45
B 合計		54,502	100.0%	1,000

出典: 令和2年 国勢調査報告 第2巻人口等基本集計結果(令和2年10月1日時点)

区分	サンプル数	割合
上流域	114	11.4%
中流域	286	28.6%
下流域	600	60.0%
合計	1,000	100.0%

<流域別回収数>

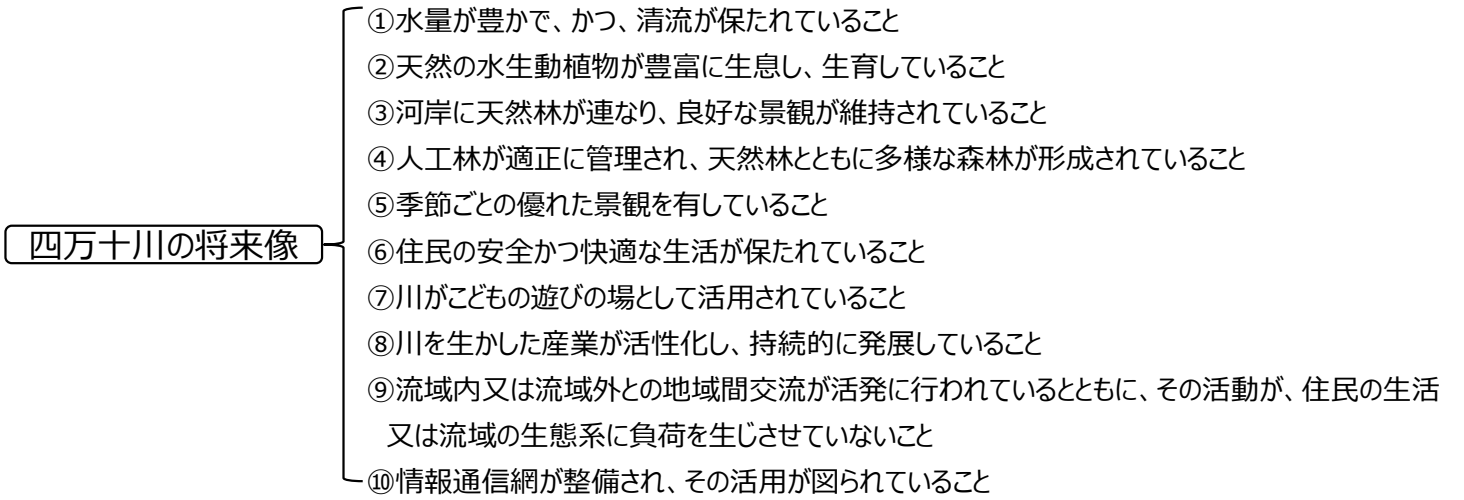
区分	回収数	全体における割合
上流域	47	9.7%
中流域	118	24.4%
下流域	299	61.8%
無回答	20	4.1%
合計	484	100.0%

<流域別回収率>

区分	サンプル数	回収数	回収率
上流域	114	47	41.3%
中流域	286	118	41.2%
下流域	600	299	49.8%
無回答		20	
合計	1,000	484	48.4%

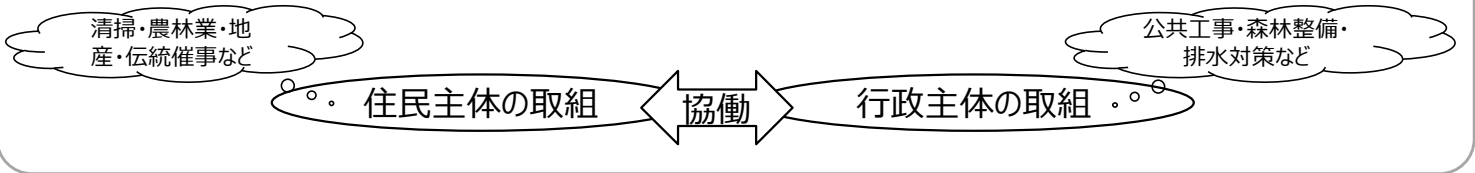
### 1 目標指標とは（四万十川条例第36条）

目標指標：条例の目的の達成状況を把握し、進行管理を行うための指標（現状数値、目標数値、目標年度及び調査方法）



具体化、調査方法、調査年度、目標数値を規定

#### 目標指標（54項目）



【令和4年度目標指標】※詳細別紙

- 目標指標54項目
- 生態系及び景観の保全18項目
  - 生活・文化・歴史の豊かさの確保36項目

【目標指標年度】

平成24年度目標値

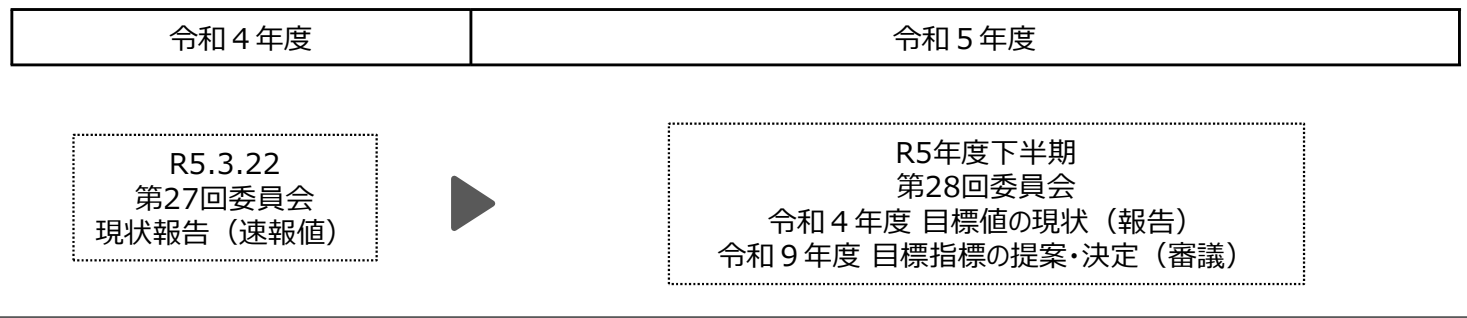
平成29年度目標値

令和4年度目標値

（次期目標値）

令和9年度目標値

### 2 次期目標指標の提案スケジュール（予定）



### 3 次期目標指標の提案に向けて

- 条例の「将来像」を踏まえて目標指標を再評価
- 事業廃止や環境の変化に伴い変更が必要な指標の整理

次期目標指標の提案（目標指標の評価、目標数値）

四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

1 生態系及び景観の保全：本来、自然が持つ機能を十分に生かしながら、多様な生態系や景観を重視した四万十川の保全を図る。【18項目】

(1) 四万十川の水量が豊かで、清流が保たれ、生態系が保全されていること。【10項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)	
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4			
1 住民	清流基準の達成度	清流度の平均値 (単年値)	9.1m	7.1m	5.4m	5.0m	6.1m	—	7.1m	数値が大きければ透明度が高い	
		水生生物の平均値 (単年値)	1.3ランク	1.6ランク	1.6ランク	1.2ランク	1.3ランク	—	1.3ランク	数値が小さければきれいな水で生育できる生物が多い	
2 行政	清流基準の達成度	窒素の平均値 (単年値)	0.28mg/l	0.28mg/l	0.27mg/l	0.29mg/l	0.24mg/l	—	0.35mg/l		
		りんの平均値 (単年値)	0.009mg/l	0.013mg/l	0.011mg/l	0.015mg/l	0.015mg/l	—	0.015mg/l		
3 住民 行政	生活排水の浄化率 (汚水処理人口普及率)	浄化槽処理人口・下水道処理人口・農業集落排水整備人口を合わせた汚水処理人口普及	71.6%	73.3%	74.6%	76.0%	78.0%	—	76.9%	住民主体：1項目 一行政主体の項目に統合 行政主体：1項目	
4 住民	四万十川一斉清掃の参加率	流域5市町で実施している四万十川一斉清掃の参加世帯数(人)を全世帯数(人口)で割った値	13.7%	6.36%	2.33%	0.36%		—	9.0%	R1、R2コロナで中止	
5 住民	水切り袋の普及率	水切り袋の普及率について住民意識調査(四万十川条例第37条)を実施	77.1%	—	—	—	—	88.3%	86.1%	住民意識調査	
6 行政	環境に配慮した砂防・治山ダム数(累計値)	土砂供給が可能な砂防堰堤、環境に配慮した木製治山ダムの基数	7基	7基	7基	7基	7基	—	—		
7 行政	四万十川(具同・大正)における流況	豊水流量(大正)	—	42.34m <sup>3</sup> /S	38.17m <sup>3</sup> /S	30.53m <sup>3</sup> /S	26.91m <sup>3</sup> /S	—	—	具同：欠測	調査地点の見直しを検討
		平水流量(大正)	—	11.00m <sup>3</sup> /S	12.03m <sup>3</sup> /S	9.94m <sup>3</sup> /S	11.08m <sup>3</sup> /S	—	—	具同：欠測	調査地点の見直しを検討
		渇水流量(大正)	—	3.99m <sup>3</sup> /S	3.42m <sup>3</sup> /S	3.31m <sup>3</sup> /S	2.91m <sup>3</sup> /S	—	—	具同：欠測	調査地点の見直しを検討
8 行政	四万十川における河床高の状況(R4)	本川における河床高の水位(単年値)	—	—	—	—	—	—	—	R5年度調査実施	
9 行政	四万十川における魚類・底生生物の確認種類	本川(国直轄区間)における魚類・底生生物の種数(2017調査)	—	魚類：71種 底生生物：238種	—	—	—	—	—	河川水辺の国勢調査で実施	

四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

(2) 森林、農地及び草地在適切に管理され、環境に配慮した経営が行われていること。【8項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4		
1 住民 森林認証の認証状況	認証団体数(累計値)	森林管理協議会(FSC)・緑の循環認証会議(SGEC)の認証団体数 4団体	4団体	4団体	4団体	4団体		-	-	
	認証面積(累計値)	森林管理協議会(FSC)・緑の循環認証会議(SGEC)の認証森林面積 21,177ha	21,177ha	21,189ha	21,223ha		-	-		
2 住民 環境保全型農業の実施状況	四万十川流域に事業所を置くJAS有機認定事業者数	29事業所	28事業所	8事業所	9事業所		-	-		
	エコファーマーの認定を受けて科学肥料減少などの「持続的な農業生産方式」に取り組んでいる栽培面積や環境保全型農業直接支払交付金を活用し化学肥料低減などに取り組んでいる栽培面積(一部重複あり)	-	356.0ha	323.7ha	251.6ha		-	-		
3 住民 リサイクル肥料の年間生産状況(単年値)	リサイクル肥料(魚かす、汚泥肥料や樹皮、牛糞、豚糞、生ゴミ、汚泥を利用した堆肥などの特殊肥料)の年間生産量	9,371t	8,440t	18,758t	9,253t		-	-		
4 住民 耕作放棄地の面積	農業センサス(5年ごと)による耕作放棄地の面積	660ha (H27センサス)	-	-	216ha	-	-	-	農林業センサス(5年毎)の数値 ※R2からは荒廃農地の調査	農地利用状況調査等による調査項目の追加・変更を検討(遊休農地等)
5 行政 除・間伐の面積	造林補助事業及び治山事業等の実施により行われた除・間伐の面積	1,007ha	1,499ha	1,780ha	1,821ha		-	-		
6 行政 混交林の面積	造林補助事業及び治山事業等により実施された除・間伐のうち水土保全林(保全型)に区分された森林内で行われた強度間伐の面積	153ha	278ha	427ha	670ha		-	-		
7 行政 環境先進企業との協働の森づくり事業における協定件数	「協働の森づくり事業」の協定締結件数	22件	22件	22件	15件		-	-		
	「協働の川事業」の協定締結件数	1件	1件	2件	2件	2件	-	2件		
8 行政 有害鳥獣の捕獲数	流域市町での有害鳥獣の捕獲数(単年度)	-	12,241頭	11,292頭	10,262頭	11,763頭	-	-		

新規項目として、農業従事者数、林業従事者数の項目追加を検討

四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

2 生活・文化・歴史の豊かさの確保：流域の人々の生活・文化・歴史の豊かさの確保と流域を訪れる人々が感じる魅力の向上に努める。【36項目】

(1) 住民の安全かつ快適な生活が保たれていること。【5項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)	
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4			
1 住民	情報通信網の普及率	インターネットの普及率	44.0%	—	—	—	—	61.4%	45.0%	住民意識調査	
	携帯電話の普及率 (スマートフォン含む)	流域における携帯電話・スマートフォンの普及率	83.6%	—	—	—	—	96.2%	88.5%	住民意識調査	
2 住民	生活満足度(5年ごと)	安全、快適などの生活満足度について住民意識調査(四万十川条例第37条)を実施	68.4%	—	—	—	—	67.9%	—	住民意識調査	
3 行政	ネットワーク道路の安全・快適度	道路改良率(累積値)	R197、R381、R439、R440、R441、県道窪川船戸線の道路改良率	75.22%	75.73%	75.73%	76.59%	—	—	30年～40年計画で100%	
		道路情報看板等の設置数(累積値)	R197、R381、R439、R440、R441、県道窪川船戸線の道路情報看板等の設置数	—	20基	18基	19基	—	—		調査項目の見直し検討
		交通事故発生件数(単年値)	流域5市町の交通事故の年間発生件数(千人当たり)	1.1件	1.1件	1.0件	0.9件	1.0件	—	—	暦年での数値
4 行政	地元中高卒者の地元就職率(単年値)	地元中高卒者の地元就職率	33.33%	36.17%	26.15%	23.44%	—	—	—	中学生の就職者を調査から除外し、地元高校への進学率の項目を追加を検討	
5 行政	子どもの人数(単年値)	流域市町の15歳未満人口	7,120人	6,979人	6,733人	6,513人	6,344人	—	—		

四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

(2) 四万十川がこどもの遊び場として活用されていること。【7項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4		
1 住民	川で遊んだこどもの割合	流域の小中学生の内、川で遊んだ子どもの割合	68.2%	64.9%	58.2%	65.6%	66.8%	-	-	
2 住民	カヌーを体験したこどもの割合	流域の小中学生の内、カヌーを体験した子どもの割合	15.3%	18.2%	14.5%	15.5%	15.6%	-	-	
3 住民	川で魚やエビなどを捕ったことのあるこどもの割合	流域の小中学生の内、川で魚やエビを捕ったことのある子どもの割合	40.3%	44.5%	32.2%	40.7%	43.8%	-	-	
4 行政	こどもが自由に魚を釣れる場所数	こどもが自由に魚を釣れる場所数	全区間	全区間	全区間	全区間	全区間	-	-	全区間となっていることから項目除外を検討 他に指標となる項目がないか検討
5 行政	水生生物調査実施校の割合	流域の小中学校の内、水生生物調査実施校の割合	40.8%	38.8%	44.9%	49.0%	68.9%	-	-	
6 行政	水質調査実施校の実施の割合	流域の小中学校の内、水質調査実施校の割合	32.7%	24.5%	24.5%	24.5%	37.8%	-	-	
7 行政	自然体験型修学旅行の実施校数(単年値)	入込修学旅行の学校数	12校	13校	13校	16校		-	30校	



四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

(3) 四万十川を生かした産業が活性化し、持続的に発展していること。【5項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)	
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4			
1 住民	農家民宿の軒数(単年値)	25軒	25軒	12軒	13軒		-	-			
2 住民	四万十ブランド認証の認証件数	11件	10件	13件	3件	3件	-	-	R5年度で事業終了	四万十ブランド事業が終了することから項目除外 他に指標となる項目がないか検討	
3 住民	地産の状況(単年値)	農協直売販売所等における地元農産物の販売額	1,978百万円	1,922百万円	1,940百万円	1,711百万円	1,714百万円	-	-		
		入漁券(日釣券)の販売額	7,256千円	8,203千円	10,822千円	10,851千円		-	-		
4 行政	漁獲量(単年値)	アユの漁獲量	37,688kg	24,553kg	15,093kg	11,186kg		-	-		
		ウナギの漁獲量	3,472kg	3,215kg	2,534kg	1,317kg		-	-		
		アオノリの漁獲量	2,596kg	1kg	0kg	0kg		-	-		
		エビ類の漁獲量	285kg	46kg	206kg	206kg	209kg	-	-		
5 行政	公共事業における木材の利用状況	新規公共建築施設(国、県、流域市町)における木造木質化率(単年度)	63.60%	50.00%	84.60%	85.70%		-	50.00%		
		県有施設の新規公共建築施設における木造木質化率	-	60.0%	100.0%	100.0%		-	100.0%		
		公共土木工事での木材利用量(仮設工・木製型枠を含む)	9.99m3/億円	10.20m3/億円	12.70m3/億円	8.90m3/億円		-	12.00m3/億円		

四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

(4) 地域間交流が活発に行われていること。また、その活動が住民の生活又は流域の生態系に負荷を生じさせていないこと。【5項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4		
1 住民	環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数(累計値)	環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数 23団体	23団体	23団体	23団体	23団体		-	-	
2 住民	グリーンツーリズムの交流人口(単年値)	四万十川すみずみツーリズム会員の農家民宿等の利用者数 57,387人	78,784人	101,183人	55,181人	53,023人		-	-	
3 行政	環境活動リーダー・インタープリター等の人数(単年値)	生物多様性こうち戦略推進リーダーの登録数、四万十川財団の四万十リバーマスター数の人数 86人	95人	93人	98人	109人		-	-	環境活動リーダー・インタープリター事業終了のため、四万十川財団の四万十リバーマスター数の人数のみ計上 調査対象の見直しを検討
4 行政	交流人口の状況(単年値)	四万十川(自然、景観、文化)を活用したイベント等の入込客数	142,730人	177,752人	157,333人	31,540人		-	137,000人	調査対象イベントの見直しを検討(調査開始時点から中止等になったイベントの精査)
		流域の自然等を生かした観光(学習)施設等の利用者数	-	88,339人	71,952人	59,350人		-	-	調査対象施設の見直しを検討
		流域の道の駅等の利用者数	-	944,964人	950,755人	822,267人		-	-	
5 行政	流域市町の人口(単年値)	流域市町の推計人口	66,107人	65,083人	64,253人	62,901人	61,843人		-	-
		県外からの移住者(1ターン、Uターン)数	69人	172人	169人	220人	218人		-	-

四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

(5) 文化・歴史を保全活用していること。【9項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4		
1 住民	伝統祭事の実施状況(累計値)	神楽、花取踊り、大文字の送り火などの祭事の実施数 64件	59件	58件	43件		—	66件		
2 住民	伝統漁法の実施状況									
	伝統漁法の許可件数(単年値)	流域漁協における漁法の許可件数(実績件数) 551件	544件	545件	473件	528件	—	-		
	舟大工の人数(単年値)	流域漁協が把握している舟大工の人数 4人	4人	4人	4人	4人	—	-		
	川漁師の人数(単年値)	流域漁協が把握している専業川漁師の人数 1人	0人	0人	9人	8人	—	-		
3 住民	博物館・資料館の入場者数(単年値)	四万十市幡多郷土資料館、橋原町立歴史民俗資料館の入場者数 7,177人	8,362人	10,650人	5,640人		—	-		
4 住民	シンボリック伝統家屋等	橋原町、東津野村、大正町、十和村の茶堂の個所数(町指定民俗・有形民俗文化財) 16か所	24か所	17か所	17か所		—	16か所		
5 行政	適正に管理保存された沈下橋数	四万十川沈下橋保存方針の対象沈下橋数 48橋	48橋	48橋	48橋	48橋	—	48橋		
6 行政	伝統漁法の保存	四万十川流域の漁具の収集、保存状況 192点	192点	192点	192点		—	192点		調査対象の見直しを検討(現在は歴史民俗資料館での保存数を計上)
7 行政	有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数	国、県指定の箇所数 49か所	49か所	49か所	49か所	50か所	—	49か所	間崎の枕状溶岩追加(R3)	
8 行政	重要文化的景観選定地区における重要構成要素	四万十川流域の文化的景観選定地区内において、重要構成要素として位置付けられている箇所数 322か所	334か所	334か所	332か所		—	-		
9 行政	文化財等の活用状況	イベントの開催や学術研究の状況等の件数 —	13件	6件	5件		—	-		

四万十川条例の目標指標

資料2-2

※R3は集計中であるため、未記入の項目があるとともに、数値も修正となる場合があります。  
 ※R4実績値・現状値はR5年度に調査を行うため、住民意識調査の結果のみ記載しています。

(6) 環境に負荷をかけないライフスタイルが保たれていること。【5項目】

項目	項目内容	H29	実績値・現状値					目標値	備考	次期見直し候補(案)	
			H30	R1	R2	R3 (速報値)	R4 (住民意識調査)	R4			
1 住民	エコカー(低公害車)の保有台数(単年値)	グリーン化税制対象車(低公害車)の保有台数	3,140台	3,521台	3,876台	4,154台		-	-		
2 住民	ゴミの排出状況(単年値)	流域住民1人当たりの1日のゴミの量	年間総排出量を流域住民基本台帳による人口で割り、さらに日数で割った値	910g	923g	928g	936g		-	843g	
		ゴミのリサイクル率	$(資源化量+集団回収量) / (ゴミ総処理量+集団回収量) * 100$	29.6%	30.1%	29.0%	33.3%		-	45.9%	
3 住民	生ゴミのたい肥化への取組状況	コンポスト容器等の普及率	33.9%	-	-	-	-	19.0%	-	住民意識調査	調査項目の見直しを検討
4 住民	レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組	流域市町内でレジ袋の無料配布を行っていない店舗数	6店	7店	10店	8店		-	-		レジ袋有料化に伴い他の調査方法への変更を検討
5 行政	新エネルギーに関する自家発電設備の設置率(5年ごと)	個人用住宅における設置率(風力、太陽光、廃棄物発電等)	-	-	-	-	-	19.7%	-	住民意識調査	

令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測 分類表（案）

資料2-3

	短 期	長 期
正の影響	-	1 清流基準の達成度_①清流度の平均値（単年値） 1 清流基準の達成度_②水生生物の平均値（単年値） 2 清流基準の達成度_①窒素の平均値（単年値） 2 清流基準の達成度_②りんの平均値（単年値） 3、4 生活排水の浄化率（汚水処理人口普及率） 21 ネットワーク道路の安全・快適度_③交通事故発生件数（単年値）
負の影響	12 環境保全型農業の実施状況_①化学肥料等に頼らない事業者数 12 環境保全型農業の実施状況_②農業低減等に取り組んでいる栽培面積 13 リサイクル肥料の年間生産状況（単年値） 14 耕作放棄地の面積 15 除・間伐の面積 16 混交林の面積 20 生活満足度 23 流域市町の子どもの人数（単年値） 31 農家民宿等の軒数（単年値） 33 地産の状況（単年値）_①農協直売販売所等における地元農産物の販売額 33 地産の状況（単年値）_②入漁券（日釣券）の販売額 36 環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数（累計値） 37 グリーンツーリズムの交流人口（単年値） 38 環境活動リーダー・インタープリター等の人数 39 交流人口の状況（単年値）_③流域の道の駅等の利用者数 41 伝統祭事の実施状況_祭事の実施数（累計値） 42 伝統漁法の実施状況_①伝統漁法の許可件数（単年値） 42 伝統漁法の実施状況_②舟大工の人数（単年値） 42 伝統漁法の実施状況_③川漁師の人数（単年度） 48 重要文化的景観選定地区における重要構成要素の箇所数	5 四万十川一斉清掃の参加率 11 森林認証の認証状況_①認証団体数（累計値） 11 森林認証の認証状況_②認証面積（累計値） 22 地元中高卒者の地元就職率 32 四万十ブランド認証の認証件数 39 交流人口の状況（単年値）_①四万十川（自然、景観、文化）を活用したイベント等の入込客 39 交流人口の状況（単年値）_②流域の自然等を生かした観光（学習）施設等の利用者数 43 博物館・資料館の入場者数（単年値） 44 シンボリック伝統家屋等 49 文化財等の活用状況 51 ゴミの排出状況（単年値）_②ゴミのリサイクル率 53 生ゴミのたい肥化への取組状況

## 令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測（案）

項 目（番号・項目）			負の影響 （長期的）	負の影響 （短期的）	正の影響 （短期的）	正の影響 （長期的）	影響なし・ 不確定	予測される変化とその理由
【1】	住民	清流基準の達成度				●		生活排水、農畜産廃水の減少により改善が見込まれる
		②水生生物の平均値（単年値）				●		水質改善の影響を受けて改善が見込まれる
【2】	行政	清流基準の達成度				●		生活排水、農畜産廃水の減少により改善が見込まれる
		②りんの平均値（単年値）				●		生活排水、農畜産廃水の減少により改善が見込まれる
【3】	住民	生活排水の浄化率（汚水処理人口普及率）				●		直接的には大きな影響はなさそうだが、既に汚水処理施設が普及している都市部に人口が集中すれば改善する
【4】	行政	生活排水の浄化率（汚水処理人口普及率）				●		分母が減ることに加え、既に汚水処理施設が普及している都市部に人口が集中すれば改善する
【5】	住民	四万十川一斉清掃の参加率	●				●	率で見ると地域によっては上昇することもあるが、総参加人数が減少することによって活動自体が低迷していく可能性
【6】	住民	水切り袋の普及率					●	住民個人個人の意識の問題なので、直接の影響なし
【7】	行政	環境に配慮した砂防・治山ダム数（累計値）					●	行政の施策の問題なので人口減と関係なし
【8】	行政	四万十川（具同・大正）における流況					●	人口減と流況に因果関係は考えられにくい
【9】	行政	四万十川における河床高の状況					●	土砂産出量と掃流量、流域のダムの問題なので人口減と関係なし
【10】	行政	四万十川における魚類・底生動物の確認種数					●	河川水辺の国勢調査の方針の問題なので人口減と関係なし
【11】	住民	森林認証の認証状況						
		①認証団体数（累計値）	●					人口減によって森林経営が成り立たなくなれば団体数は減少
		②認証面積（累計値）	●					団体数が減少すれば認証面積は減少
【12】	住民	環境保全型農業の実施状況						
		①化学肥料等に頼らない事業者数	●	●				流域の農家人口の減少が、後継ぎやIターン等で有機農法を始める人口を上回ると思われるため、全体として減少
		②農業低減等に取り組んでいる栽培面積	●	●				農家人口の減少により、有機が否かによらず、栽培面積全体の減少に繋がる
【13】	住民	リサイクル肥料の年間生産状況（単年値）	●	●				農家が減少すればリサイクル肥料の需要も減少するため生産量が減少

## 令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測（案）

項 目 (番号・項目)		負の影響 (長期的)	負の影響 (短期的)	正の影響 (短期的)	正の影響 (長期的)	影響なし・ 不確定	予測される変化とその理由
【14】	住民 耕作放棄地の面積		●			●	農家が減少すれば耕作放棄地は増大するものの、新規就農者にとってメリットもある。
【15】	行政 除・間伐の面積	●	●				林業従事者が減少するため、除・間伐面積は減少
【16】	行政 混交林の面積	●	●				除・間伐面積が減少すれば混交林面積も減少
【17】	行政 環境先進企業との官民協働の 環境保全	①協働の森づくり事業における協定件数	●	●		●	【訂正前】 すぐには影響を受けにくいが見れば林業従事者減少の影響を受ける 人口減少よりも社会情勢の変化の影響を受ける
		②協働の川づくり事業等における協定件数	●	●		●	【訂正前】 漁協や河川生態系の専門家等、川に関心を持つ人が高齢化により減少すれば影響を受 ける人口減少よりも社会情勢の変化の影響を受ける
【18】	行政 有害鳥獣の捕獲数	●	●				捕獲に従事する人口が減少すれば捕獲数も減少する
【19】	住民 情報通信網の普及率	①インターネットの普及率				●	影響なし
		②携帯電話の普及率（スマートフォン含 む）				●	使用している台数ではなく普及率なので影響なし
【20】	住民 生活満足度	●	●			●	人口減少は行政・民間あらゆる面でサービス低下の要因となるため相対的に満足度は低下する
【21】	行政 ネットワーク道路の安全・快 適度	①道路改良率（累計値）				●	直接の影響はないが、長期的には税収減少の影響はある
		②道路情報板等の整備状況（累計値）				●	直接の影響はないが、長期的には税収減少の影響はある
		③交通事故発生件数（単年値）				●	高齢ドライバー人口が増えているうちは増加するがやがて車の台数自体が減少するため件数も減 少
【22】	行政 地元中高卒者の地元就職率	●				●	働く場そのものが減少すれば就職率は低下し、人手不足化もますます深刻化
【23】	行政 流域市町の子どもの人数（単年値）（四万十市、中土佐町、梶原町、津野 町、四万十町）	●	●				人口減に直接関係する要因
【24】	住民 川で遊んだ子どもの割合	●	●			●	【訂正前】 子ども自体の数が減ることに加え、川への関心も低くなっている 人数ではなく割合なので影響なし
【25】	住民 カヌー、SUP等を体験した子どもの割合	●	●			●	【訂正前】 子ども自らではなく、大人が体験させている項目なのですぐに影響が現れにくいが見れば減少する 人数ではなく割合なので影響なし
【26】	住民 川で魚やエビなどを捕ったことのある子どもの割合	●	●			●	【訂正前】 子ども自体の数が減ることに加え、川や生き物への関心も低くなっている 人数ではなく割合なので影響なし。また、関心は人口減と因果関係なし

令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測（案）

項 目 (番号・項目)		負の影響 (長期的)	負の影響 (短期的)	正の影響 (短期的)	正の影響 (長期的)	影響なし・ 不確定	予測される変化とその理由		
【27】	行政	子どもが自由に魚を釣れる場所数				●	人口減と因果関係なし		
【28】	行政	水生生物調査実施校の割合	●	●		●	学校側の問題。人口減により今後流域の校数が減り、分母が減ることによって増加する面もある		
【29】	行政	水質調査実施校の割合	●	●		●	学校側の問題。人口減により今後流域の校数が減り、分母が減ることによって増加する面もある		
【30】	行政	自然体験型修学旅行の実施校数（単年値）				●	人口減による校数減少の影響を受ける一方、子供を取り込む人気校の条件にもなり得そう		
【31】	住民	農家民宿等の軒数（単年値）	●	●			新たに開業する人がいなければ今後高齢化により減少する		
【32】	住民	四万十ブランド認証の認証件数	●				流域の一次産業が衰退すれば現在認証されている商品の維持や新たな商品開発も難しくなるため減少する		
【33】	住民	地産の状況（単年値）	①農協直売販売所等における地元農産物の販売額	●	●		農業人口の減少は地元農産物生産量に直接影響するため当然販売額も減る		
			②入漁券（日釣券）の販売額	●	●		全国的に釣り人口自体が減少		
【34】	行政	漁獲量（単年値）	アユの漁獲量				●	【訂正前】 採る量が減り資源の回復が見込まれる一方で採る人の人口も減る →漁獲高は人口だけの影響とはいえないが、人口減少に伴い川漁師も減ることによって漁獲高に負の影響を与える可能性がある	
			ウナギの漁獲量				●	【訂正前】 日本の人口が減っても国内の問題だけではないため資源の回復は見込めない。一方、採る人が減る影響は受ける →漁獲高は人口だけの影響とはいえないが、人口減少に伴い川漁師も減ることによって漁獲高に負の影響を与える可能性がある	
			アオノリの漁獲量					●	【訂正前】 四万十川でのスジアオノリの減少は乱獲の問題ではない。一方、ヒトエグサの生産量は人口減の影響を顕著に受ける。 →漁獲高は人口だけの影響とはいえないが、人口減少に伴い川漁師も減ることによって漁獲高に負の影響を与える可能性がある
			テナガエビの漁獲量					●	【訂正前】 採る量が減り資源の回復が見込まれる一方で採る人の人口も減る →漁獲高は人口だけの影響とはいえないが、人口減少に伴い川漁師も減ることによって漁獲高に負の影響を与える可能性がある



## 令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測（案）

項 目 (番号・項目)			負の影響 (長期的)	負の影響 (短期的)	正の影響 (短期的)	正の影響 (長期的)	影響なし・ 不確定	予測される変化とその理由
【35】	行政	公共事業における木材の利用状況（単年値）	①県有施設の木造化及び内装の木質化率					● 人口減と因果関係なし。ただし、林業が衰退すると県産木材自体が減る可能性はある
			①県有施設の木造化及び内装の木質化率					● 人口減と因果関係なし。ただし、林業が衰退すると県産木材自体が減る可能性はある
			②公共土木工事での木材利用量					● 人口減と因果関係なし。ただし、林業が衰退すると県産木材自体が減る可能性はある
【36】	住民	環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数（累計値）	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目	
【37】	住民	グリーンツーリズムの交流人口（単年値）	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目	
【38】	行政	環境活動リーダー・インタープリター等の人数	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目	
【39】	行政	交流人口の状況（単年値）	①四万十川（自然、景観、文化）を活用したイベント等の入込客	●				人口減少の影響を直接受ける項目
			②流域の自然等を生かした観光（学習）施設等の利用者数	●				人口減少の影響を直接受ける項目
			③流域の道の駅等の利用者数	●	●			県外客だけでなく、地元の人も多く利用している。出品される農産物や働き手が減る影響
【40】	行政	流域市町の人口（単年値） （四万十市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町）	①流域市町の人口	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目
			②県外からの移住者数					● 行政や地元の努力によっては移住者数を増やせる可能性
【41】	住民	伝統祭事の実施状況	祭事の実施数（累計値）	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目
【42】	住民	伝統漁法の実施状況	①伝統漁法の許可件数（単年値）	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目
			②舟大工の人数（単年値）	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目
			③川漁師の人数（単年度）	●	●			人口減少の影響を直接受ける項目
【43】	住民	博物館・資料館の入場者数（単年値）	●				博物館・資料館側の働き手が減ることによる間接的な影響	
【44】	住民	シンボリック伝統家屋等	●				家屋自体は変わらないが、維持できなくなれば減る可能性	

## 令和 4 年度目標指標に対する人口減少の影響の推測（案）

項 目 (番号・項目)		負の影響 (長期的)	負の影響 (短期的)	正の影響 (短期的)	正の影響 (長期的)	影響なし・ 不確定	予測される変化とその理由
【45】	行政 適正に管理保存された沈下橋数					●	行政の問題なので直接の影響なし (税込減の影響は受ける可能)
【46】	行政 伝統漁具の保存					●	現在保存されている伝統漁具に変化はない
【47】	行政 有形・無形民俗文化財数、史跡・名勝・天然記念物数					●	人口減と無関係。災害等で消失する等すれば減少するが新たに指定されなければ増えない
【48】	行政 重要文化的景観選定地区における重要構成要素の箇所数	●					人の暮らしや営みによって維持されている景観要素は減少
【49】	行政 文化財等の活用状況	●	●				人が減れば活用する機会も減る
【50】	住民 エコカー（低公害車）の保有台数（単年値）					●	どの位のスパンで見えるかによって異なる。しばらくは増えるがやがて減少
【51】	住民 ゴミの排出状況（単年値）	①流域住民 1 人当たりの 1 日のゴミの量				●	個人の生活の仕方の問題で直接関係なし
		②ゴミのリサイクル率		●			人口が減るとリサイクルコストが上昇し、採算がとれなくなる可能性が高い
【52】	住民 生ゴミのたい肥化への取組状況	●					たい肥化に取り組む人自体が減少する
【53】	住民 レジ袋削減に「みんなマイバッグ」の取組状況					●	人口減による影響ではなく、国の施策の影響を受ける。 (人口が減ればレジ袋使用量は減る)
【54】	行政 新エネルギーに関する自家発電設備の設置率					●	売電よりも災害対策で普及率が高まると予想されるが、人口減と直接関係しない
計		40	29	0	7	37	

# 令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測について

「人口減少による令和4年度目標指標への影響(案)」で、人口減少の影響を推測

推測した人口減少の影響を更に正または負、短期的、長期的で一覧しやすくまとめたのが「【資料2-3】令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測分類表(案)」です。

影響(分類)	影響	影響
		1 高学歴者の増加率(19歳以上の平均値)(短期)
		1 高学歴者の増加率(20歳以上の平均値)(短期)
		2 高学歴者の増加率(19歳以上の平均値)(短期)
		2 高学歴者の増加率(20歳以上の平均値)(短期)
		3, 4 生涯平均の学化率(19歳以上の平均値)
		21 ネットワーク接続の普及率(19歳以上の平均値)
		5 知能・ITリテラシーの普及率
		11 森林資源の確保状況(19歳以上の平均値)
		11 森林資源の確保状況(20歳以上の平均値)
		22 地方自治体の財政健全化率
		32 町のトップブランド登録の増加率
		33 立地人口の状況(短期)
		33 立地人口の状況(長期)
		33 立地人口の状況(短期)
		33 立地人口の状況(長期)
		43 労働力・労働者の確保率(短期)
		44 シンボル創出の増加率
		47 文化振興の状況
		51 2025年までの人口減少率(短期)
		51 2025年までの人口減少率(長期)
		55 全世代型社会保障への投資状況
12 国産食品消費の実況状況(19歳以上の平均値)		
12 国産食品消費の実況状況(20歳以上の平均値)		
13 リサイクル率(19歳以上の平均値)		
14 緑化率の向上		
15 新・時代の指標		
16 新たな指標		
20 生活満足度		
25 子育て世代の子どもの人口(短期)		
26 高齢者の割合(短期)		
30 地域の状況(短期)		
30 地域の状況(長期)		
36 国産食品消費の実況状況(19歳以上の平均値)		
37 オンラインサービスの利用人口(短期)		
38 国産食品消費の実況状況(20歳以上の平均値)		
39 女性の人口状況(短期)		
41 社会福祉の実況状況(19歳以上の平均値)		
42 国産食品消費の実況状況(20歳以上の平均値)		
42 国産食品消費の実況状況(20歳以上の平均値)		
42 国産食品消費の実況状況(20歳以上の平均値)		
48 国産食品消費の実況状況(20歳以上の平均値)		

この表から読み取れるのは、以下の3点です。

- ・ 正の影響より負の影響が多い
- ・ 正の影響は長期的なものに限られる
- ・ 負の影響は短期的・長期的の両方で出現する

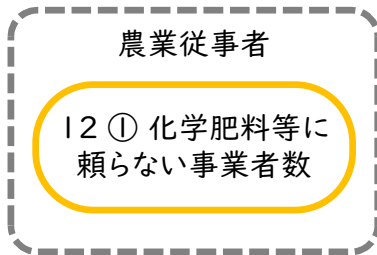
# 例：農業従事者減少の影響の推測

「令和4年度目標指標に対する人口減少の影響の推測 分類表(案)」だけでは、それぞれの関わりが見えづらいので、農業従事者の減少による影響を例に順を追って説明します。

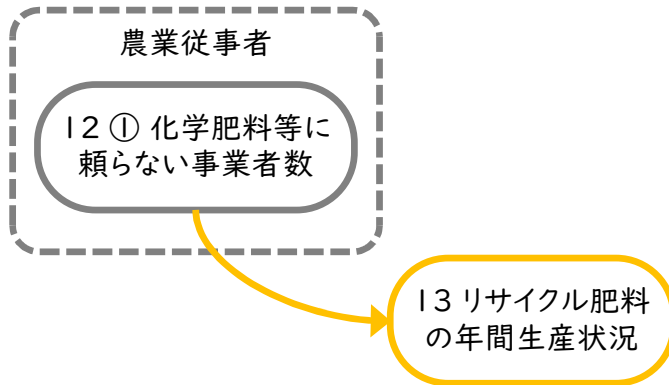
目標指標になっていない項目については「農業従事者」のように枠を点線で表現しています。

なお、影響は可能性レベルで、大小は考慮していません。また、この段階では、新規参加者は考慮しません。

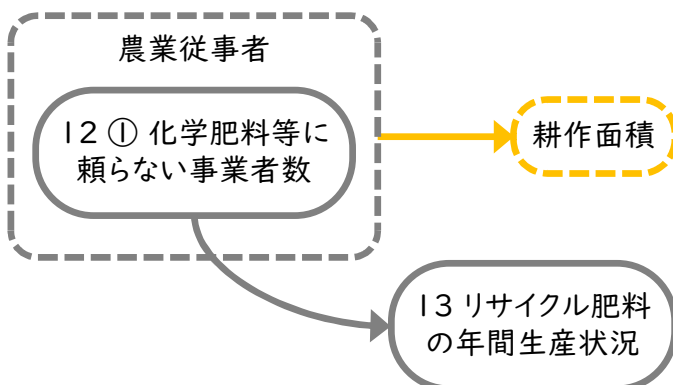
- ① 農業従事者には「12 ① 化学肥料等に頼らない事業者数」が含まれますので、そちらも減少する可能性があります。



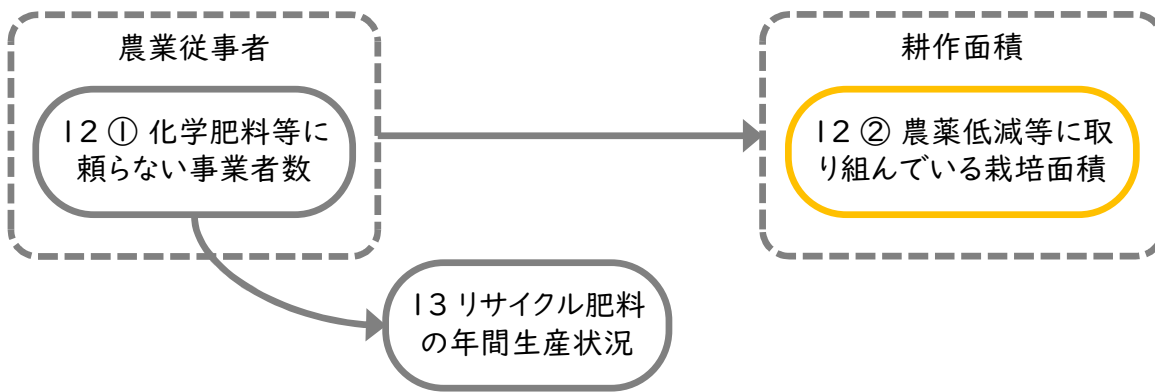
- ② 「12 ① 化学肥料等に頼らない事業者数」が減った場合、「13 リサイクル肥料の年間生産状況」が減少する可能性があります。



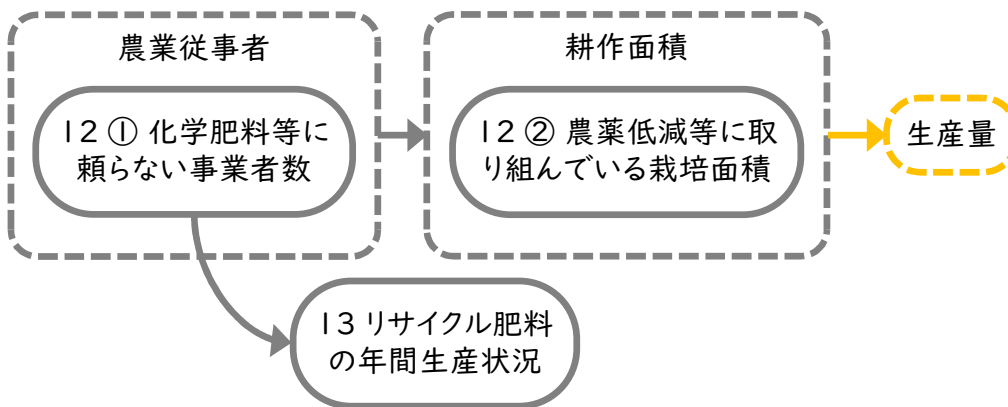
- ③ また、農業従事者の減少は、耕作面積の減少につながる可能性があります。



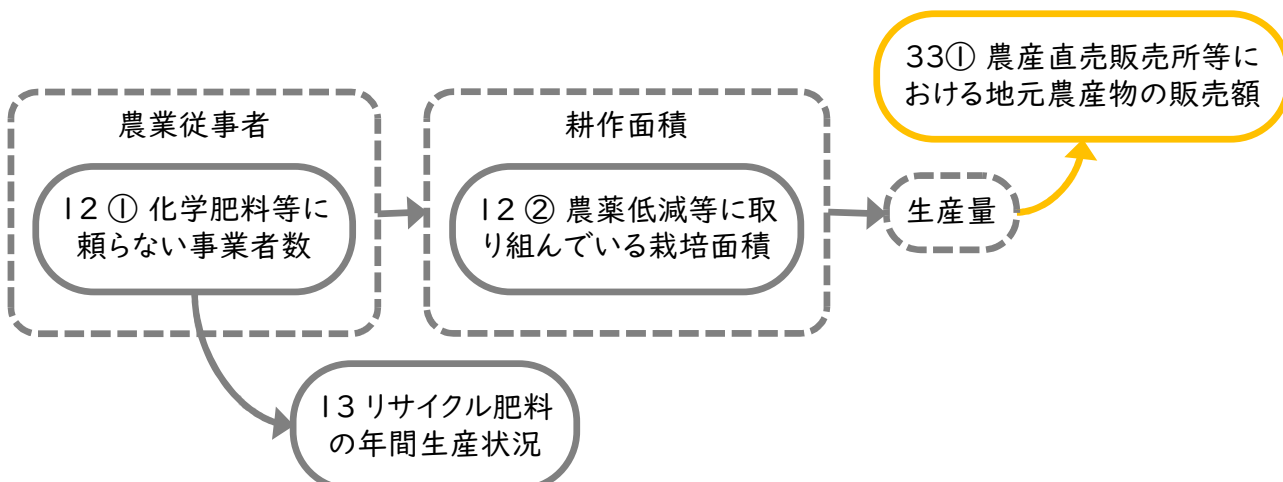
④ 耕作面積には「12② 農薬低減等に取り組んでいる栽培面積」が含まれますので、そちらも減少する可能性があります。



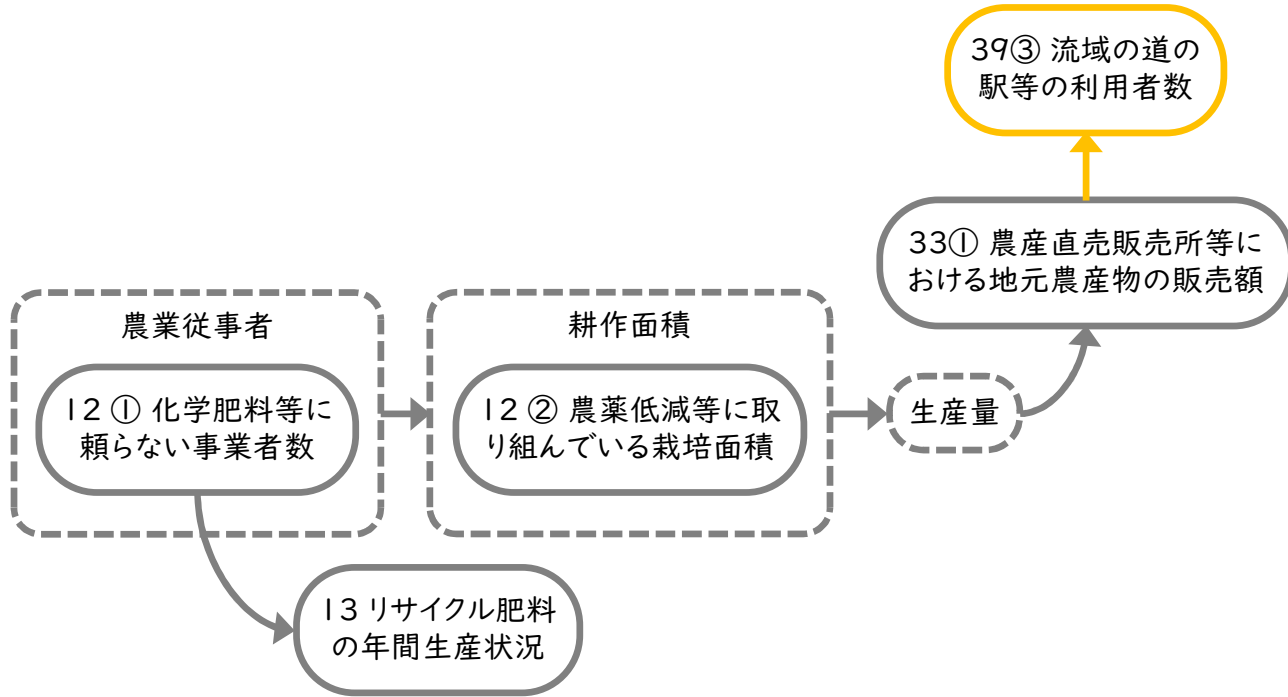
⑤ また、耕作面積が減少することによって生産量も減少する可能性があります。



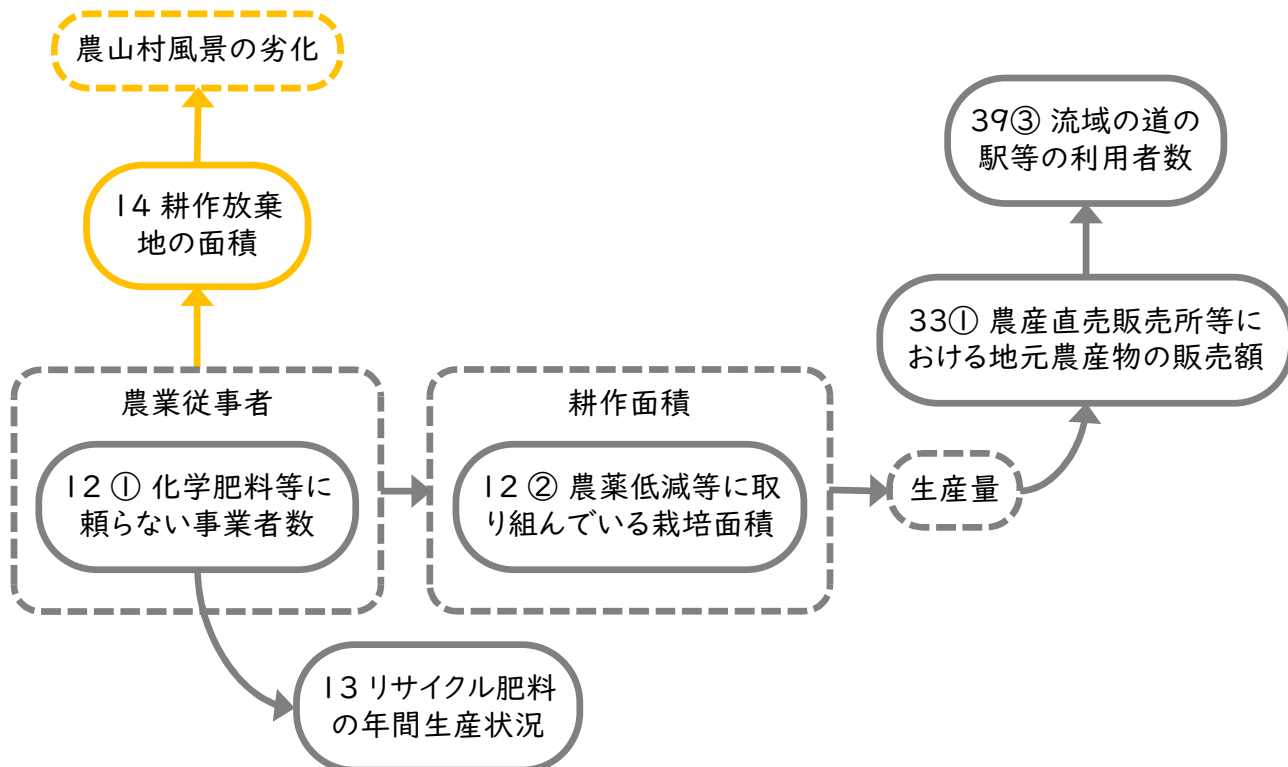
⑥ 生産量の減少は、「33① 農産直売販売所等における地元農産物の販売額」が減少する可能性があります。



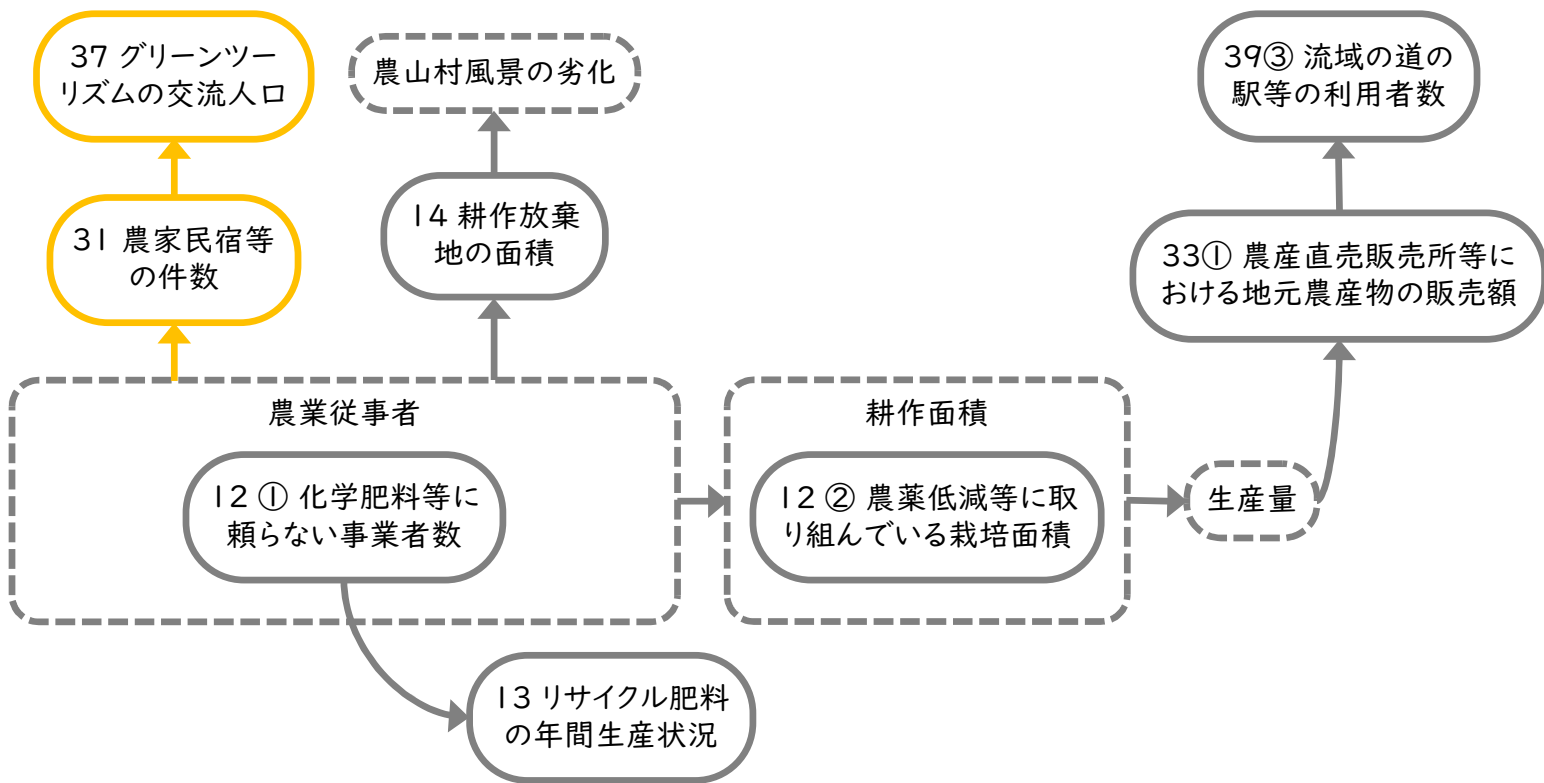
⑦ 「33① 農産直売販売所等における地元農産物の販売額」の中には、道の駅での地元農産物販売額が含まれています。道の駅を訪れる目的のひとつに地元農産物の購入が考えられることから、「39③ 流域の道の駅等の利用者数」が減少する可能性があります。



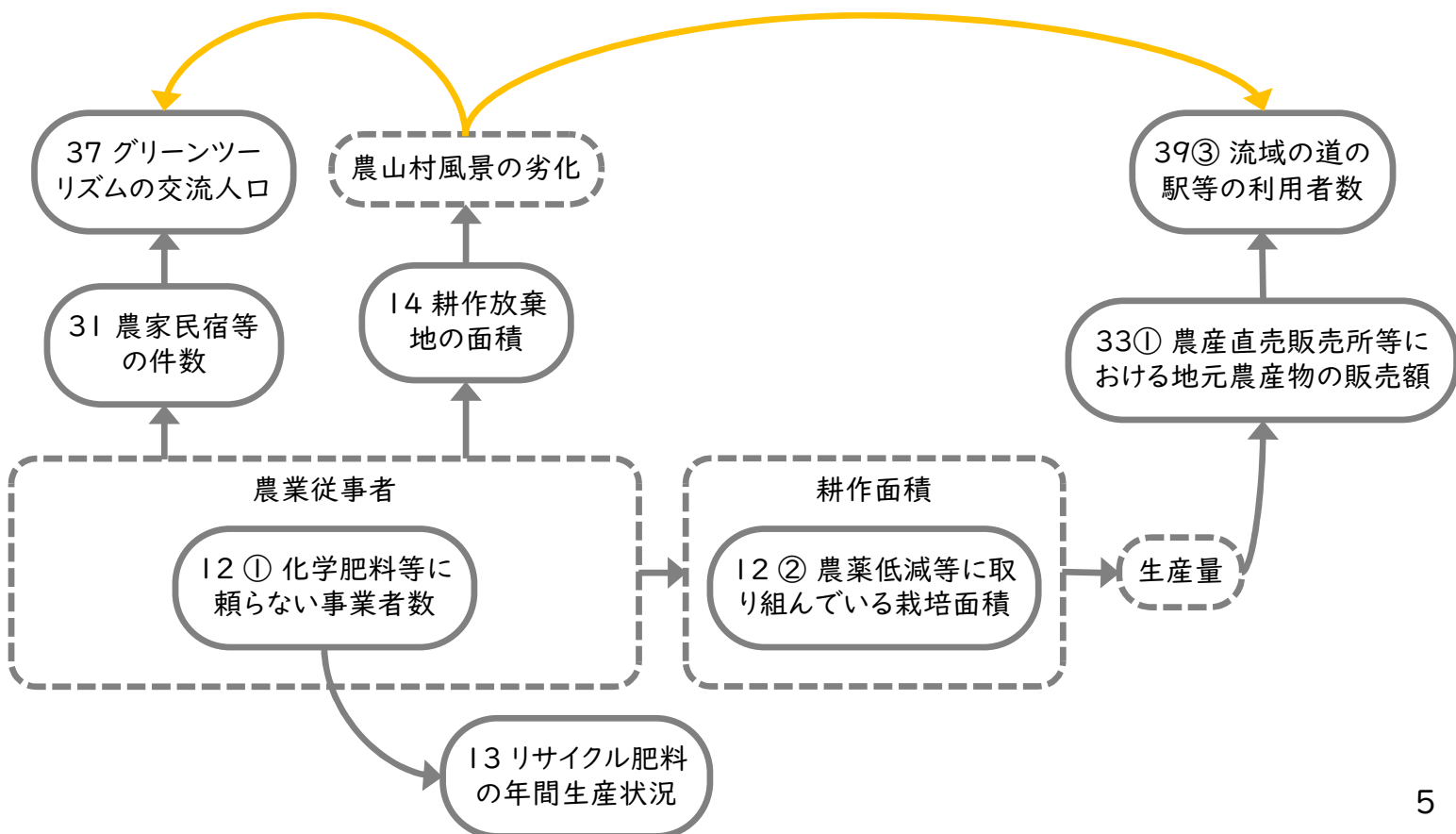
⑧ 農業従事者の減少により、「14 耕作放棄地の面積」が増える可能性があり、その結果、農山村風景の劣化につながる可能性があります。



⑨ また、農業従事者の減少は、「31 農家民宿等の件数」が減少する可能性があり、その結果、「37 グリーンツーリズムの交流人口」の減少にもつながる可能性があります。

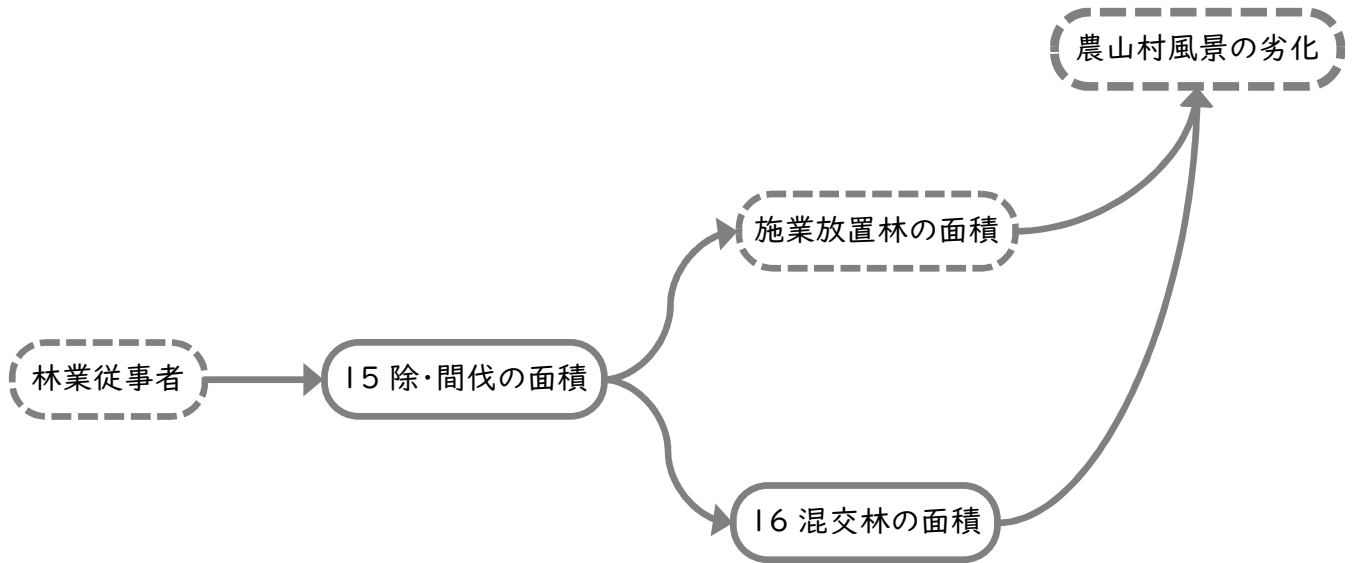


⑩ なお、農山村風景の劣化は地域の魅力を損なうことにつながるため、「37 グリーンツーリズムの交流人口」や「39 ③ 流域の道の駅等の利用者数」の減少につながる可能性があります。

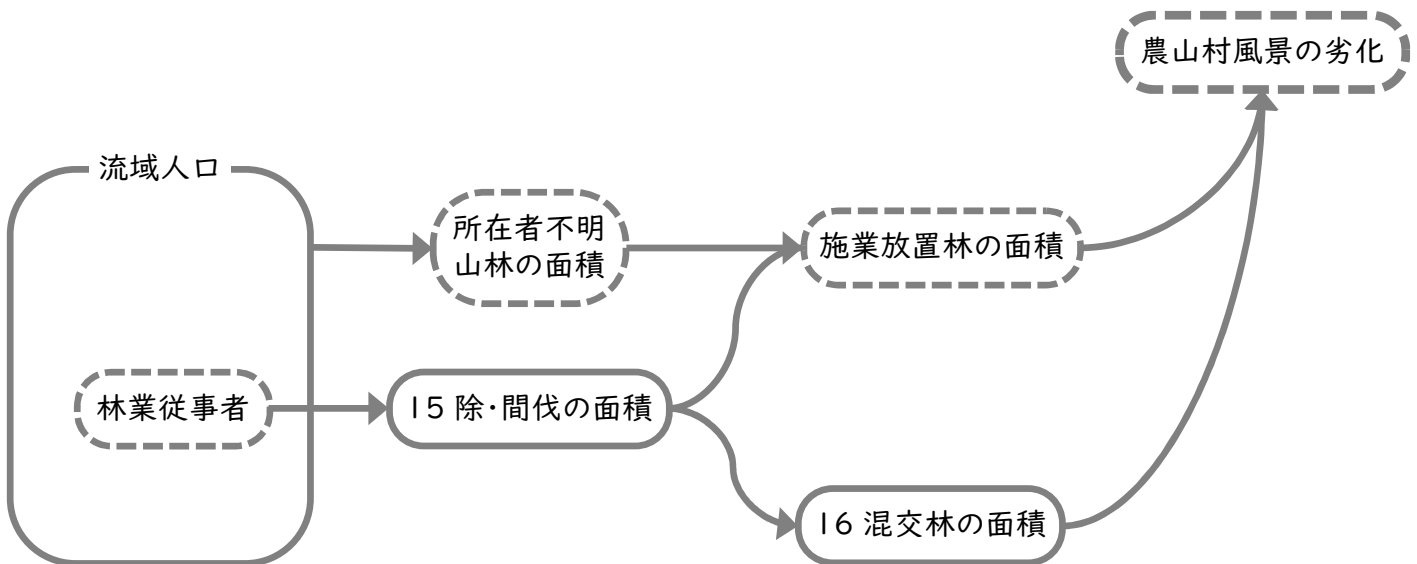


# 林業従事者減少の影響の推測

- ① 同様に林業従事者の減少は、施業放置林の面積の増加や「16 混交林の面積」の減少に影響が出る可能性があり、その結果、農山村風景の劣化につながる可能性があります。



- ② なお、流域人口が減少し、所在者不明の山林の面積が増えれば、施業放置林の面積増加に影響が出る可能性があります。

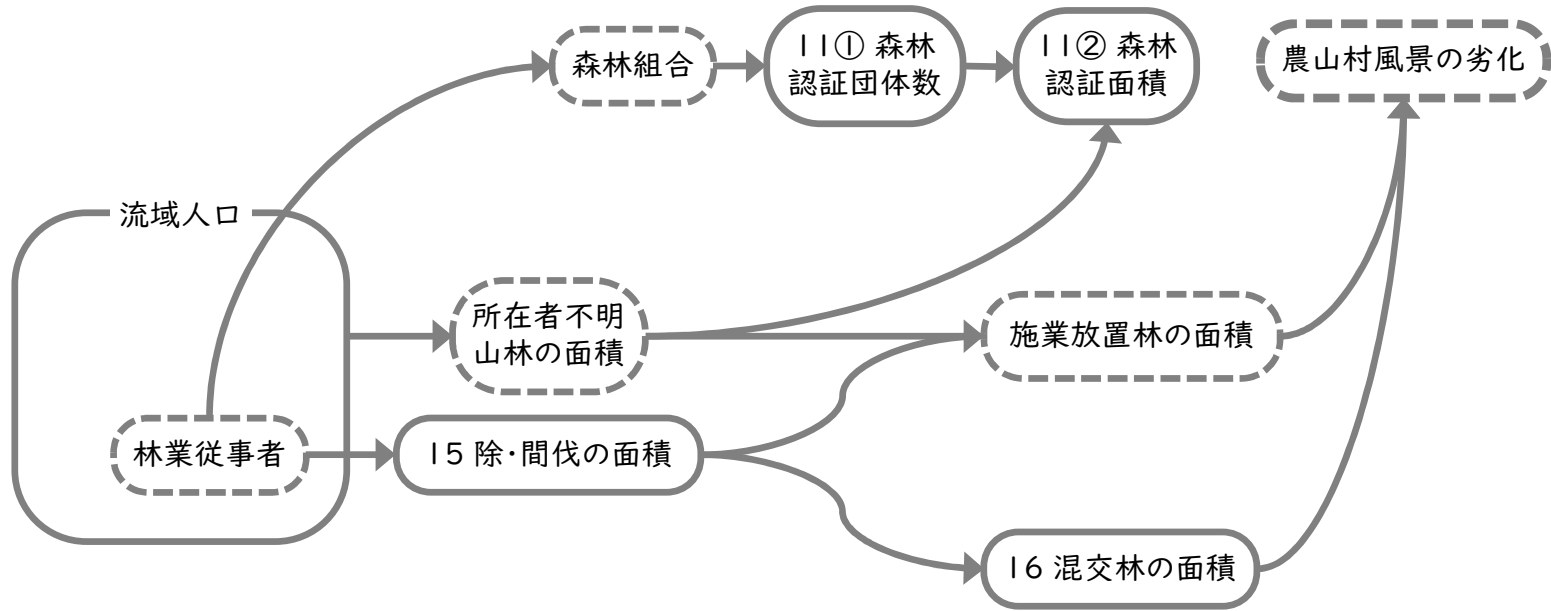




## 林業従事者減少の影響の推測

⑬ また、林業従事者の減少は、森林組合の事業にも影響が生じ、「11① 森林認証団体数」「11② 森林認証面積」が減少する可能性があります。

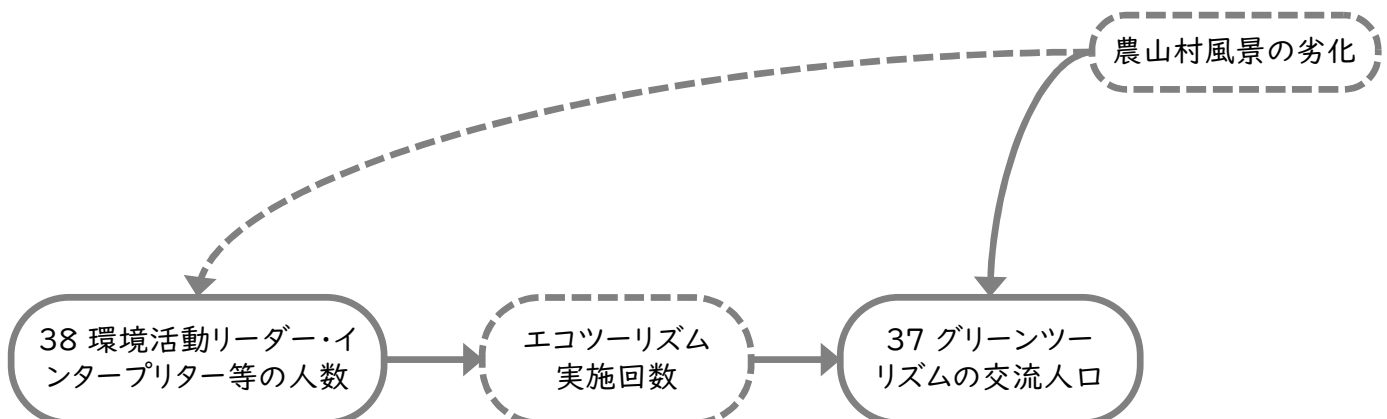
なお、所有者不明山林の面積の増加は、「11② 森林認証面積」が増えない要因となる可能性があります。



## 環境活動リーダー・インタプリター等減少の影響の推測

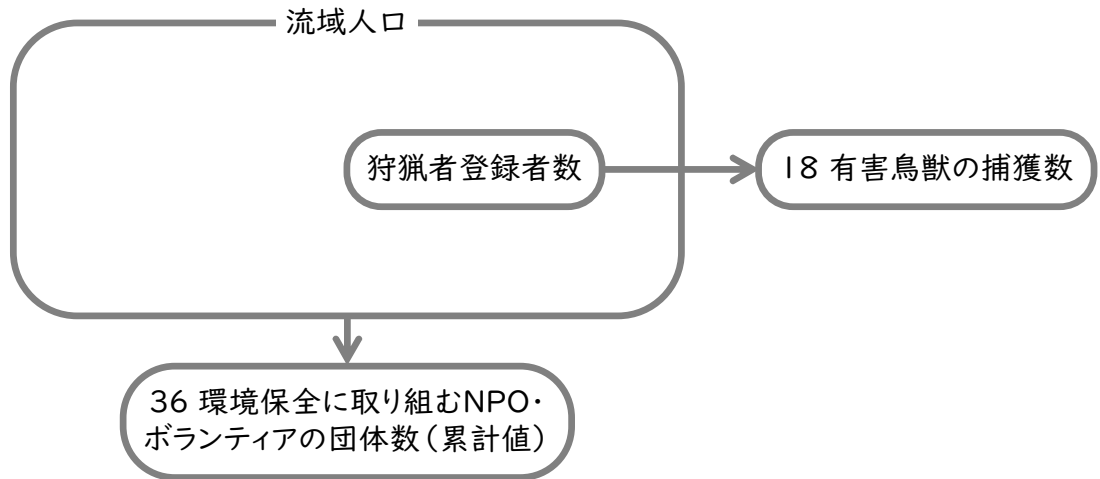
⑭ 環境活動リーダー・インタプリター等の減少は、エコツーリズムのガイドとして活動している場合には、「37 グリーンツーリズムの交流人口の減少につながる可能性があります。

なお、農山村風景の劣化は、初期段階では保全意識の醸成につながって環境活動リーダー・インタプリター等の増加につながる可能性があります。その一方で、農山村風景の劣化の歯止めにつながる活動が見いだせない場合や、実施した活動の成果が劣化の歯止めにつながらなかった場合は減少につながると考えられます。



## その他の影響の推測

- ⑮ そのほか、流域人口の減少が農山村風景の劣化に関係する可能性があるものとして、「36 環境保全に取り組むNPO・ボランティアの団体数(累計値)」や狩猟者登録者数の減少による「18 有害鳥獣の捕獲数」があります。



# OECMを活用した 生物多様性保全について

- 2021年のG7サミットでは、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」や、生物多様性の観点から2030年までに陸と海の30%以上を保全する「30by30目標」に取り組むことを約束
- 国内の30by30目標達成に向けて、COP15に先立ち「30by30ロードマップ」を策定 **4/8公表**
- 次期生物多様性国家戦略（年度内閣議決定予定）に「30by30目標」を組み込み

## 30by30ロードマップのポイント

- 国立公園等の保護地域の拡張と管理の質の向上
- 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域（OECM）の設定・管理
  - 自然共生サイト（仮称）の認定
  - 海域OECMの検討
  - 生物多様性の重要性や保全活動の効果の見える化（モニタリング機能の付加含）
  - 自然再生や管理手法等のマニュアルの提供
  - クレジット化等のインセンティブの検討 等



# 令和4年度 認定の仕組みの試行（認定実証事業）

---

- ・ 認定基準や審査プロセスを試行的に運用し、現実に運用した場合に、どのような課題があるかを洗い出し、令和5年度からの本格運用に向けて必要な修正を行う。
- ・ 前期（5～8月）、後期（9～12月）の2回に分けて実施

## 【自然共生サイト（仮称）試行協力サイト】

前期：23サイト

うち高知県内

- ・ 王子の森／木屋ヶ内山林 … P3  
王子ホールディングス株式会社・四万十町

後期：33サイト

うち高知県内

- ・ 結の森 … P4～6  
コクヨ株式会社・四万十町
- ・ 「四国山地緑の回廊」の連携に係る協定の対象森林（仮）

【場所・面積】 高知県高岡群四万十町 面積：258.63 ha

【区域の目的・概要】

ヤイロチョウが生息できる環境を保全するため、2016年8月、公益社団法人生態系トラスト協会と「ヤイロチョウ保護協定」を締結。以降、生態系調査のフィールドを提供し、調査利用を主な目的とした歩道敷設の支援、自治体・ステークホルダーとの意見交換の実施、情報発信の場の提供などを実施。申請サイトは1.3haの照葉樹林以外はヒノキを主とする人工林。

【生物多様性の価値の概要】

価値6：環境省レッドリスト絶滅危惧 I B類（EN）に指定されたヤイロチョウが繁殖していることを現地調査によって確認。

価値9：社有林近傍の森林を保有する公益社団法人生態系トラスト協会と保全協定を結ぶことで、ヤイロチョウの生息地の連結性を高めるとともに、ヤイロチョウの天敵を捕食するクマタカの生息環境を保全。

【管理措置の概要】

・社内規定の「環境保全林設定要領」に則り、木屋ヶ内山林は全域を環境保全林に設定。環境保全林では、積極的な経済行為を行わず、環境保全・生物多様性の保全の観点から、必要な保全管理を実施。申請サイトが区分されている環境保全林は、原則として人手を加えない。保護協定締結以後、木屋ヶ内山林内では林業施業は行っておらず、生態系調査利用を主目的とした生態系トラスト協会の自然観察歩道整備のみへの協力（2019年度、2021年度）を実施。

・絶滅危惧種ヤイロチョウ生息状況を中心に年に複数回、生態系トラスト協会が実施（状況に応じて、土地所有者、管理責任者が同行）。その結果を土地所有者、管理責任者に報告（1回／年）。



【場所・面積】【サイトの位置(高知県高岡郡四万十町大正地区)】。【面積】5,430ha

### 【管理目的】

人工林、自然環境と地域社会の再生及び、間伐材の有効活用をすることで「環境と経済の好循環」を目的としている

### 【サイト概要】

四万十町大正地区は、江戸時代からヒノキ、スギ、榎などの良質材の山地とられ、かつては北幡一の林業の町として大いに賑わった。人工林面積は、35年生から40年生までが主体の森林であり、人工林の主な樹種別構成はヒノキ66%、スギ28%、くぬぎ・ナラ6%となっている。

### 【サイト周辺の状況】

高知県四万十町大正地区は幡多郡の「北幡地域」に位置し、平野は四万十川、栲原川沿いにわずかに見られるが、そのほとんどを山林が占めている。現存植生は、ほぼ全域が、暖温帯上部に属しており、二次林（アカマツ林）・（シイ、カシ萌芽林）とスギ・ヒノキ等の植林地が混在している。また、モミ・榎を主とした天然原生林の四国西部の宝庫といわれる四万十町内は、貴重な風景林や学術保護林も多くみられる。動物相については、気候の多様性に伴い多様な種が生息しており、栗鳥のヤイロチョウも渡来する。

### 【土地利用の変遷】

高知県四万十町大正地区は、江戸時代からヒノキ、スギ、榎などの良質材の山地とられ、かつては北幡一の林業の町として大いに賑わった。地区内の人工林は35年生から40年生までが主体の森林であり、人工林の主な樹種別構成はヒノキ66%、スギ28%、くぬぎ・ナラ6%となっている。また、天然林はアカマツ、ミズナラ、スダシイ、コナラなどが分布している。森林土壌は、ほぼ全域を四万十帯北帯に位置し、中生代白亜紀の地層からなる。日本の他の地域のような火山灰層の分布はあまりみられない。

### 【活動のアピールポイント】

2007年よりFSC®（Forest Stewardship Council®森林管理協議会）の森林認証を取得しており、現在、対象面積は5,430ha、累計間伐面積が1,989haまで拡大している。また、2007年より、高知県から「CO2吸収証書」が交付されており、2021年度単年では4,699t-CO2、累計では72,089t-CO2になっている。

（期間：2006年4月～2022年3月）また、四万十高校生を中心に、間伐後の植生調査、四万十川の清流調査を実施している。




### 区域全体図・写真①



### 区域全体図・写真②




【生物多様性の価値、管理内容およびモニタリングの概要(1/2)】

生物多様性の価値	生物多様性の価値の概況	管理内容	モニタリング概要
<p>(4)</p>  <p>【植生調査】</p>	<p>【健全性】 2021年調査段階では 草本層の種類数： C地点35種、D地点：27種 低木層の種類数： C地点10種）、D地点12種 高木層はC地点 D地点ともに スギ、ヒノキの 2種となっている。</p>	<p>FSC®森林認証の取得を2007年より維持している 保全地帯は、森林生態系の保全、野生動物植物の保護、種の多様性的機能をもたせながら又は、単独で設定し、区域面積は、対象森林のおおむね10%目途に、自然景観や生物多様性の維持、向上を主たる目的として設定している</p>	<p>①実施体制について 間伐後の植生の変化を監視するため、四万十高等学校、高知県、四万十町などの協力を得て毎年11月に2地点で植生調査を実施し、ホームページで公開している</p>
 <p>【FSC®審査】</p>	<p>【生態系サービス】 ◆森林機能、例えば水源涵養機能の発揮の維持、向上のため計画的に間伐を進め、その間伐材の有効利用を促進している。 ◆間伐を促進することでCO2吸収量が増加し、地球温暖化防止に貢献している。</p>	<p>1) 維持、管理に関する事項 ①伐採方法について ・保全地帯は、原則としては、禁伐とする。しかし、一部に介在する人工林については、設定箇所の状況を考慮のうえ、自然環境に配慮した伐採方法（択伐又は小面積、分散的皆伐）とする。 ・営巣、採餌、隠れ家として重要な古木や、枯損木等については、管理上支障がないものは保残とする。</p>	<p>②情報提供について モニタリングの結果得られた知見は管理計画等に反映させるとともに、県、研究機関等へ情報提供に努めるものとする。 ③国有林との連携</p>
 <p>【CO2吸収証書】</p>		<p>②林地開発の規制について 生態系保全地帯における開発行為は、設定の趣旨から慎重に対応するが、特に公用、公共用など公益性の高い事業については、保全地帯への影響度合い等を検討のうえ対応するものとする。</p>	



【生物多様性の価値、管理内容およびモニタリングの概要(2/2)】

生物多様性の価値	生物多様性の価値の概況	管理内容	モニタリング概要
<p>(6)</p> 	<p>「大正地域の自然環境」という書物において、地域固有性が高く、かつ絶滅のおそれが危惧される特に保護上重要とされる動植物を数種に限定して記載した。これらの種が実際林地で確認されることは、少なく、また種の確認については、かなり専門的な知識が必要とされる。</p> <p>1 保護の対象となる動植物</p> <p>(1) 植物</p> <p>①草本 エビネ、カンラン</p> <p>(2) 動物</p> <p>①哺乳類 ヤマネ</p> <p>②鳥類 クマタカ、ヤイロチョウ ハイタカ（左写真。'22年11/17撮影）</p> <p>③淡水魚 オオウナギ</p> <p>④昆虫類 コガタノゲンゴロウ</p> <p>（'22年11/17に、申請区域に隣接するダム湖等においてオシドリ（環境省RLのDD）、ノスリ（高知県RDBのVU）、ルリビタキ（高知県RDBのNT）を確認）</p>	<p>保護対象となる動植物保護手順</p> <p>(1) 対象となる動植物の確認</p> <p>(2) サブマネージャーに報告する。</p> <p>(3) サブマネージャーが高知県自然共生課に連絡し、（必要ならば牧野植物園、のいち動物園の専門者の意見を聞く）保護方法を決定して現場担当者に指示する。</p> <p>(4) 現場担当者が保護処置を講ずる。</p> <p>大正地域で保護すべき野生動植物についてリストアップしたところであるが、これらの種のすべてが実際林地で確認されることは、少なく、また種の確認については、かなり専門的な知識が必要とされる。</p>	<p>野生動植物の生息、生育状況及び環境変化の動向等について、定点で写真を年1回とり、変化があれば調査を行う</p>

# 【参考】「生物多様性保全上重要な里地里山」選定地一覧(抜粋)

参考資料3

生物多様性保全上重要な里地里山:さまざまな命を育む豊かな里地里山を、次世代に残していくべき自然環境の一つであると位置づけ、2015年に環境省が選定(500か所)

## 【選定基準】

基準1:多様で優れた二次的自然環境を有する。

基準2:里地里山に特有で多様な野生動植物が生息・生育する。

基準3:生態系ネットワークの形成に寄与する。

都道府県	No.	市区町村	名称	選定基準		
				基準1	基準2	基準3
高知県	39-1	四万十市	トンボ自然公園(池田谷)	○	○	-
	39-2	高岡郡中土佐町	大野見	○	○	-
	39-3	高岡郡梶原町	上流域の山村と棚田	○	○	-
	39-4	高岡郡日高村	鹿見地区周辺	○	○	-
	39-5	高岡郡四万十町	四万十川上流域	○	○	-
	39-6	〃	大正中津川地区	○	○	○
	39-7	〃	大正下津井地区	○	○	-
	39-8	〃	三島地区の水田	○	○	-
	39-9	〃	四万十川中下流域(里川)	○	○	-
	39-10	幡多郡大月町	橋浦(大洞山北西部)	○	-	○

- ・ 「重要里地里山」の選定により、地域の人々の暮らし、農林業の営みや土地の利活用等に対し新たな制約や規制等を生じさせるものではない
- ・ 各主体に、これまでと同様の方法で里地里山を管理し続けることを義務付けるものでもない